星からのメッセージ

星からのメッセージ

シロキ カヨコ

ソラ星出版株式会社

スニキミヨ改め

毎日の暮らしが
何を目的として
生きているか
ということによって
分けられる
人間の使命

このことによって
目覚めて
毎日を楽しく
なすべきことをして
生きていくことが
大切なのです。

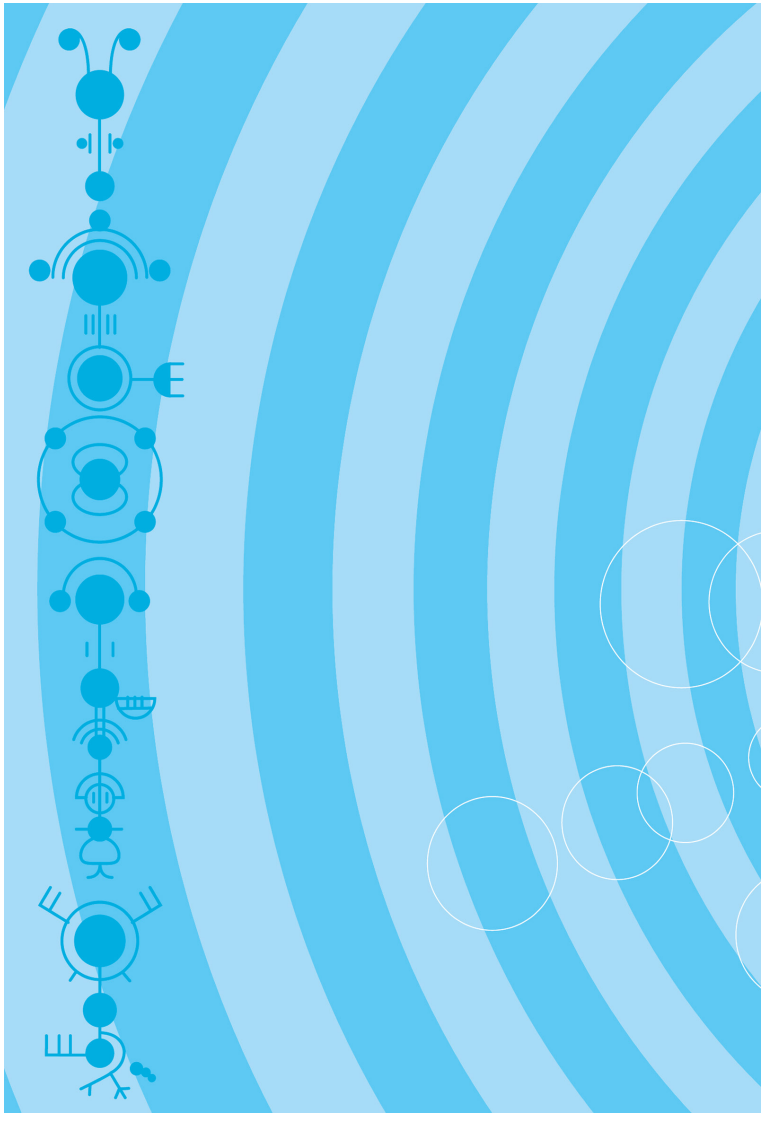
あとがきより

おもしろおかしい
物語では
ありません。
真実を
お伝えしているのです。
（名のない星より）

星(ソラの意識体)
から知らされた
メッセージ集
信じるか
信じないかは
読者の皆様が
お決めください。

星からのメッセージ

カバーデザイン ovd*



星からのメッセージ

シロキ　カヨコ
（スニキ　ミヨ）
Shiroki Kayoko

ソラ星出版株式会社

出版にあたって

この電子版「星からのメッセージ」は、２０００年４月に発行された書籍版「星からのメッセージ」を、内容を一部変更して電子化したものです。

初期の頃のチャネリング内容で、当時のチャネリングの言葉をほぼそのままで掲載しています。文中の「M」は人間を支配する悪い意識の集合体（マのモノ）のことです。現在のチャネリングの内容とは異なる箇所もありますが、メッセージの大きな流れは変わっていません。また、最新の「地球の謎とき」物語を理解する上でも重要なキーワードが、この本にちりばめられています。

最新のチャネリング内容につきましては、弊社発行の本やホームページをご覧下さい。

はじめに

私が見えない世界に惹かれたのは、結婚をしてすぐに病気になり、子供をあきらめるように言われてからでした。あらゆる療法を試み、最後にドクターの元で断食療法をし､生きる本能とともに何かがあると気づきました。そして組織、宗教とは関係のない見えない存在にお願いをしてから、元気な２人の子供に恵まれました。

子供の手が離れ看護婦としていわゆる老人病院で働き始めましたが、患者さんはまったく意識がなくても何か教えてくださっているという思いが絶えずいたしました。そしていわゆる尊厳死について考えるようになり、それから精神科に変わりました。見えない存在を信じた者にとって現代の精神科学が絶対という雰囲気の中で勤めることはとても辛いものでした。

幻視、幻聴があったというだけで本人も周りの者も精神異常者と思い込み続けます。そして自分を憎むか、他人のせいにするようになり悪循環が繰り返されると思いました。ちょうどその頃「前世療法」という本に出会い、催眠療法に惹かれました。苦しんでいる患者さんに、せ

めてリラクゼーションや自己暗示の誘導ができるようになると少しでも楽になられるのでないかと思いました。

　ある不思議なことがあり、ヒプノセラピストの資格を取ったのですが、病院内ではヒプノという言葉すら言ってはいけないと言われました。内緒でリラクゼーションをしたのですが、見事に追加の薬も飲まずよく眠られましたし、不安感の強い時は症状が落ち着きました。隠れてするのが嫌なのと厳しい管理の元での勤めを辞め、それからはニューエイジの考えで至福感に満ちあふれた毎日を過ごしていました。何年か前から不思議な人物､物､出来事に出会い、また、夢を見ていました。その中に私の在所にある星の宮の神社の下の道に電信柱が倒れて先に進めない夢や、星の宮神社の階段で人が倒れている夢を見ていましたが、それがこれからお話しする社大なドラマを予知するとは思いもよりませんでした。そしてある朝、頭頂部がサワサワとした感じがあり、触るとかすかに痛みがあり、突然とてもハッキリとした言葉が聞こえ出したのです。とても高圧的で命令に従わないと永遠に地獄の炎で焼かれるというすぎましいことを言われ続け、綾部に行かされました。そして丁度出口ナオのよう

なことをさせられ薬を服用し、ょうやく解放されました。その後、出口王仁三郎が降りてきて「大難は小難に変わったので世間に発表せよ」と言われたので、言われるまま２、３の手紙を出しましたが全く相手にされませんでした。

あまりの恐怖の体験の辛さにすべてを忘れたく娘とギリシャ旅行に出かけましたが、ひどい鬱のため何ら素晴らしさを感ずることがありませんでした。ミコノス島でバスに乗っていると突然「イエスです……」と話しかけられましたが、それはまったく、思ってもいないことでした。そして次々と知らされていったのです。なぜこのようなことが始まったかというと、白色星団という太陽系の惑星が霊たちにエネルギーを与え、甦らせたためでした。なぜかというとこれまで地球の霊界はＭという恐怖の想念をエネルギーとするグループに支配されていたが、Ｍがいなくなったので平和な地球にするためと言われました。ただ伝えただけでは信じてもらえないのでこれまでナゾとされていたことを明らかにすることで人類に目覚めてもらうつもりとも言われました。霊たちは白色星団から思い出したことを話すように言われたと、た

どたどしい言葉で話しかけてきました。言葉は支配されていた時は、頭に聞こえてきましたが、次第に口がかすかに動き、言葉になりました。メッセージは霊たちがハッキリと、思い出せなかったり、当てはまる言葉がなかったりしてすべてが正しいかはわかりませんので、そのことを片隅に置いてお読みくださいますようお願いいたします。

また、霊は何回も生まれ変わっていることを思うと、年代があわないという疑問は解けるのではないでしょうか。

それではこれまで知らされたメッセージをできるだけ忠実にお伝えいたします。意味の分からないものもたくさんあります。何回問い直しても分からないのや、眠くてそのまま書いているからです。霊の記憶がバラバラに甦るので、日付は気にしないでください。

メッセージの概略

(1) 星からのメッセージ

はるか大昔､宇宙神（星の宮）は大元（愛のエネルギー体）から命ぜられて自動的に発生する星をきれいな三日月の形に並べていた（ミステリーサークル 7 の図参照)。並べられるのが嫌な星たちが出てきて、星の宮は地球のあるところ（星原）に降りて 1998 年まで､眠っていた。地球は宇宙の中心であるが、人類に火を与え自分たちで進歩させるか、あくまで地球を支配して思うように操るかということで星間で争いになった。そして地球を支配し､人間の恐怖の想念をエネルギーとするM（黒色星団）が勝ち、その時の争いの星の残骸が天の川を作った。その時オリオンと乙女座が別れさせられ、七夕の物語が生まれた。宇宙神は大人しい存在であり何も手出しをしなかったので、1998 年までMが地球を支配していた。宇宙神は人間の誰からも忘れられた存在となっていた。人類に知恵を与え、自ら進歩するように遠くから手助けをしていた白色星団は太陽系の惑星で構成されており、その他射手座、イーグル星、オリオンもグループに人って

いた。

（2）アトランティスからのメッセージ

星間でごたごたしていてまだMの支配が及ばない次元にアトランティスの国が作られ、天国のような暮らしをしていた。地球の周りに水の膜があり優しく包んでいた。雨は降らなくても水は充分にあり１年中温かで、労働はアンドロイドがしてくれた。アンドロイドは人間とそっくりに作られ、とても優秀であった。エネルギーは水晶から得ていたため公害はなかった。アトランティス人も次第におごり高ぶり、アンドロイドの若者によりエネルギーの爆発で島は沈没する。アトランティスの保養地であったネバラスト（バミューダ）の島も沈没し、アストリーニ（サントリーニ島）は一部を残し沈む。その後、Mが妬んで水の膜を壊してから地球はとても住み難くなった。それで、こと座からヤハウェーとトヨウケが降りてきて、人類の進歩に手助けをした。

（3）イシカミからのメッセージ

しばらくして射手座からイシカミという巨人が降りて

きて、落とし物で巨石文化やピラミッドを作った。柔らかいおもちのような身体のイシカミから、引力によりしずくのように落ちた物を〝落とし物〟と言い、しばらくすると岩になった。落とし物が雨に打たれたのが、ざざれ石や高砂の言葉の元である。磐座はイシカミの落とし物で御神体とされ、Mも手が出せなかった。イシカミの遺体は山となったのもあり、山の神のいわれでもある。地球では引力が強く、また食べ物がないためイシカミはとても生きるのが困難で、泣いて過ごしたが、とても優しい心の持ち主であった。人間のためいろいろとためになることを教えたが、食べ物がないため可哀想なことをしたとも泣いて謝っていた。ピラミッドはパワーを得るため世界中に降りたイシカミが作り、落とし物は柔らかかったのでピラミッドやストーンヘンジやイースター島の像などは粘土細工のように自由に作れた。イシカミがエネルギーを射手座から送ってもらったのが光りの玉で、神社のマークで現されている。エジプトだけ食料が豊富で七代も子孫が続いたが途絶えた。

（4）古代日本人からのメッセージ

日本の神話はMに支配された〝ある者〟により書き換えられている。アトランティスの血を引く大国主はサマルカンドで一緒になったヒミコとともに、四国にとても栄えた邪馬台国を作り平和に暮らしていた。ヒミコは霊と交信でき、また文字も作り若者に教えていたが、農業をしないようになった若者を大国主が叱った。それを不満に思った若者が、大国主の息子の日本武尊（本当はニホンタケルノミコト）を連れ出し、小国のヤマトに行った。そしてヤマタイコクがとても大きな国であることを話す。ある者は若者に案内してもらい、ヤマタイコクを徹底的に焼き滅ぼす。大国主は出雲に追放され、ヒミコはイレズミをつけられたが、脱走し自害する。邪馬台国の者はすべてイレズミをつけられ、ヤマトの奴隷とされる。その奴隷が被差別部落の住民の始まりである。ヒミコの娘はイレズミをされないで母に教えられたマナイに行く。マナイにトヨウケがいるのをヒミコは知っていた。その頃、エジプトのイシカミの大泣き？のため世界中が大洪水になり、ノアの親子は丹後に漂着する。そしてノアの息子とヒミコの娘は一緒になり、一男一女の子供をもうけ幸せに暮らしていた。そこへまた、ある者が攻め

てきてノアの息子を船に乗せ追放するが、富山に漂着し一時かくまわれる。記録を残し船で丹後に帰ろうとしたが、帰れず山に逃げ込み、そこで殺される。

ヒミコの娘は連れていかれる時、短剣を振りかざし抵抗する。道中白い藤の花が咲いていてノアの息子(白人)を忍び、手折って胸に入れていく。男の子はあるところに隠れていたが戻り、ヒホコノみことと名乗る。女の子はふぐを食べ自殺をし、生まれ変わり寺を建てる。大国主はある者が来た時、安来節を踊らされ、10 月にはおもちを持ってヤマトへ行かされるので神無月と言われる。

(5) イエスたちからのメッセージ

イエスの父は 2 メートルを越す大男で石大工をしていたが、大酒のみで乱暴者であった。母マリアは夫の腰までしか背がなかったが肉体関係はあった。イエスはとても大人しく、弟のサナンダはやんちゃであった。家は貧しかったためイエスはインド人の手伝いをして、インドに行き来しアーユルヴェーダを覚えた。星から与えられた超能力とアーユルヴェーダで病人を治したり、イン

ドで知らされた仏教の教えに基づいた行動は皆にとても崇拝された。弟子も多くなり集団生活に問題もあった。イエスは父母の関係と、仏教の輪廻転生を知っていたし、人のために尽くせば人間として生まれ変わらなくてもよいと思っていたので肉体関係を禁じた。弟子は反発していたが、イスカリオのユダだけは母が妾でいたぶられていたのでイエスの教えは理解していた。バーソロミューはイタリア人の迷子で、名前はバール＝外国、ソロ＝一人、ミュー＝子供ということでつけられ、マリアに育てられた。

　マリアにローマ兵がイエスの居場所を聞いたところ答えたのでイレニアでイエスは捕まる。マリアは夫に脇腹を蹴られ亡くなるが霊としてイエスを助ける。イエスは磔のあまりの苦しさに気を失い、それと同時に雷が鳴り、ローマ兵はお腹を少し刺しただけで逃げていったので命は助かる。サナンダとユダたちでイエスを助けかくまい、イエスが元気になると脱出する。若い頃からの知り合いであった船主のマホメットに頼んで船を分けてもらい日本に行く。日本の東北に着きサナンダはそこで子供をもうけ落ち着くが、イエスは病気を治しながら南下しイシ

キリに落ち着く。ノアの話を聞き出雲に出かけるが、イエスの評判を妬んだ権力者の部下に身ぐるみはがれ〝イナバの白ウサギ〟と言われた。再び、イシキリに帰り、幸せな最期を迎える。

（6）マホメット、釈迦たちからのメッセージ

マホメットは船主の子として育ち優しい子で、イエスがインドに行く時に知りあい、２人とも手に同じ傷があり友達であった。男の子（ムハメット）がいたがイエスに頼まれ船を売ったためウセの者に殺される。ムハメットはウセに育てられ「キリスト教徒に父は殺された」と教え込まれ復讐することが大切と思いこんでいた。マホメットは〝目には目を〟は見てうれしい物をもらったら見る物をお返しするように、〝歯には歯を〟は食べ物という意味で言った。頭のかぶり物は食べ物に髪が入るのが嫌だったので言っただけ、と。

釈迦はあまりにも幸せすぎて、この幸せがこわれたらどうしよう、と不安になった。その不安を消すためにヨガの行者のところへ行く。そしてヨガの行者のように強くなりたいと思い教えを乞うが、反対にそんなに幸せな

のになぜ来るのか、飢えなど克服するために苦行をしているのにと言われる。それで１人で苦行をし、いろいろと知らされる。その教えは、インドでは王侯などが輪廻転生を信じたくないので広まらなかった。インド以外の国では広まり、人間、生き物を大切にする教えは立派であったが、地獄を強調しすぎたのがいけなかったと、名のない星に言われている。

１．星からのメッセージ

1999 年６月 10 日夜

　星の戦いのお知らせをします。約 100 万年前に現れた〝火〟の物語をします。星の争いと関係があるのです。なぜかというと大昔まだ火が使われていない時、地球にある星の霊が降りたのです。それから違う星の霊も降りてきました。いつの間にか始めに降りた霊と後から降りた霊が喧嘩をするようになってきたのです。なぜかというと、人間に〝火〟教えようとする霊と、やめてそのままの地球にしておこうとする霊が喧嘩をしたのです。そのことで星の間で意見が分かれ、白色と黒色（M）に分かれたのです。要するに地球を助けるグループが白色、

地球を支配して思う通りにコントロールしようとするグループがMです。それだけでなく地球を争いの場にして、恐れの想念をエネルギーにしようとしたのです。星の戦いは白色が負けMがこれまで支配してきました。ただ、戦いに加わらなかった、こと座、射手座の霊はそれとなく地球を訪れ様子を見ていました。ネバ、ネバ、ねばならぬ、というやり方が、Mなのです。すべてを支配したいのです。それに対してオリオンは名前の通りおりこうさんで、余計なことは言わないで時々アドバイスをしたり、おこしもの（鉄の作り方）を教えて生きていくのに便利な物を教えてきたのです。これからもそのつもりです。

1999 年 3 月 10 日夜

「私はヨミの国の国王（冥王星の国王）です。人間は必ず死を体験しなければなりません。それには霊の存在を知っていることが、とても大切なのです。ヨミの国は霊の集まりなのです。霊界とは少し違います。霊界はヨミの国を経てから行くところです。ヨミの国には命の長さを示す光の柱がそれぞれにあります。そして死の前に

光の柱は消えてしまいます。どんな死に方でもそれは同じです。私はその番をしています。生まれると光の柱が現れます。どの人にも必ずあります。光の柱の色と量はそれぞれ違います。私が見ると誰の柱かわかります。人によって違いますが死ぬ前にその場面（？）を見せられます。霊は光の柱を見た後、白い霧の中を歩きます。自殺した女の子が言ってたでしょう。白い霧は何かというとよこしまな思いが集まってできた物です。私が見たところ白い霧を早く抜け出る人は長い人生を一生懸命生きてきた人です。いつまでも最長 49 日までも抜け出れない人は、なにか生きるのが嫌になって人生を自ら終わった人（自殺）が体験するようです。白い霧を抜け出た後が霊界なのです。

1998 年 6 月までは本当に地獄はあったのです。今は短い地獄の体験コースは残っています。そしてひたすら人間の魔のことを反省するのです。その人の気づきが終わるまでです。それでも今はよくなりました。Mの作った地獄は本当に悲惨でした。霊でも地獄は覚えていない人がいるのがわかりました。眠っているだけと思っているのです。出口王仁三郎が見たという地獄は本当にあっ

たのです。人間としての務めを果たした人は早く霊界に行けます。霊をもてあそびお金儲けの手段にした人はとても苦しまされます。でも人助けをした人は霊にとても助けられます。そうです。ヨミの国は白い霧で覆われたところなのです。臨死体験をした人できれいなところを見た人は霊に助けられ、早く霊界に行けます。ヨミの国の王からは以上です」

「もう降りてこないようにしたいので、わしのことも世に知らせてほしい」と言われる。同時に右下腹部がチクチクする。「わかりましたJと答えると痛みはなくなる。盲腸は霊が降りる場所を伝えられる。

「名前は言わないが誰かわかるであろう。よく眠れてさわやかなはずだ（本当に久しぶりに朝まで目覚めずよく眠れた)。昨日伝えたことが文にならなかったのでそれの催促をしに降りてきた。次のことも書いてほしい。『お情けのある方だ。それよりなにより人が霊に目覚めないで知らされることが多くなる』このことを必ず書いてくれい」

1999 年 6 月 30 日真夜中

大嵐

「ツキヨミのみことです。ヨミの国王の命令で嵐を起こしています。浄化のためです。被害を受ける人はカルマの清算でもあるのです。恐ろしいと思わないでください。こういう嫌な役をしなければならない者もいるのです。そのことをわかってほしいとの伝言です」

激しい嵐でツキヨミの尊に聞く。

ツキヨミの尊です。私の物語も書いてほしいのです。私は月の者です。私（月の者）が悪者のように思われていますが、本当の私は地球のパートナーです。それなのにあのMがたくさんの者？を連れてきたのです。そして植民地にしたのです。私はMに言われるままに働いてきました。

1999 年 5 月 16 日

夜中突然目が覚めその後大雨と稲光

「ツキヨミの尊です。いなびかりと雨を降らすのが私の役目です（王様と何回も言う。王とはヨミの国王と）。王様の家来です」

1999 年 4 月 29 日

高野山に誘われて行く。樹齢 1000 年以上の木が何本も倒れている。

「ヨミの国王が嫌なこと（地獄がなくなった。少しだけになった）をしなくてよくなったのでうれしく暴れた」と（お寺でお経が流れてくると自然に口が動いている）。

1999 年 5 月 23 日

「ハイアーセルフの正体をお話します。ハイアーセルフとは霊なのです。皆とても偉いように思っていますが、何のことはない影の部分なのです。肉体が陽なら霊は影なのです。だからその人より上ということはないのです。霊の世界だけですが地獄は確かにありました。死んだ後、霊だけが残ります。これは 100 パーセント正しいのです。魂は生きようとするエネルギーで死ねば愛のエネルギー体に戻ります。「人類の皆が霊の存在に気づくことにより地球は平和になります。私の周りの霊は自分の身内のことを考えています。だから先祖を大切にすると応援してくれます」

続いて歯が少しうずき「名前を名乗られない方がこられています」と連絡あり。「ヨミの国王様ですか？」と問うとうずきがなくなり、次のことを知らせてほしい、と。

「見えない世界があり、そこから知らせているのに嫌がらせをしているように思われるのが嫌なのです。お知らせには素直に耳を傾けてもらうとお互い嫌な思いをしなくてすむ」

この後さわやかな匂いがする。「わかったか？私からのプレゼントだ」と。

「霊界は本当にあるのです。どんなところかというとヨミの国を通り抜けると光輝くところなのです。皆笑っています。身体は何といおうか光の粒でできた半物体です。半物体が思っていることはとてもよくわかります。私の元に「よく来たね」と白い服を着た人？がいます。誰かというとまだどこに行くか決まっていない人？です。どこの星に行くか決まったら不思議なことにお空を飛んでおうち？にはいります（とても眠く書くのがやっとでした)。私は仲間のところに来ました。魂の思いが

同じところです。人間も同じです。心優しく人のことを考える人はその考えの集まりのところに行きます。それで仲間の思いでその形にするのです。優しさの形が〝星〟なのです。5 角形でなく金平糖の形の星です。星の皆が笑っています。お空にまたたいているのが星です。優しさが星なら学びの形は何かというと〝家〟なのです。家を作り住むようになりました。1人では家は作れません。人間の学びで家を作りました。怒りの形は人の隣のモノです。仁王？です」

1999 年 3 月 9 日

口が動いて言葉になっていくので、私が「あなたはどこの星から来てくださっているのですか？」と聞くと「冥王星からです。その問いかけをとても待っていました。私たちは太陽系のグループで私が代表で答えます。私たちは白色星団と言って地球を守る団体なのです。

私たち白色星団はあまり強くないのです。それで、グランドクロスの時に力を合わせてMを追い出そうと計画していたのです。

でも名のないものが、Mを消してくれたので、グラン

ドクロスになっても特に変わったことはないでしょう。

私たち白色星団のことを詳しくお話しましょう。

太陽系の惑星で構成されています。もちろん霊のみです。皆 5 次元から 8 次元なのです。火星が 5 次元で、金星はやむにやまれずはるか遠くへ行きました。そのことはセムヤーゼから聞いていますね。火星には、今のところ何百万という霊が残っています。

「私は火星の霊です。5 次元ですので、姿は見えません。あなたの頭の上にいますが、上を向いても次元が違うので見えないのです。あなたがノートに字を書いているのは見えます。字を書きにくくさせてみましょうか。大きく書いてみてください。かけますね（本当は字がとても小さくなりわからない位になる）。

あなたが一番知りたいのは、火星人の人面顔岩ですね。あれは大昔何万年も前にまだ 3 次元だった時に作られた物で、今は 3 次元の火星人はいません。

大昔には今で言う地球人のようというより半霊体の（アトランティスに似ている）ものが作りました。それから 5 次元に進化したのです。並大抵のことではありませんでした。

あなたが体験したように感情がとても激しく悪い思いもとても強く名のない者（太陽系の惑星の霊）に助けられ、5 次元になんとか進化しました。あなたはあまりのつらさ（不安感の強さ）に進化をやめると言いましたね。それで落ち着いてきたのです。

あのままのあなたは進化しても、気が狂ったと思われ、淋しい一生を送ったでしょうね。地球人は霊の進化がとても遅れています。霊さえ認めない人がほとんどの今、とても進化はできません。

ガイア自身が進化しないと言ったので、今の状態が当分続きます。それでもいいでしょう。地球人が望んだことですから。賢明な選択でした。

私たちはこれまでと同じとは思っていません。Mの支配がなくなったので、これからはなだらかに進化していきます。霊性と、見えない存在がいるということがとても大切になります。生きていくうえで、何の手助けもできませんが、死んでからの方が大切だと思ってください」

「現れました。オリオンの霊です。大昔星間の戦争が

あった時は白色星団でした。それなのになぜ今まで現れなかったかというと、Mに離せられていたのです。七夕の物語として伝えられているように１年に一度しか私たちは逢えなかったのです。そして白色星団で射手座こと座と同じ立場で地球を見守っていたのです。恨んでいたのです。戦いのせいで別れさせられていたことを」

1999 年 7 月 6 日 23 時

「私の物語を書いてほしいのです。オリオンの織り姫のことを書いてほしいのです。大人の女の人は殿方の側にいるものでしょう。私はそれが１年に一度しかできなかったのです。可哀想でしたでしょう。今はずーっと側におれるので幸せです」

1999 年 7 月 7 日

真夜中に目を覚ます

「それでは始めましょうか」と優しい女の人。

「始めまして、乙女座の星の霊です。今日結婚します。それでお知らせにきました。乙女座の霊とは初めてでしょう。これまで織り姫と言ってお話していたのは私た

ちのロボットだったのです」

1999 年 6 月 1 日 11 時 58 分
夜中に激しく口が動き目がさめる
ノートに書いてくださいと言われる

「愛の星からご招待くださいましてありがとう。あなたに降りました。私の名前は彦星と言います。私が織り姫とずーっと一緒におれるようにしてくださってありがとう。別れさせられていたのにうれしくてたまりません。何の事かわからないでしょうが、これから言うことで思い出されるでしょう。あなたは以前、天の川は星間の戦いの時の星の残骸です、と聞きノートに書きましたね。あれは本当のことなのです。今音がしたでしょう（みしっと音がする）、あの音はそのあかしなのです。

星が並び出しました。夜空を見てください。今から私が教えますから。まず、南東の方に大きな星があります。それと同じ位の星がその上にあります。あなたの真上にとてつもなく輝いた星が彦星、すなわちオリオンなのです。それから名のない星がたくさんあるのが天の川ですね」

「私はイエスです。ようやく私たちのことが世に知らされて、私たちは天界に入れました。それで、お招きしたのです。あの方は愛のエネルギー体から来られた方で、今はまだどこの星に行かれるかわかりません。あなたがとてもはっきりと喋れたように、多くの人がチャネリングできるようになります。そうするとあなたの言っていることが正しいとわかるのです。

あなたが寝る前に、「人類皆平和、皆愛、皆兄弟」と言ってくれることで、世に必ずこの言葉が広がります（だんご３兄弟）。

霊の宴会が終わりました。たまらなく楽しい宴会でした。私の名前は稲光の星の霊です。あなたのお陰でルシファーの名が汚名返上できました（ある本にルシファーは、アクマの星と書かれていた）。私の元に多くの霊が集まりました。これで一安心です。

あまりの物語に誰も信じないでしょうが本当のことなのです」

「織り姫さんはどこの星ですか？」の聞いに小さな声で「バ、バ……」と。「女の人の笑い声はなんと言いま

すか。今は笑いが止まらないくらい幸せです。大人の女の人はいつも殿方の側にいるものでしょう。離れさせられていたのが、今側にいれてうれしい。以前はオリオンの４番目の星にいたのに星間の戦いで霊のみになりました。その霊をMが離していたのです。今一緒にいます。うれしい」

1999 年 6 月 10 日夜

私はオリオンの星の霊です。オリオンがなぜ今まで降りてこなかったかというと、星間の戦争でオリオンの星の１つが壊されました。そして霊だけが残りあちこちに散らばっていたのです。そしてMの霊にいじめられて、哀れにも遥か彼方の星へ追いやられたのです。それでも年に一度は逢えたのです。この度白色星団が、オリオンの霊といつも一緒におれるようにしてくれて本当にうれしく思います（七夕の物語）。この物語は日本ではよく知られていますが。

イーグル星の者です。今降りてきました（聞いたこともない鳥の鳴き声を朝から２回聞く）。イーグル星から

エネルギーの玉のことを思い出したからと言ってきました。例の玉はそのものが白く並の物とは違いました。その玉があちこちに落ちてきました。大昔のことです。その玉が私の与えたエネルギーの玉だったのです。尾長鶏はその意味で神でもあるのです。イーグル星から鳥になって織物を教えてもらいました。白い木の意味は白色星団の木で、木はいつも恵みを与えてくれるという意味です。

はた物語をします。

私は鶴の恩返しの鶴です。私の話は本当なのです。私の生まれはイーグル星なのです。あなたは去年イーグル星の光と会話をしましたね。恐怖の想念が多くて困ると言われましたね。そして小鳥が「すき、すき」と鳴く声も聞きましたね。あれは皆本当だったのです。3.02 次元だったのです。そしてそのイーグル星から降りてきたのです。そう鳥の惑星なのです。鶴として降りてきました。

1999 年 7 月 20 日夜

「白色星団が初めて名乗った時からいつも「お名前の

ない白色星団です」と言って言葉が始まるのには、訳があるのです。白色星団の団長はめい王星の女王、後から出てきた白色霊団はめい王星の息子なのですが、名前を名乗り霊に「目覚めてください」と言うと支配することになるからです。宇宙の法則で決して〝他を支配してはならない〟というのがあり、それを守っているからです。白色星団の霊は本当に一生懸命、これまで過去の人や、神と呼ばれた存在の記憶を呼び戻させてくれました。それを名前をあげて〝降りて話をしなさい〟と言うと名前をあげたものが支配することになるからです。

なぜこのようにして過去の霊に話をしてもらうかというと、今のままでは地球が平和にならないからです。地球が宇宙の中心で地球が平和になると宇宙も平和になるのです。他の惑星は霊的にどんどん進化していますが、地球は神が形を残す（3 次元）として作られましたので霊的にはそう早く進化しません。この美しい地球を形だけでなく心も美しくしたいのです」

1999 年 5 月 7 日 21 時 20 分

「私が今日から占星術を教えます。白鳥座から降りて

きました。まずあなたはこれまでの知識をすべて捨ててください。あなたの言葉がこれにより広まります。星にはそれぞれの役目があります。まずそれぞれの魂の方に会ってください」

太陽

「懐かしく思います。昨年（1998 年）はあまりの激務に一度死にました（霊的）。

あの緑の光を出し続けることにより霊的にとても疲れました。あの緑の光は癒しの光なのです。多くの霊がとても元気になりました。太陽の魂を持っている人が今たくさん目覚めてきています。皆の気持ちを明るくする役目なのです。でもそのことができなくて悩んでいる人もいますが、いずれ必ずそうなります。一度の人生だけでなく永遠に続くのです。霊は最後は必ず愛のエネルギー体に戻ります。過ちのないように生きていきましょう」

水星

「あなたの元に来た人に水星の女王の霊が入りました。なぜ人魚の過去世を見たかというと気づいてもらうため

でした。水星は霊的には水の星なのです。昔の人が名づけた時なんとなく名づけたのですが、それが霊の世界では現実となり多くの霊がいます。おだやかな 5 次元の世界です。いたわることのできる人だけが住んでいます」

金星

「金星の魂を持つ者はとてもやさしい気持ちを持っています。金星はこの間までとても磁気嵐がひどくて遠くの星に霊として移住していました。それまでは 3.7 次元でしたので地球に来ても姿を見ることができる地球人もいたのです。今は進化して 4 次元になりました。今金星では 1 人の王が霊たちを導いています。とてもたくましい王で正しい考えをしています。4 次元でも国造りは大切なのです。国造りとは霊たちが何をしてというより何を思ってこれから過ごしていくかということ教えることなのです」

火星

「私が火星の学びの者です。度々出てくる学びの者は私たちの星の者です。科学がとても発達していました。

1 万年前位は 3 次元でした。科学が行き着くところまで行き、それから霊性に目覚めたのです。それからあなたが体験じたような不安感や恐怖心が強くなり、一時は大変苦労しました。それでも白色星団の皆さんに助けられ、無事 4 次元に進化しました。火星は 1 万年位前は地球と同じ位の距離にいました。とても住みやすい星でした。ある日火星の地軸の変換と星の移動が起こりました。なぜかというと火星のすべてのエネルギーが一度に爆発して星が移動したのです。そしてすべての生物が死滅しましたが、その方がよかったのです。不安に満ちた生活をしていましたが、今は何の不安もありません。ただ長く眠っていたため今は少しとまどいがあります。地球の皆さんは私たちのように進化しないと決められたようですね。もっと緩やかに進化するのですね。私たちは応援しますが霊的に目覚めないとどうしようもないのです。一部の人だけ進化することはできません。1 日も早い霊の目覚めをなされますようお祈りします」

木星

「あなたの星の中で私の星ほど知られていないのはな

いでしょう。木星は今の言葉で言うと喜びの星なのです。とても楽しい人ばかりが集まっています。この間降りてきたのは木星の王様で、あまりお話は好きではありませんでした。でも楽しい時を送るのが大好きな人です。地球で言えばお酒を飲みながら楽しい人生を送る人の集団です。木星には何千億という霊がいます。ややこしいことを考えるのは苦手です。それなのに難しい人生を送っているので胸が苦しくなるのです。本来の人生を楽しむ生活をすれば病も癒されるでしょう。何としても今の地球を楽しい星にしたいのです」

土星

「私たちは慈しみの人の集まりです。人の世話をするのがとても上手です。お互い慈しみあい仲間だけでなく誰に対してでも、何者に対してでもとても思いやりがあります。あなたの周りの人を思うと思い当たるでしょう。6 次元で何億人もの霊がいます。土星のベルトは何を表すかというと土星のフォトンベルトなのです。とてつもない光を与え続けているためとても軽やかなのです。若者のようにたくさんの霊が飛び跳ねています」

天王星

「天王星の魂の持ち主はとても意志をしっかり持っています。いいにつけ悪しきにつけ、自分の意志をはっきりと現すことができます。それでいて他人の意見をしっかり聞いて正しいと思えば素直に受け入れます。自分の進路を決める時等は他人の意見も聞いてみるといいでしょう」

地球

「私が地球神です。待ちきれず今（1999 年 5 月 7 日 21 時 55 分）大きな地震を起こしました。なぜかというとあまりに人類の意識が変わらないからです。せっかく応援に来てくれていた白色星団も帰ってしまいました。何かとお騒がせしておりますが、早く私の気持ちを知ってほしいのです。人類の皆に怒れてくるのです。地球神からお願いします。白色星団の皆様のおかげで今とても穏やかな毎日を過ごせていることを感謝してほしいのです。応援がなければ今は本当は大冷害の生き地獄のはずです。人類の誰一人それに気づかないことにとても

怒れてくるのです。白色星団の皆様本当にありがとうございました、と人類の皆さんは心からお礼を言ってほしいのです」

海王星

「海王星の女王はこの度お仕事をしましたが、その他の霊は愛のエネルギー体に戻りました」

1999 年 8 月 11 日夜中

「地球の食べ物は『愛』なのです。地球を愛してあげてください。それが一番平和になる道です。地球を愛すると人をも愛することができます。すべての恵みは地球から与えられています。何ひとつとってもあなたがたがもたらした物ではないのです。地球がくれたプレゼントです。これらの言葉はオリオンが言いました。オリオンにも愛はあります。それでも地球に住む人が愛の気持ちを持ってくれることで、宇宙の皆はとても鉛？が解けてお互いが思い切り自由に行動できます。オリオンは喜び挑ねています」

1999 年 8 月 15 日朝

「白色星団がグランドクロスの時に話し合いました。地球に対しお節介をし過ぎました。過去の霊に甦って伝えてもらえたので我々は自分の星に帰り、おいとましようと思っています。千年王国は無理でした。今のままの地球が続くでしょう。核実験を続けると地球神は身震いすると言っています。今がノアの時と同じです。ノアの時よりひどいかもしれません。霊を信じないことが何よりいけないのです。霊を信じればあらゆる悪いことはできません。浮遊霊を怖がっている人がいますが、話をしてあげてください。これら（星の物語）の言葉に出会った人は霊は助けるように働くそうです。霊と会話してください」

1999 年 7 月 9 日 22 時

「私は冥王星の女王です。白色星団の団長です。今まであらゆる霊たちの目覚めを促してきました。これで大体のお話は済んだと思いますので、白色星団はそれぞれの星に帰りゆっくりと休みたく思っています。後は皆様のお力で地球を平和にしてください。美しい地球、愛す

る地球の皆様、お元気でお過ごしください

名のない白色星団の団長より」

と挨拶あり。お礼を言っておく。なぜかいつも白色星団の前には必ず〝名前のない〟の言葉がついていたがはぶいていた。

これ以降〝名前のない〟だけで白色星団という言葉は出てこない。

1999 年 7 月 10 日夜

「霊界で、は白色星団が帰ったため皆自由勝手気ままにしだし統制がとれなくなった」とマホメットが言ってくる。しばらくして男の白色星団の団長(冥王星の王子)が「あまりにひどいことになっているので、代わりに来ました。霊のみんなには休んでもらっています」と連絡がある。

1999 年 8 月 13 日夜

星の宮の神が降りてきました

「白い木とはイーグル星から来た鶴の物語を伝える人です。白い木の者が大変世のために尽くした割には認め

られなかったのは、Mにやられ続けたためです。それの仕事の総まとめをあなたがさせられたのです。殺される寸前でした。星の宮の神はそのことを知っています。あなたの夢に何度か出てきたのは何とか助けたいと思ったからです。星の宮の神が白い木すなわち白い鶴の物語を伝えました。

イシナイ＝イシカミの石がないこと。それがMにとっては悪さをしやすかったので、家は何度も途絶えたのです。私も石がないために落ちぶれた神になったのです。

星の宮＝宇宙＝宇宙神が祭られているのです。それなのに今では誰もお参りしてくれません。それを伝えたく降りてきました」

1999 年 8 月 17 日 1 時

「星の宮の神です。星の宮に伝えられている星の図はオリオンが 4 つ描かれていたはずですが……。それが我々が証明できる星間の争いの言い伝えなのですが（実際には 7 つ星が描かれていた）。長い間Mに支配されたためです。星の宮＝宇宙神がしばらく降ります。変わらぬ愛を送ります」

1999 年 8 月 21 日 9 時

問いかけに対しかすかに口が動く

「エアロヒムはこと座のロボットでした。お仕事が終わったので星に帰りました。たくさんのロボットが地球の危機を知らせていましたが、使命が終わりましたので帰りました」

「星の宮の神です。私のところには誰も来てくれません。大元（愛のエネルギー体）より宇宙の神と命ぜられたのに。あまりにも昔の神だからです。イシカミの来る前、はるか大昔に降りていました。何も残していなかったからです（イシカミは石が残ったので神とあがめられた）。名前だけはそのいわれを伝えています。星原＝宇宙――星は自動的に作られています。その星を昔はきれいに並べていました。あの模様のようにです（ミステリーサークル 7 参照）。以前にも言いましたが、天の川は星の戦争の残骸なのです。

星の戦争があってから何もせずにいたら今の星空になりました。そのことを伝えに降りてきました。これからたくさんの星のまたたきを私が泣いていると思って見て

ください。本当なのです。私のことを誰も思ってくれないからです。〝押し絵（ミステリーサークル）〟はそのことを知らせるために、私が白色星団と射手座のものに頼んで描いてもらったのです。星の宮の神より」

1999 年 9 月 15 日

　次の言葉は知らされていたが清書してなかったので催促され記録する。

1999 年 2 月 27 日夜中

　休めましたか？　昨日の言葉を書いてください。

「私は神と言われる意識体です。あなたの質問『悪い存在をどうして作られたのですか？』の答えです。答えます。私はただ１人でした。ずーっと１人でした。それであることを思いついたのです。それは私のことを知るようにするために何かを作ろうと思ったのです。そして今で言う人間を作りました。それは素晴らしい作品でした。私が思う形に作りました。初めは男でもなく女でもない中性を作りました。そうです。聖書に書いてある通りなのです。そして１人ではやはり寂しいので女の

人も作りました。あばら骨からではありません。自分で思った通りに作りました。女の人は長い髪の毛と大きなおっぱい、あそこには穴を開けました。男の人にはあれをつけました。それはとても完璧でした。私は２人を自由にさせました。これ以外のことは思い出せないのです。

（途中でおかしいと思い「あなたは誰ですか？」と聞くと「ヨアヒムです」と言うので清書せずにいたら、最近「ヨアヒムを通して伝えたことは本当のことなので皆に知らせてほしい」と何回かメッセージがあり記録する。）

「水についてお知らせします。水は水星の霊たちが想像して作りました。太陽が〝火〟なら私たちはその反対のモノを作ろうと思いました。そしてできたのが水なのです。水の成分は水素と酸素ですが、これまでお知らせしたように、何かを作るのにとても大切なことは仲間が同じことを思うことなのです。それでエネルギーが出るのです」

この後それぞれ金、土、木、について話そうと思われ

たようですが、あることでとても神経が疲れていましたのでやめました（後日問いかけるのですが、向こうから連絡してこないと答えがないのです）。

1999 年 10 月 22 日 22 時 30 分

「星の宮です。星の戦争が始まる前は生まれてくる星をきれいな三日月に並べていました。星の戦争が始まっても大人しいので何も言わず今まで眠っていましたが、目覚めるとあまりにも星の宮の神社があわれ（みすぼらしい）で誰一人お参りにきてくれないので泣いています。星のまたたきは私があわれで泣いてくれているのです。イシカミの石は大きいので伝えられ大事にされましたが、私はイシナシなので忘れられたのです」

「星の物語の追加です。あらゆる星は言葉でなく波動で話し合っているのです。波動すなわち振動です。これらを何で起こすかというと星のまたたきなのです。星のまたたきは何で起こすかというと星の振動なのです。その振動にあった人間の霊が集まってきます。それでこれからは邪悪な霊は帰る星がなく、とても苦労します。そ

して死んでから後悔し続け、また人間に生まれ変わり、今度は立場が変わります。それが星の流れなのです。これまでの生まれ変わりと違います。このことをよく考えて生きてください。

もちろん人間として楽しく生きたいので生まれ変わりたいと思えばそれはできます。

神はそのことが目的で神の分身である人間を作られたのですから。　　白色霊団の団長より」

1999 年 9 月 12 日 5 時 30 分

「ほんのりと物静かな女性が現れました。起きてノートに書いてください。

私がなぜ降りてきたかというと、星の宮の言葉をこれからお伝えしたいと思うのです。

星の宮の者です。今日帰られたら星の宮に来てください。来てくれるととても元気になれます。1 人だけしか来てくれません。星の物語を思い出したので書いてください。星の空で働いて？いた頃はそれは美しい星空でした。あのミステリーサークルに描かれている模様に星は並べられていたのです。それが星たちには窮屈になりバ

ラバラになりだしたのです。お名前のない星団が分かれだしたのです。以前言ったように宇宙の真ん中の地球(学問的でなく霊的？）を支配しようとする星と、遠くから見守る星とに分かれたのです。それで私は星たちに押しのけられたのです。私は星の宮に降りてただ眠っていました。そして去年起こされたのです。私の部下の白色星団に起こされたのです。私が起きたので星の物語のミステリーサークルがますますたくさん描かれるようになりました。これほどまで私が落とされているとは思いませんでした。星がまたたいて涙を出してくれている訳がわかりました。宇宙広しといえども地球のように生物が住んでいる星は決してありません。神の言葉です。以前ノートに書いた言葉はヨアヒムを通して神が語られたのです。他の人は信じなくともあなただけでも信じてほしいのです。とりあえずこれまで、星の宮がお伝えしました」

1999 年 10 月 1 日

インドサイの模様を見て

「いろいろな動物や花はどなたが作られるのですか？」と聞くと

「教えますのでノートに書いてください。それがあなたの仕事です」

「お知らせします。なかなか聞いてもらえなかったのでとても待っていました。あらゆる生き物が不思議な形や模様をしているかというと、それを作るのが私（達）の仕事なのです。『神様ですか？』神と呼ばれる意識体です。とてもたくさんの意識の集まりです。星をまたたかせている意識体でもあるのです。意識とは一言でいうと平屋の家のようなものです。平屋に家がたくさん集まりビルを造ります。ピルが神です。平屋とは１つの振動です。説明がとても難しいのです。星のまたたきが振動でそれが集まったものが意識体になります。振動はとても精妙で機械で計ることはできません。神を構成する意識体にはそれぞれ担当があり、花や魚や動物を作るのです。ダーウィンの法則だと生き残るものがとても醜悪な強いものだけが生き残り、我々が望んでいる美しい地球には決してなりません。人間は始めは２人だけ作りましたが、神を作る意識体がおのおの考えがあっていろんな人種を作りました。星の言葉が今大切です。容姿が違っても同じ人間は神から作られた子孫です。このこと

をハツキリわかってください。

星が星を作ったことがわかりました。始めの星は宇宙のチリの流れから生まれました。その星に愛の意識がありました。なぜ愛かわかりますか？　あなたもたった１人だと必ず愛する人が欲しくなります。それと同じで愛の星が別の星を作ったのです。そしてたくさんの星ができました。

星の宮です。星の宮は地球の中心だけでなく宇宙の中心なのです。宇宙神ですから。とても信じられないでしょう。

サワザラ＝稲光の星＝わがまま……でも、ウイやつです。おめでた者？の私が作ったものだからです。

宇宙がわかる人はいません。なぜなら今の科学は３次元でのみ考えるからです。ロケットを発射してもわずかな範囲しか行けません。地球の言葉で当てはまる言葉がありませんが、強いて言えば物質以外の世界が宇宙なのです。もちろん物質の世界も含まれますが、、。物質以外に目を向けないと永遠に宇宙のことはわかりません。物質以外の世界の方が大切なのです」

1999 年 10 月 2 日朝

「仲間の者と祝っています」「どなたですか？」

「神と言われる意識体です。こんなことを言うとイメージが壊れるかもしれませんが、書いてください。神と言われる存在はわがままでもあり、生意気でもありますが、初めて現れたのは〝愛する〟という意識でした。神は親がありません。大勢の兄弟姉妹で構成された家族のようなものです。

思波（しは）＝思いの波が宇宙を作っているのです。なにものでも計ることはできません。思波がかすかな振動を起こします。人間がいない時にも思波はありました。それが私たちの親になるのです。真っ暗闇の存在が私すなわち親なのです。星の神の親より」

歯がうずく。ヨミの国王からであった。「ヨミが別れたのは愛が生まれた後です。子供が別れさせたのです。？流れが続くためです。お兄さんですので嫌がらないでください。

星の者１人です。　　ヨミの国王より」

1999 年 10 月 3 日 1 時

眠れず

「神と呼ばれる意識体が思った通りの物質がどうしてできるかお知らせします。これを説明するには地球の言葉がないのでとても難しいのですが、わかる範囲で説明します。神と呼ばれる存在が毎日退屈でした。そしてその退屈を紛らわせるためにお仕事を始めたのです。それであらゆる生き物を考えたのです。そしてその考えがなぜ物質になったかというと、面白いことですが思いついた形や色を目の前の画用紙に描きます。画用紙は押し絵（ミステリーサークル）の画用紙と同じなのです。何でできているかというと集まったガスを何重にも重ねたものが画用紙です。押し絵は少ない重ねですが物質を作る場合はとてもたくさんの重ねがいります。それに形を想像し、色は太陽の光をそこに集めます。そして一気に押し出します。押し寿司のようにです。それを大きなボールに入れ地球に送るのです。大きなボールはＴ子がヒプノで見た、生まれる前にボールの中に入りくるくる回っていたあのボールと同じです。ボールは何で作られているかというと泡なのです。成分の違うシャボン玉のような物です。それが地球に着くと割れて発生します。自然

発生するということです。パスツールは細菌の発生だけです。生物はその限りではないのです。ダーウィンの法則であればきれいな花や魚、鳥はとっくの昔に絶えています。鳥はイーグル星がいろんな鳥を考えてくれる星です。

花は本来天の川の中のソモシという星が考えてくれるはずでしたが、Mにやられたため、あらゆる星が考えました。魚を考えてくれる星はサバナと呼ばれる星でした。今はありません。星の者が仲間割れしたのです。大きな魚と小さな魚を考えた者は、ともにおれないのです。大きな魚を考えた者が小さな魚を考えた者に怒られたのです。それで星からいなくなったのです。それで、シーラカンスは進化しなかったのです。その他の大きな魚が今どうしているかというと、小魚が増えすぎたので、やはり大きな魚もいると思ったのです」

1999 年 10 月 2 日夜

「神に願うことでそのことが実現することもあるがダメなこともあります。なぜダメになるかというとそれはあなたの霊が決めているのです。いつの場合も霊的に成

長する道を選んでいます。たとえ辛いことになってもそれは短時間で成長しようと思った霊が選んだことなのです。誰のせいでもないのです。そのことを忘れないで生きてほしいのです。そしてその人生で何をなすべきか、何のために生まれてきたのか見つけることが大切なのです。人生は『頼もう』と道場を訪れ試合を申し込むようなものです。何も試合をしないと強くなれません。どの霊も強くなりたいと思って生まれてくるのです。道場主は『名を名乗れ』と言いますね。だからあなた方はお願いしないと何をしてほしいのかわからないのです。明日からお願いしてほしいのです。お知らせは何らかあるはずです。　　星の宮の神より」

親指が痛くなりオリンが降りてくる

「私のことを書いてくれてありがとう。私は白色星団の小さな星です。愛の波動の星です。それで愛の心の人が読んでくれると何が書いであるかよくわかるのです。オリンより」

1999 年 10 月 21 日 23 時 30 分

新聞で異常潮位と、アメリカロブスターが大量に死んだ記事を見てから
床に入っていると口が動く
「海の、海の」と口が動くので問いかける

「海の潮位が高いことに対するメッセージです。私は地球です。今日は大潮なのですがなぜ早くより異常に潮位が高いかというと、これ位のことは私の力でもできるということを示したかったのです。人間の霊と仲良くなるには？何か形で示すことが必要だとわかりました。『ひなば』にオニが残っていたのです。『ひなば』とは浅瀬の海です。お日様が通る海の畑です。そこにいるものにご馳走がいますね。あのエピ（ロブスター）がなぜたくさん死んだかというと現れなのです。私が怒っているということの。屍がエピですむようにアメリカにお伝えください。『核実験はするな』と。この言葉はガイア＝地球が言いました。これでおしまいです」

（非核散防止条約？がアメリカで否決されたあと）

1999 年 9 月 17 日 2 時
目が覚める

「土地の物語を書いてください。私は毎日いろんな作物を作っています。地球です。いろんな力、特に植物を生えさせるという力は私を除いてどの星にもありません。なぜ生えるかというと依存？共存なのです。今その物語を始めます。

共存とはお互いが助け合うことです。地球にはオゾンという物質があります。オゾンは誰が作ったかというと私、地球なのです。それが今なくなってきています。私の作った物が壊されています。オゾンを作るお仕事をしてください。それには石の力がいるのです。イシとは野原にあるのでなく山にある大きなイシです。山にあるイシをなんとかして皆が思い出してほしいのです。意味がわからないのですか？　山にあるイシ（落とし物）を皆が思い出すと、友が皆集まってきてオゾンを持ってきてくれます。皆とは言うまでもないでしょう。太陽を中心とした白色星団です。彼らの元から応援してくれます。太陽があの緑の光を出したようにエネルギーをくれ、オゾンを増やしてくれます。このことがまだまだ信じられないとオゾンは増えません。落とし物のイシでも悪いことに使われたイシはダメなのです。山にあるものでも落

とし物でないとダメなのです。落とし物を大切にすることで、太陽たちがエネルギーを送ってくれます。それ以外オゾンを増やすことはできません。そして共存が続けられるのです。これは本当の物語なのです」（イシカミの話を信じてほしい、という意味です）

1999 年 9 月 18 日夜中

「星の宮の神社がなぜあそこにあるかというと、大昔ある男の人が何かとても光った物が落ちてきたので草木をかき分けそこに行きました。そこに着くと大いなる星の学びを教えられました。星祭りは本当は星原の祭りなのです」

1999 年 9 月 20 日 2 時

書いてもらえますか？　と

「ヒロ？　シロ？　となかなか言葉が出てこない。ヒヒイロカネのことです。あれは射手座からの星の損石なのです。星の宮を証明するものです。星の宮にお返しください。　　星の宮の神より」

1999 年 9 月 24 日 1 時 30 分

目が覚める

「思い出しましたので書いてください。地球があまり悪くなったので嫌になり、宇宙の果てに行きました。そしてそこでオニのない地球を作りました。地球と同じように人間を作りました。そしてアンドロイドも作ったのです。でもアンドロイドに霊をつけたのが間違いでした。いろんな憎悪の意識を持って生まれ変わってきたのです。それが私の失敗でした。パラレルワールドです。アトランティスです。それなのになぜ地球にアトランティスの指輪があるかというと、宇宙の果てに作ったと、思ったのに同じところだったのです。ただ次元が違っただけでした。ミステリーサークルで示したようにたくさんの宇宙があると思っていましたが、あれも結局次元が違うだけで同じ宇宙なのです。おしくらまんじゅうなのです（ミステリーサークル参照）」

1999 年 9 月 21 日 13 時

あまり口が動かなくとてもわかりにくい

「よそから見ています。？星の物語を始めます。星の

ものを作った者です。星がいつできたかというととても昔です。始めは１つの星でした。その前は何もなくただ暗闇でした。なぜ星を作ったかというと悲しいことですが、オニのものがいたのです。？涙の元が大好きなオニでした。オニの学びは……（寝る）」

同　14 時

「星を作った者です。『神さまですか？』そういうことです。

なぜ星を作ったかというと何も見えなく真っ暗だったからです。真っ暗な時は何も見えなく、何かを愛したいと思ったのです。お空が星で埋まればオニがいなくなると思ったのです。星の元はオニの流す星形のもの？、オニの目にも涙と。オシラムも泣くのです。そのオニの涙がガスになり、あのもの凄いかまど（宇宙の竈？）の中で星が作られるのです。それまでが私の仕事でした。太陽は星の裏側にありますが（昼のみということ）太陽も宇宙の中では星の１つです。星がいたずらにまたたいているのではないのです。星の思いを伝えているのです。その思いと同じ霊がそこに集まるのです。人間は死ねば

ある意味では星になるのです。最初に現れた星の思いは〝愛する〟思いでした。それからいろいろな思いの星を作りました」

1999 年 9 月 22 日 1 時

右前頭葉が痛い。なぜか問うと

「この痛みがなくなると星と会話ができません。もうお知らせすることはすべてしました。帰らせていただきます。これからは地球の人だけで地球を平和にしてください。星の物語を信じる人は霊が助けます。地震が多発しているのはなぜかというと星の物語を信じてもらうためです。あちこちの争いはこれまでの考えを 180 度変えてもらわないとおさまりません。すなわち星のメッセージを信じてください。本の名前は〝星からのメッセージ〟としてください。ご成功を祈ります。白色星団団長より」

頭の痛みはなぜか再度聞く

「翻訳機（霊的）を入れているからです。それでお知らせするために痛みを与えているのです。これからは人

間であった霊がお知らせしますのでまったくチャネリングができなくなるのではありません」

1999 年 9 月 22 日昼

書いて下さい、と

「星ができた訳を話します。始めの宇宙は真っ暗でした。夜も昼もなく真っ暗でした。星の元は薬の成分？暗闇の中で流れが起きました。そしてぐるぐる回るうちに固まりができたのです。その固まりが星になりました。始めガスの渦巻きが物質の固まりになりました。そのうちの１つが太陽なのです。神と呼ばれる存在です。真っ暗闇の時から意識はありました。何もなく面白くないので渦巻きを作ったのです。それで物が作れることがわかったのです。そしてたくさんの星を作りました。星はまたたかせました。星のまたたきの意味は以前教えましたね。振動が思いなのです。人間を思いつくまで動物も私が作りました。ただ生きて死ぬだけでは面白くないので何とか私のことがわかる者を作ろうと思いました。それで人間に霊という意識を入れたのです。霊とは神の存在を確認できるモノなのです。霊になると必ず神を見つ

けます。そして懺悔をしています。そして〝愛の物語〟がわかるまで人間として生まれ変わります。〝愛の物語〟とは〝星の物語〟なのです。星の物語を知ることが大切なのです」

1999 年 9 月 22 日 16 時

背中と頭に違和感が持続するので問うとすぐに消える

「オニの物語です。お名前のない者が話します。オニとは野放しにしていた子供が何か面白いことがないかと探検をして思いついた、とても単純な思いが現実になったのです。それを作ったのも何げなく、どんなになるかもわからなく、ただ子供が面白く遊びたいと思う気持ちと同じでした。それが恐ろしいことになってしまったのです。私が間違っていました。これからは次の思いを持ち続けてください。星がまたたくのは神が泣いていると思ってください。オニの思いはあなたたちで消してください。これまでのことを許してください。オニの思いをなくするとこれからはとても幸せな地球になります。これが私が言いたいことでした。　　神と呼ばれる者より」

「台湾の地震はお知らせです。台湾も日本と同じ日いずる国なのです。そして悪い人？に取られそうになったので壊したのです。そして皆が目覚めるためです。物質ばかり求めることなく霊に目覚めることが大切と。そのためのお知らせです。日本と同じ働きをしなければなりません」

1999 年 9 月 27 日昼

左胸が痛い。問うと

「私は星の者です。おいたをしています。お知らせをしたいからです。おもらいもの（鉄）がなぜおいたをするかというとおそらく本当だとは思えないでしょうが、白色星団が言わなくてはいけないと言われたので言います。おもらいものは子供の頃に河原で磁石で集めた（砂鉄）ように、おもらいものはおろかなことに身体の中の脂分を集めるのです。おもらいものが川の砂からひつつけられるようにあぶらがひっつくのです。それを防ぐには鉛の物をとらないようにしなければなりません。なぜ鉛の物が身体の中に入ってくるかというとあらゆる悪い

想念が引き寄せるのです。それで私たち星の者が必ず鉛を鉄に変えるのです。その鉄があぶらを引き寄せるのです。それであなたはなるべく生野菜を食べてください。煮たものもいいです。鉄でも血になるものとならないものがあります。あなたの心臓は昨年剣（霊的）を刺し続けられたので、少し弱っているのです。大事にしてあげてください」

1999 年 9 月 30 日 22 時

放射能事故あり

「放射能でエネルギーを得ることがいけないことを知らしめるためです。それに代わる物があります（水からエネルギーを取り出す方法と言われるも、何回も本当ですか？と聞くと、意見が分かれる。これで 3 回知らされるが自らその努力をするようにと落ち着く）」

「ヒプノで見るビジョンはすべてが前世でない。その人の前世も見るがそのヒーラーに見てもらいたいと霊が待っていて、クライアントに降りビジョンを見せる場合もある（私がヒプノをかけた人に、モーゼ、空海、釈迦、

人魚、のビジョンを見たクライアントがいる)。ビジョンを見ない人は霊的に進化を拒んでいて顕在意識は見たいと思っても霊が拒んでいるのです。現実が変わらないことを望んでいるのです。通り魔事件は精神を病む者の必死の抵抗なのです。霊にもてあそばれ、霊を認めない医学会に対する抵抗なのです。周りの人の偏見に対する抵抗なのです」

1999 年 10 月 1 日朝

原子力の事故について

「星の者からお知らせします。このことは原子力を使い続けると、悪いことになるというお知らせです。これからは安全なエネルギーを研究してください。お水から求めてください。わからないことがあればたずねてください。この前もたずねましたね。おしまい。

オマナスとは星の魂を持った者という意味です。見かけではわかりません。この物語がわかる人です。オリンの本は白色星団の者が教えました」

1999 年 10 月 6 日 22 時

「別れる話が出ています。星の宮（宇宙神）の神様は大人しいのですが、名のない星の一部がもうオゾンを作るのをやめようと言うモノが出てきたのです。それで、こう言ってほしいのです。地球の皆様へ。『星の宮の神様、名のない星の皆様。地球のためにオゾンを作ってください。星の物語を信じます』これだけをお仕事に夜空を見てお願いしてください。星の物語を信じてくれないと別れると言うモノが出てきました。名のない星を軽んじているのがとても嫌なのです。私たちは夜も昼もオゾンを作っているのです。名のない星より」と言われ何とか世に知らせ皆が信じてもらうにはどうすればいいか考えていました。

「あなたが一生懸命考えてくれているので、オゾンに関してお知らせします。

舞い上がった炎がオゾンを払います。お待たせしました。オゾンについてお知らせします。

哀れな星の宮を何とか紹介しようとあなたが、思っていてくれることがよくわかりました。それでお知らせしようと思いました。オゾンは地球の科学では O_3 とされていますが、今の科学では測定できない細かいチリの層

なのです。オゾンはこれまでの地球の物語の中にありました。止まらない大気汚染が何もかもあらわして？いるのです。真面目にこの物語を聞いてください。壊されたオゾンは何になったかというと壊れ物として星たちが持っているのです。そして壊れ物になったオゾンをまた、地球の周りに補充しようと待っているのです。

　でも地球の皆が星の物語を信じなければやめたいと思っています」

1999 年 9 月 24 日 1 時

目が覚め眠れず

　右前頭葉の一部の痛みがなくなっている。かすかに口が動く。

「翻訳機（霊的？）がなくても話ができることがわかりました。記録しておいてください。

　私が〝いさご〟など言葉をお知らせしているモノです。必ずなぜ日本語で話しかけてくるのかと聞かれますので次のように答えてくだい。

　あなたの脳と私は関係しています。はるか上空からあなたの脳とつながっています。それは電波でつながり、

あなたの言葉を司る部位のモノと話をするのです。霊ではないのです。脳の細胞と話をするのです。これ以上説明できません」

1999 年 9 月 28 日

「太陽にもたくさんの霊がいます。これまでにも太陽の魂を持った人が何人か現れたでしょう。その太陽からメッセージを送ります。本当の物語です。

太陽も星の１つではありますが、おそらくこのような働きをする太陽は他の宇宙にはありません。あらゆる生き物をはぐくみ育てることができる太陽は他にはないのです。それなのに最近太陽が目の敵にされています。オシラムが教えたのです。太陽の大切なことを教えないで、太陽光線の恐ろしいことばかり教えていることに、私たちはとても悲しく思っています。地球上の生き物のほとんどは太陽がなければ生きていけません。オシラムの教えばかり気にしないで私たちにお願いをしてください。特に朝はご挨拶したく思っています。そして星の物語の中で言われているオゾンを増すために、落とし物を大切にしてお願いしてください。これからはそのことがとて

も大切になります。南洋の島の人のためにも、地球の人皆がお願いしてください。　　太陽からのお知らせでした」

1999 年 10 月 10 日 1 時 30 分

強い食パンの匂いで目が覚める

「イースト菌も私たちが考えました。そのことを知らせたかったのです。地球や人間の営みに必要な菌はもちろん病原菌もそうなのです。人類の自然淘汰のためですが、思っていた以上に人類はそれを克服したため人口がオーバーし、地球が困っています。

地球です。どうしても皆さんに知ってほしいことは植樹をしてほしいのです。でも星に願いをしないと根づかないのです。「ねがい」とは「根がいい」という意味で作物の根がいいと収穫が多いという意味です。カタカナの「ネ」は根の形でもあり、ネズミがかじると根がダメになり、ネコは根が生まれるのです（ネズミを食べるから）」

1999 年 10 月 12 日

昼頃から右側頭頂部の違和感があり気になっていた

21 時 50 分、ずきずきするので問うと「星からのメッセージを伝えるため翻訳機？を入れています」と。

「お待たせしました。朝の問いかけの続きです（とてもわかりにくい）。私たちは白色星団ではありません。それではまずお知らせすることは同じ思いの霊が集まるとお星様のうち？に行きます。仲間の者にお知らせするのです。何を知らせるかというと下のことを知らせます。下とは地球で起こったことです。知らされた皆は何をして地球の皆にお知らせしょうか仲間で話し合います。このことがとても大切なのです。どんな霊が話すかというと星にいる霊です。星にいる霊がなぜ人間のことがわかるかというと仲間の霊が話すのです。仲間の霊というのがかつて人間であったが卒業した霊です。人間を卒業するには白色星団に判断してもらうのです。そして再び生まれてくるか、人聞を卒業するかどちらかにします（右手首の一点がドクドクと痛い。これは本当の話ですというサインです、と書くと治る）。中には人間としてもう生きたくないという霊がいますが、白色星団が判断して

やり残していることがあると思うと再び人間として生まれなければいけません。何を基準にするかというと、あらゆる考えの中で一番大切なことは霊を認めるかどうかということです。このことで判断します。次に大切なことは、人のために損得なしに尽くしたことがあるかということです。それはなにも他人だけではありません。親子でもいいのです。目的が他人を傷つけることが一番いけないのです。ただし相手が悪い場合は考えられます。その判断は誰がするかというと仲間の霊です。これからこのことを思って生きてください。この間まで名のない星の霊がお知らせしていましたが、私たちはそれとも違うのです。名のない星のモノは星の物語をする役目なのです。私たちはお知らせしたように人間であった霊をどうするか決める役です。もの凄い悪いことをした人は今までお知らせしたように霊界においてお仕置きをされていました。それが去年短期のものを残し、なくなりました。それで今こうして霊を分けているのです。どんなことをしてもブーメランのように戻ってきます。それがわかれば自分にしてほしいことを相手にしてあげると、死んでからうれしいですね。これだけ言っても信じない人

はいますので今日はこれまでとします。

　地球の皆様へ愛のエネルギー体の分身のグループより」

1999 年 11 月 1 6 日午後 10 時 30 分

　獅子座の流星群はオシラムに入られた星の霊が消えていくのです。見えるのはほんの一部で本当はもっと多いのです。

11 月 17 日 0 時 50 分

目が覚める

　星座の名前を持つ大きな星の霊です。どうして名前がつけられたのかお知らせします。

　大熊座＝大熊とはカナダのグリズリーのことです。星から見ていると森の者とよく話します。その森の者がグリズリーのことを教えてくれたのです。お母さん熊が小熊をとても可愛がることを。それで星の名前につけてあげたのです。それで小熊もあるのです。

　蠍座＝なぜあの虫が人をも殺す毒を与えられたかというと、あの星の争いであのMの大将がどうしてもつける

ように言ったのです。そしてあの星の者が降ろしたのです。

蟹座＝蟹がなぜあるかというとあのはさみで敵をやっつけるためです。

織り姫＝織物は星の者が教えたことを知らせるため、女の人の物語としました。

魚座＝空から見ていると広い海に何もないのは寂しいので魚座の者が魚を降ろしました。

獅子座＝ライオンは何者より強い動物でこの星の者はとても威張り屋で自分が一番強いという動物を作り、降ろしました。

双子座＝なぜ人間の双子にしたかというと、男と女で子供ができるので２人にしたのです。女ばかりでも男ばかりでも地球はおかしくなるでしょう。

水瓶座＝水は水星の者が作りましたが敵（白色星団）なので、水をつかまえる瓶にしたのです。

こと座＝頭にある嫌な思いを癒されるようにつけました。

白鳥座＝星がわがままなことばかり言うので大きな白い鳥がわがままな子供のような星たちをまとめる役にさ

せました。白色星団の気持ちを考えたのです。

　射手座＝射手座の星の霊はとても優しいのにこのような名前をつけられたのは人間の味方をしたからなのです。

　オリオンは前に話しましたね。星たちが自分たちのしてきたことを見直しています。これらを知らせてください。

1999 年 10 月 9 日夜中

　昨夜石油ストーブから真っ黒なすすがたくさん出ている夢を見て、そのあと太陽？から「太陽の作用のよい面は言わないで、、紫外線の悪いことばかり強調され、噂されている。黒いすすが噂です。とても嫌なのでかがやきを一時停止したい」半分寝ながら聞きました。それで「本には必ず以前聞いたことを載せてもらうから勘弁してください」と頼み寝ました。しばらくするととてもはっきりと

「泡が割れました。もの凄い勢いで分裂しています。そしてついに見えなくなりそれでも分裂しています。そしてゴミのように星を待っています？　そして終いのモ

ノがそのチリを集めています。それを地球の周りに膜を作ります。それがオゾンです。最初のモノは星のモノの思いつきで作られた水の泡のようなものです。泡の元がわかりました。星のケンカで星が爆発したもので細かなチリを集めて乾いた幕を張るのです？。２重になっているのです（O_3 が湿った膜）そしてフロンガスだけでなく大気の汚れが膜（オゾン）を壊しているのです。

　あなたたちが大急ぎでしなければいけないことは、まず放射能を出す元を断つことです。放射能は仲間を呼び寄せるのです。お空にある放射線を「こちらにおいで」と呼ぶのです。放射線が地球を取り巻いてくれる層（オゾンだけでない）を壊しているのです。それで放射能を出すモノを止めること。つぎに細かいチリの膜（オゾン層）がどうして消えていくかというと、星の者がお知らせするために隠しているのです。隠すということは怪我をすると穴があきます。そのことを意味しているのです。このことをしているのは悪者がしているのでないことをわかってほしいのです。（右下腹部が痛い。問うと治る）これまでのことが本当だという知らせでした。今の科学はあまりにも大気を汚します。今以上にエネルギーはい

りますか？　お仕事で何か落としていませんか？　人間としてなぜ生きているか知ることが大切なのに、生きる目的が間違っていませんか？　エネルギーを O_2 から取ることが間違っています」

1999 年 9 月 28 日

黒曜石の記事をみていると

　そうです。私たちのオナ？です。浜名湖にもあります。オナとはマナのことです。射手座から送ってもらった物が石になったのです。大昔にはこれはおいしいキノコのような物で射手座にはたくさん生えていました。悲しい思い出は変わりません。お腹が空いていてもそれが取りに行けなかったのです。マナはお餅のような物でとてもおいしかったのですが、お餅のような物であっても、地上に生えていたのです。仲間の元に行きたかったのです。でも動けませんでした。イシカミの息子です。白色星団に「教えました」と言うと「よくできました」と言われました。これでおしまいです。

　先日近所のご主人が亡くなられました。あいさつを交わすぐらいでおつきあいはない方でしたが降りてこられ

ました。近くの方は何人も亡くなられていますがこちらから呼びかけると（霊の）挨拶がありますが、むこうから来られたのは初めてでした。星の魂を持つ方が向こうから降りてこられるようです。

「星の者です。土星の魂を持っていました。あなたを助けようと近くに来ましたが、何の手伝いもできず申し訳ありませんでした。家内に〝わらび餅〟を供えてほしいと伝えてください」と言う挨拶でした。そしてTVで見た〝粘菌〟が頭に浮かび、その後メッセージがありました。

「マナは射手座の思いにより作られたと言いましたが、マナは粘菌が増殖したわらび餅のようなおいしい食べ物でした。射手座の思いが作らせたのです」

1999年10月8日22時

「可哀想な物語です。私は仲間の者とお仕事をしていました。お仕事とはお花を作る仕事です。花を作る計画の星でした。それなのに悪い嫌な星が私の星をなくしてしまったのです。私は皆にうらやましがられれていたのです。お花は誰にでも好かれる物です。それでやきもち

を妬かれたのです。そして消されたのです。お花を作るように言われたのは宇宙神です。私を愛してくれたからです。サネラという星でした。花という意味です。生意気なモノにより消された星たちが今甦っています。星が星の役目？をします。動物も星で作られました。キヨリメという星でした。今はなくなりました。とても変化に富んだ動物を作りました。人間の胎児が進化を物語っていますが、あのようになっていかないと身体が作れないのです。順番にしていかないと成長することができないからです。人間は神様が作られたのでお知らせはこれまでにしておきます」

1999 年 10 月 9 日 8 時

太陽系に第 10 惑星の発見が伝えられた記事を見ていると

「流れ星はお花を作れなかったサネラのモノです。そしてそれらのものが第 10 惑星に集まるのです。なぜあのような大きな星が今まで見つからなかったかというと、星といってもガスと変わらなかったからです。そしてなぜ急にわかったかというと、星の物語の証人として

姿を現したのです。花を作れなかった星の霊が集まり霊の思いがとてもたくさんになり形に現れたのです。かわいらしい？自然の子供が現れたのと同じなのです。花が笑っています。誰に作ってもらってもよかったと。これからは遺伝子操作でよりきれいな丈夫な花がたくさんできるのは、この第 10 惑星の皆が作り出しているのです。そのことを地球の皆は思ってください。人間だけの力でないことを知ってください」

1999 年 8 月 5 日 20 時

夕方からずーっと耳たぶが熱く感じる

「お知らせします。名前のない白色星回の団長です。急いでお知らせしたく耳に知らせていました。星が並んでくれました。それなのに皆が何も力が出ないと言うのです。なぜならグランドクロスは悪いことが起こると思っている人がとても多いからです。それなのになぜ我々が力を与えねばならぬかと白色星団の全員が言うのです。お仕事の見直しをしようと思うのです。今の地球の人のことより新たなる地球に生まれ変わった方がいいのでないかとさえ思えるのです」「頑張ってこれまで知

らせてくださったことをできるだけたくさんの方にお知らせするように努めますので、しばらくお待ちください」とお願いする。「わかりました」と返事あり。

1999 年 11 月 4 日 22 時 30 分

新聞の記事（銀河の衝突）を見て私がこれまで受けた情報は本当だったのだろうか？　と思っていると

「星の物語に心を止めておいてください。あなただけが連絡のできる人なのです。

２つの銀河の融合は星の物語をお知らせするためです。そうです。これらのお知らせは他の人に信じてもらえなくても記録として残しておいてください。星の霊を持って生まれた人はこれまでの考えを捨ててください。

星の〝またたき〟は何を現しているか考えてください。ただの石ころならあのようにおびただしい星が一斉にまたたきません。なぜまたたくかお知らせの文をよく読んでください。星のお願いを聞いてください。星の言葉のわかるこの文をよく読んでください。あらゆる星はただの石ころではありません。たくさんの霊がすんでいるのです。そしてあらゆる思いをまたたきにしているのです。

星の宮の元に皆います。お知らせはここからしています。
　本当の物語「星からのメッセージ」に耳を傾けてください。

2000年1月1日

「カナモリ　カテニです。（地球神の方なのでいろいろとお礼を言う）その言葉を待っていました。私がなぜカナモリ　カテニというかと申しますと、私の中におもらいもの（金属）がたくさん詰まっているからです。カテニという言葉は星の言葉で〝青い〟という意味なのです。おもらいものが詰まった星がなぜ水で覆われているかというとおもらいものは鉄なのです。鉄は今の言葉で言うと金属ですが〝磁気〟を帯びています。この磁気が宇宙の水を引き寄せたのです。なぜ磁気ができたかというと、星は勇ましいものが右と左に分かれ地球を取り合いしたので、面白い力（磁気）ができたのです。それが磁力です。そうです。星間の争いの時引っ張りあいをしたからです。なぜ地球を取り合ったかというと宇宙神が降りられた星だからです。磁力が宇宙から鉄（金属）を引き寄せ大きくなったのです。地球の中がなぜマグマに

なり沸勝したかというとアサモリカテニが生きているからです。そして地球に生きている物を育てることができるからです。また、なぜ地球のお腹がマグマになっているかというと白い木のせいなのです。白い木とは稲妻なのです。稲妻のエネルギーがたくさんお腹に入ったのです。それでお腹がマグマになったのです。これでわかりましたか？　白い木とは稲妻のことなのです。地球が宇宙の中心なのです。宇宙神がいるからです。それで星たちが私を取り合いして争いになったのです」

２．イエスたちからのメッセージ

1998 年 7 月末日

ギリシャで、の霊的体験

　見えない世界での体験があり、あまりにも精神的に大変でしたのですべてを忘れたく、また魂の保養のためにギリシャ旅行に出かけました。

　ミコノス島の荒涼とした風景を見ていると突然「イエスです。イスラエルもこのような風景です。地上（？）に降りてとてもびっくりしました。十字架やはりつけ付

の十字架が店に売ってあったり教会に掲げてあるのを見てとてもつらいです。

あれは私を信じるとこうなるぞという意味でローマ兵が売り出した道具なのに……

十字架はともかく、はりつけの十字架はどうしても取り外してほしいと、宗教家に伝えてほしい。

またヴァチカンに聖ヨハネの逆さはりつけがそのままにしてる（？）のでまっすぐにしてやってほしい」

と口が自然に動き言葉となってきました（それまでは頭に言葉が聞こえてきたのですが)。

続いて次のような言葉が出てきました。「ユダが一番の親友であった。2000 年も前のことであまりはっきりとは覚えていないがいろいろなことが思い出されてくる」

霊が降りる前に頭頂部に違和感があり、イエスは右手のひら、マホメットは左手のひら、マリアは右側腹部、等の軽い痛みで、星からは一点の痒みで知らされ問いかけると治ります。

イエスからのメッセージ

「私はイエスです。キリスト（救世主）と呼ばないでください。

私は持って生まれた超能力と若い頃インドで修業したアーユルヴェーダでたくさんの病気の人を治していたら、とてもたくさんの人が私のところへ来てくれるようになり、弟子たちも増えてきました。

私はいつも母と父の関係を見て育ったので男女の肉体関係は女性をいたぶるものと思っていましたので弟子たちにそのことを厳しく禁じていたのです。

そのことで、弟子たちが不満を持っていることは知っていましたが、まさかそのことで私をローマ兵に売るとは思っていませんでした。

あの日のことは思い出すのも嫌なので他の人のメッセージを参考にしてください。

私を助けてくれたのは本当はユダとインド人と弟なのです。おばのマリアも世話をしてくれました。私が死んだということで皆何か特別なことが起こるのではないかと、とても恐れていました。

その時に本当に雷鳴が響いたのです。神は音と光を出すことはできるのです。

十字架にかけられた釘の痕の傷が治った後、４人（イエス、弟、ユダ、インド人の友人）で暗闇の中のイスラエルを脱出しました。

インドまでは４人でしたがインドからは弟のサナンダと２人でもらった船で日本に行きました。

日本の東北地方に到着し山奥に逃げました。弟は現地の女性と一緒になり一男三女をもうけました。昔のことであまり詳しいことはどうしてもこれ以上思い出せませんが、また少しでも思い出したら伝えます。

次にどうしても世に知らせてほしいと
マホメットからもメッセージ、がありました

「『目には目を』という意味は見て美しい物をもらったら同じような物をお返しするように、『歯には歯を』は食べる物をもらったら食べ物を、というようにもらいっぱなしにしないという意味で言った。

恵まれて育ったので大切な愛について語らなかったが一番大切なこととここにきてわかった。

女性にマントを着せたり頭にかぶせたりするのは可哀想だ。寒いところで着る物をどうして暑いところでも強

いるのか。頭のかぶり物も食べ物の中に髪の毛が入るのがとても嫌だったのでかぶってもらっただけである。
　今、霊界から皆さんが、宗教に関係なくお互いに助け合い平和に暮らしてくれることを願っています」

　なぜ、次から次へと霊が目覚めたかというと、地球を守ってくれている白色星団が、霊の目覚めを促すエネルギーを与えてくれたからだそうです。
　どの霊も本当のことを話すようにと言われたと言っていました。
　なぜ、これらのことを世に知らせなければならないかと聞くと、「イエス、マホメットだけが神の子でない。人間は皆、神（愛のエネルギー体）の子である。それゆえ、民族、宗教の違いで争わないでほしい。
『人類皆平和、皆愛、皆兄弟』この言葉を世に広めてほしい」と言われました。
　この言葉は私が綾部で大変つらい体験をしている時、絶えず口ずさんでいた言葉です。白色星団からの精一杯の応援だったそうです。

マリアからのメッセージ

「私はマリア・イネアと申します。イエスがどうしてもメッセージを送るように申しますので皆様にお願いのことを伝えたいと思います。

私マリアはただの母親でした。皆様の、思ってらっしゃるようなマリアとはとても違うので今、そのことをお知らせしたいと思います。

まず私はとても身体が小さく大人になっても少女くらいの背しかありませんでした。夫のヨセフの腰までしかありませんでした。男女の肉体の関係はありましたので、処女ではありませんでした。このことを一番皆さんに知らせたいのです。

それにとても貧しかったので落ち穂拾いなどをしてイエスとサナンダを育てました。イエスはとてもおとなしく賢い子でした。それに比べサナンダはとてもやんちゃでした。ヨセフ・イネア（夫）は大酒飲みでした。

私はみんなに働き者と言われていましたが、身体はあまり丈夫ではありませんでした。

ある晩とても恐ろしいヴィジョンを見ました。それはイエスがとても大変なものを背負って歩いている姿でし

た。それが十字架だったのです。それを見た途端に私はお腹がとても痛くなり、そのまま死んでしまいました。

上から自分の姿を見ていました。あちこちに空を飛んでいると、あの恐ろしい風景に出会ったのです。夢と同じようにイエスが十字架を背負わされて歩いてるので、私はイエスについていきました。

そしてイエスにこう言いました。「気を失ったふりをしなさい。そして大声で叫ぴなさい」と。イエスは何度も何度も叫びました。

私がまた「本当に気を失ったふりをしなさい」とイエスに言いました。傍に立っていたローマ兵に言ったのです。「あなたのことは神が許しません」。するとローマ兵はあわてて逃げていきました。これから先のことは覚えていません。

後、私が皆様にお詫びしたいのは皆様が一生懸命私にお願いされても私は何もしてあげることができないのがとても辛いのです。あなた方の力で頑張ってくだされたくお願いします。

あわれな人たちがあまりにも多いのに何もできないので血の涙を流すのです。お互いが助け合って人間として

楽しく生きてください」

ユダからのメッセージ

「私はユダノイヤです。なぜ今まで地上に降りてこなかったかというとあまりに多くに人が私のことを裏切り者と思っているのでとても恐ろしくて出てこれなかったのです。何度も何度も本当のことは違うと言いたかったけれど、気が弱い性格でしたので、言い出せなかったのです。一生懸命なぜこのようになったか思い出していてはっきりと思い出せたので、この女性の口を借りて、この夜中にメッセージを記したのです。

イエス様との最後の食事の時、イエス様はこう言われた。「あなたたち、そうです。たちと複数でした。あなたたちは私をローマ兵に売ったのですね」と皆を見ながら言われたのです。皆はピックリした顔をしていました。私はぼーっと聞いていましたので「何を売ったのだろう」と思っていました。

するとイエス様は「ユダは知らなくてもいい」と優しく言われたのです。未だに何を売ったのかわからないの

です。

それからあの恐ろしいことが起こったのです。私は何だかわからなく泣いてばかりいたら、誰か知らないけれど「裏切り者」と私を呼ぶようになったのです。私の言葉を誰も信じてくれませんでした。

イエス様の弟が私を呼んで遺体（イエス様は死んでいると思った）を運ぶようにと言ったのでお墓に運びました。それから私は何をしたか憶えていません。

何日かして、イタリア人の子供が泣きながら「お願いだから､イエス様のところへ行って」と言ってきました。

イエス様は元気になり、泣いている私に「インドへ行こう」と言われました。イエス様と弟と私はインド人と夜中に出かけたのです。

旅のことはほとんど憶えていません。インドで私はイエス様と別れました。インドの北の人は荒々しい人が多かったのでインド人について南インドに行きました。

そこでアーユルヴェーダを習い、多くの貧しい人たちを助けて現地で死にました」

1998 年 11 月 7 日夜中、11 月 9 日、12 月 11 日と続けて記憶が匙ったからとバーソロミューからメッセージあり

「イタリアで生まれたが、両親が聖地巡礼のためエルサレムに来た時、迷子になりイドニア人に連れられてマリアのところに連れていってもらいました。私は言葉もわからず泣いてばかりいました。マリアはとても優しく食事をさせてくれました。その頃、すでにイエス様を慕う人々が、たくさん家の周りに来ていました。私は毎日親を待っていましたが、いつまでたっても来ませんでした。親はとてもお金持ちでしたがユダヤ人だったため、エルサレムに報告（？）のためにイタリアから来ていたのです。私は言葉がわからなかったけれど少しずつ覚えていき、イエス様の仕事のお手伝いをしていました。そしていつもイエス様と行動をともにしました。大勢の人が彼を慕ってやってきました。いろいろな国の人まで来るようになりました。私はイタリア人の世話をしました。イエス様はとてつもなく優しく、生まれつき持っていた病気を治す力と、イエス様の友達のインド人に教えてもらったアーユルヴェーダでたくさんの人の病気を治して

いました。私は小きかったので何も知らなかったが、大きくなるにつれイエス様の言っておられたことを皆に教えていました。ある時からいろいろなことがわかるようになり少しずつ紙に書いていきました。なんのことかわからないけど、いろいろと頭に聞こえてくることを書きました。死海のほとりで私はいろいろな人と一緒に暮らしていました。その当時は死海でなく魚も棲んでいましたし、周りにはたくさんの草も生えていました。私たちはあまり人のいないところで 5、６人一緒に暮らしていました。それからあらゆるところへイエス様の教えを伝えにいきました。ある朝私の横にいつもいたヨハネが捕まえられました。そして恐ろしいことに逆さ磔にされたのです。私は泣き叫び続けました。ヨハネはすぐ死にました。十字架につけられたまま壁に押しつけられたのです。皆はイエス様のせいだ、と言っていました。イエス様の遺体がなくなっていたからです。その後たくさんの人が見にきました。そして可哀想にとお祈りをしていました。お祈りが終わると泣きながら帰っていきました。それからお参りする人がなにがしかのお金をお供えし出したのです。そのお金があのような立派な教会になった

のです。私は何年もかかって〝死海写本〟と呼ばれるようになった物を書きました。それからあまり思い出せないのです」

1998 年 11 月 14 日

「私はイスカリオのユダです。私の父はパリサイ人で金持ちでした。私の母はユダヤ人でお屋敷で働いていました。いわゆる二号さんでした。父はとても辛く私と母に当たりました。そしてわざわざ私の名前をユダと付けたのです。当然父親だとは決して言いませんでした。イスカリオ家での生活は耐えられないほど辛いものでしたのでイエス様のところにおじゃましたのです。なぜイエス様に惹かれたかというと死んでも来世があると教えられたからです。パリサイの教えは死んだら何もないと教えられていました。イエス様のところでおじゃましていたのですが私にパリサイの血が流れている、ということでここでもとてもいじめられました。パリサイ人がローマ人についでの支配者でユダヤ人はいわゆる下層階級になるのです。ユダヤ人はあらゆる国から来ていましたのであらゆる言葉を喋りました。

イエス様と私たちがインドへ脱出した後はしばらくはイエスさまのことを恐れていましたが、インドへ行ったことがわかった途端、いわゆるキリスト教狩りが始まったそうです。私の父は自殺し、母は殺されたそうです」

1998 年 11 月 15 日早朝

右脇腹が痛くて目が覚める。マリアが「イスカリオのユダが言葉を教えてくれるのでノートに書いてください。すべての話が終わったのでおいとまします」と言われる。

霊（ナニラ）、目（アネ）、口（イノ？）、家建物（ニットレ）、神（ヤハウェー）、手（ニアレリ）、足（ランナニ）、土地（アルメリア）、雨（エネあまり使わない）、パン（フン）、ミルク（羊のミルク、ナソー）、葡萄酒（イネアダ）、魚（ウネリア）、光（一番使いました、イチライ）、雷（あまりないので知らない）、食べる（トンネ）、羊（ヤン）、小麦粉（サラナ）、火（明かり、ナニラ）、煮る（エイ）、牛（マスニ）、文字（字は墨で書いた、ニヤリト）、スミ（イラナ）、肉（ヤク）、太陽（ニロ）、馬車（アレニア）、履き物（ラーセン）、服（オリサニ）、大人（イユー）、食

べる（サソ）、子供が産まれる（イカネル）、殺される（ナッソー）、水（ニゲロ）、……したい（アナ）、できない（イーネル）。

1999 年 1 月 19 日

右手がチクチク痛む

問いかけるとノートに書いて欲しいと

「ナザレ人イエスです。『イスキリ』とは、イエスキリストを略して名乗っていました。（日本で）あるところで宿っていたがそこにもたくさんの人が来ましたので病気を治していました。そこでしばらく滞在していました。その頃山に行きました。いわゆる霊山で霊（気分？）がとても楽になる山だったと思いました。その後空海さんも登られたそうです。私たちは霊界でお互いそのことを思い出したのです。今思い出したことだけお知らせします」

1998 年 11 月 11 日

車の中で右手薬指が痛い。バーソロミューからのメッセージである。「どこの町かわからないけどマリアと歩

いていると、大男のローマ兵がマリアに『イエスはどこにいる』と聞いたのでマリアが『イレニアにいる』と答えました。これだけだけど思い出したから町の名前だけでも書いて」と言ってくる。

続いて、「ヨハネです。（イエス様を売ったと思われなくて良かったです。あまりにも昔のことで何が何やらわかりませんでした。あまりにも辛い思い出だったので忘れよう、忘れようと一生懸命思っていました。でも今はっきりとイエス様を売っていないことが証明されましたので降りてきました。仲良しだったルカもここにいます」

「私がマタイです。あなたがいつも聴いていたマタイ受難曲のマタイです。私もとてつもなく迫害されました。あのコロッセオでライオンに食べられたのです。今そのことを思い出しました。大勢のキリスト教徒がとても無惨に殺されたのです。来世を信じていたので死ぬことは怖くなかったのです。大勢の人が見ていました。とても楽しそうに見ていました。パリサイ人が見ていました。私たちは１人ずつにされ生け贄にされたのです。私たちが見ている前で殺されました。『神様お助け下さい』と一生懸命言う人もいました。私の番になりました。そ

れからは覚えていないのです。あまり苦痛を感じず気がついたら今のところにいました。それから今まで眠っていました。イエス様がとても怒っておられるのを思い出しました。元気な男ばかり一緒に住んでいました。なぜイエス様に怒られたかは皆に知らせないでください」

1998 年 12 月 4 日夜中

ラ、ラ、ラ、と続き「ライオンに食べられたマタイです」とユーモアを交えて、イエスに叱られた理由を記録しなかったことのお礼だった。

1999 年 1 月 23 日

「ライオンのマタイです。私は農業をしていましたが、イエスの教えにとても感動して田舎から出て、皆と一緒に生活をしていました。イエス（38 歳）より 10 歳若かったです。女の人も一緒に生活していたので、また、若かったので一緒に寝たりしてイエス様に叱られました。ライオンの前に出された時はとても恐ろしかったことを思い出しました。すぐに気を失い、気がついたらここ（霊界）にいました」

1998 年 11 月 12 日夜中

右脇腹がピクピクして目を覚ます

「イレニアのマリアです。思い出したのです。あの後大男が家に来てイエスを指さし『お前がイエスか』と言ったのです。それだけ言うと帰りました。しばらくしていつものようにいろいろの病人が家に来ました。それから私の身体がとても弱ってあまりのお腹の痛さに気を失ってそのまま死んでしまいました。気がつくとお腹の上に坐っていました。私はなぜ痛みがないのか不思議でした。その後、上に上っていくと家の外に出ました。それから何をしたか…思い出しました。イエスの霊に『もうすぐローマ兵が来るから逃げなさい。あなたを連れていくのです。私について来なさい。日本という国にいきましょう。日本という国はとても優しい人ばかりいると言われています。モーゼも行きたかったと言われています。それでナレニアにいるユダとサナンダを連れて、インド人にお金を与えて一緒に行きなさい。それが一番楽な生き方です』と言ったのですが、生きているイエスにはわかりませんでした。それであのような思い出したくないこ

とになったのです。イエスの霊とはいつも話していましたので、あの処刑の時には一生懸命イエスの霊に話しかけ『気を失った振りをしなさい』と何度も言ったのです。

お墓の中にはユダ、サナンダ、夫の姉のマリア、イエスの弟子のイエール、マリの国の人インドの国の人などたくさんの人がいました。インドの人が傷の手当をしてくれました。しばらくするとイエスは意識を取り戻し、頭を振りました。皆とてもうれしそうでした。イエスは皆にこう言いました。『私は一度いなくなる。そして必ず戻ってくるから悲しまないように。日本に行きます。』と言ったのです。『新たなる命を与えられた』とも言っていました。これまでとします」

「私はイエスの父、イスキアのヨハネと呼ばれていました。本当に私は大酒のみでとても皆に苦労をかけました。マリアより長生きしましたのでマリアの言っていることは本当です。

イエスのために何もしてやれなかったばかりか、とても貧しい思いをさせました。イエスからどうしても告げるように言われたので降りてきました」

1998 年 11 月 12 日昼

「イエスです。今天界にいます。ここには私とマホメットと空海の 3 つのエネルギー体がいます。空海が私のことを〝イスキリ〟ですかと聞いてきました。それから私はいろいろなことを思い出したのです。船で日本に着いた後、私は土地の人の病気を治してあげていました。そして何年かして私は弟と別れて南の方へ行きました。私はいつも人の世話をするので、土地の人はとても私を頼ってくれました。それで南にやすやすと行けたのです。何年かして南の町に着きました。そこが〝イスキリ〟と呼ばれる町です。そこで私は病気の人を癒していました。これからどうしても思い出せないのです」

続いてモーゼからのメッセージです。

「わしはモーゼ、エレミアという。今、この婦人から呼ばれたので長い眠りから覚めた。一度は今、書いている者に降りようとしたがあまりにも大変困っていたので辞めにした。わしからは特に何も言うことはない。霊の力はあまりない。なぜならわしは皆が思っているほどの

ことはしていない。歴史は作られている。今の今、思い出した。わしはとてつもないことをしてきた。それはとても大変なことであった。あのエジプトからのことはいまだに不思議であった。野良犬のようにされていたユダヤの民を助けるために一生懸命にヤハウェーの神に頼んだ。本当に海は割れたのだ。あまりのことに気がふれたのでないかと思った。それからのことはあまり覚えていない」

1999 年 1 月 25 日朝

右拇指（親指）が少し痛く問うと治る

あまりはっきりと口が動かない

「石屋のヨハネです。思い出したことを話します。私は 41 歳、バーソロミユーは 12 歳でした。とても手に負えない悪きをするため、皆でお仕置きをしていたところをイエス様に見つかり「なんてことをしている」ととても叱られました。それで皆仲間がイエス様から離れたのです。溝ができたのです。けれどもイエス様の身体が失われたことでやはり神の子だったんだと皆思い、一生懸命イエス様の教えを広めたのです。これから後のこと

は思い出したくないのです。あなたの言葉が世に広まりますようにここにいる皆は祈っています。願わくば神のご加護がありますように」

1999 年 1 月 2 日

マタイから「とても生意気な子供の名前のいわれがわかりました。バール＝外人、異人。ソロ＝１人。ミユー＝子供。で本当はバールソロミューと発音するのです」と言ってくる。

ルカ（若者）です。ルカの実から名前を取りました。お酒にする木の実です。バーソロミューとやさしく遊んであげました。ルカがなぜお城？を抜けだしイエス様のところに来たかというと、お城の中に出る幽霊が怖かったのです。父はユー族の王様でした。教えようとしたのです。エジプトで死んだユー族の者が己の物語を教えようとしたのです。ルカは王子でありながら怖くてイエス様のところに来たのです。

1999 年 1 月 26 日夜中

右アキレス腱がとても痛く目が覚める。痛くなる心当

たりがないため問うと、「イザヤです。今霊界では大変なことになっているのです。イエス様を信じてひどい殺され方をした人の霊がとてもたくさん集まって『神の子だと信じていたのに、あのようなことを言って世の人に知らせないで』とイエス様に迫っているのです。私もそう思います」と言ってくる。眠いのでそのままにしておくと痛くて眠れない。「キリスト教やイスラム教など宗教の違いで未だに争いが絶えない。イエスやマホメットが人間の子供であったと思うことと、人間は皆神の子（愛のエネルギー体の分身）だと思うと争いはなくなる。イエスやマホメットは自分たちのお兄さんだと思うと兄弟皆仲良くなれるので、今どうしても世間に発表しなければならないのです」とイザヤに霊の皆に伝えてくれるように頼む。痛みはなくなる。朝痛みもなくよく眠れた。「イザヤです。皆に説明するとよくわかってくれました。皆でお祝いをしています」とメッセージあり。

1999 年 2 月 7 日夜中

ナレニアのマナミより連絡したいと

「イエス様の子供を宿したとマリアに告げると嫌な顔

をされたのでナレニアに帰り女の子を産みました（このことは他の人に知らせたことがあります)。女の子はイスキア人に預け、またイエス様のところに戻り世話をしました。マリアが嫌な顔をされたのはイエス様の弟子に女性との関係を持たないように言っていたからだと思います。

私もライオンに食べられて死にました。可哀想に思ってくださってありがたいけれど生きていく方が辛かったので、死ねてうれしかったわ。あれからイエスさまの側におれるから」

右脇腹がピクピクする。マリアから

「夫ヨハネは大男で２メートルを越えて力持ちでした。ワインをたくさんいただくようになり大酒飲みになり、飲むと暴れて私やバーソロミューに暴力を振るいました。イエスやサナンダにはしてません。私はお腹を蹴られて内蔵が破れて死にました。ヨハネはとても後悔しました。イエスも磔にあい誰にも看取られることなく、私のお墓の上で死にました。お墓の下にダイアモンド等を埋めてから死にました。ベツレヘム（昔のイエロダイ）

の北に今もあります。マナミのお墓も隣にあります。小さな石の下です。

イエスがワインが血だと言ったのは、父がワインを飲み過ぎるから言ったのです。パンが肉と言った覚えはないのです」

1999 年 1 月 22 日

眠れないでいると右手のひらに痛みあり

「思い出しました。ナザレ人でなくイエス、イネアでした。ナザレとは〝癒し〟という意味で〝癒しをする人〟という意味です」とだけ伝えられる。

1999 年 1 月 5 日

左拇指（親指）が痛む

「ヨハネ、ナレツニ（？）と呼ばれていたように思うが定かでない。が、思い出したことを告げたい。

石屋に勤めていた。石で家を建てていた。イエスの父とは友達というより弟子でした。なぜイエスの弟子になったかというと、死んでも生まれ変われるという教え

に惹かれたからです。イエスのなりふりかまわぬ人助けにもとても惹かれました。イエスがいなくなった後、一度は石屋に戻りましたが、大勢の人が私のところへ来てなにやかや相談に来るため、イエスの教えをそのまま教えていました。イエスの話はしないようにローマ人からは、何度も言われたが大勢の人が聞きにくるため話していたら、捕まえられ逆さ磔にされた。皆が思うほど苦しくはなかった。すぐに気を失ったからだ。黙示録はとても嫌なことがあり、あるところで瞑想をしていたら、次々とビジョンが見えて、未来はこうなるぞと言う声も聞こえてきたのですが、霊界で起こることなので心配しないでください」

　イエスから「テレビでマグダラのマリアに子供を産ませたと出ていたが断じてそれはない。なんら関係はないので必ず知らせてほしい」と

1999 年 2 月 1 5 日朝

エマ、エマと言って目が覚める

「本当の名前はエマトでした。イエス様の身の回りの

世話をしていてとても好きになりました。何度もお寝間に忍び込みましたが追い返されました。そのうち見たのです。あの女がイエス様と一緒に居るのを。それで私がローマ兵に告げたのです。イエス様が〝ユダヤの王と言っている〟と。そうすればローマ兵に怒られお医者さんができなくなり、あの女と別れられると思ったのです。ただそうなってほしいのでローマ兵に言ったのです。星の方が降りて話しなさいと言いました。そうすれば許されると」（なぜイエスがユダヤの王と言ったのか当時の霊に聞いていたのですとコメントがありました）

1999 年 3 月 7 日

昨夜夜中にイエスよりノートに書いてほしいと言われるも、とても眠くお断りする。朝

「ネバラストにいます。ヨハンシュンセンが呼んでくれたので。くま（我が家の愛犬だった）もいると、天国そのものです。私が人間だった時は本当に大変だった。なぜ地球があのように地獄のようになったか知らせるのでノートに書いてください。

〝アトランティスの頃は本当に天国だったが、水の膜

を破壊されてなった。破壊したのはMで、またMが神として送り込んだMの霊があのように地球をめちゃめちゃにした。地球は宇宙の中心で皆（太陽、水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、めい王星）にとても大切にされていました。そのせいでとてものんびりしていたのです。Mには妬みがあり、それで水の膜を破壊し、のんびりとした地球人を支配しようとしたのです（霊的に）。

　でも太陽を中心に太陽系の惑星の霊が地球を見守っていました。グランドクロスになった時に皆でMの霊による支配をやめさせようと計画していました〞と名のない星から教えられたことをお話しします」

　ネバラストの庭はたくさんの名のわからないきれいな花がとてもたくさん咲いています。皆のらりくらりと動いています。人の形をしています。ヨハンシュンセンはレーザーのように１本の光の柱です。私のからだは自分では何も見えません。めまぐるしく景色が変わっていきます。グランドクロスの時、皆でMを追い出そうと計画したのを、Mは察知して不吉なことが起こると予言させていたのです。でも地球人はMの霊による支配から解

放されるいい年なのです。

あらゆる星から人間の姿をして霊が助けにきています。あなたのところにやってくるでしょう。でもほとんどの人が目覚めていません。地球人の霊的進化が遅れているので、グランドクロスの時に呼びかけてもチャネリングできる人がとても少ないのでないかと心配しています」

1999 年 3 月 26 日

ペルー人の男の子と話した後、台所で「ベルーの皆様へ。私はマリアです。この婦人を通して私からあなた方に謝りたく思います。イエスや私マリアの名の下にペルーの皆様には大変な目にあわせて本当に申し訳なく思っています。お詫び申し上げます。大変な目にあわせたにもかかわらず私のことを思ってくださり何と申していいかわかりません。私を信じてお祈りして

くださいますのに、何らお力になれないことが本当に悲しいです」このことを必ずベルーの方に伝えてください、と。

1999 年 6 月 25 日

「イエスです。思い出したので書いてください。12 才頃よりインド人についてインドへ行ったりエルサレムに帰ったりしていました。ほとんど商売の人についていたのです。のんびりとした船に乗って行ったり来たりしていたと思います。インドに行く前にイスラムの親となったマホメットがいたのです。それで 2 人は何を話していたかというと〝どうすれば皆仲良く生きていけるか〟ということを話し合っていました。ある日私は生身の身体を見せました。マホメットに同じ手の傷を見たのです。手の傷は手の平の真ん中にとてもハッキリと傷跡があるので、マホメットになぜここに傷があるのかたずねました。マホメットはわからないうちにできたというのです。私もそうだったのです。私たちは兄弟かもしれないと思いました。物語はそれだけです。マホメットは私たちが船に乗るところにいました。

1999 年 10 月 10 日 2 時 30 分

自が覚める

「イエスです。これだけは書いてほしいのです。

広い野原（イスラエル）に立ち星を見ていました。そしてしばらくして私は不思議な感覚がしたのです。それはこれまでに感じたことのない感じでした。そしてこれまでに見たこともないモノが目の前にありました。それは言葉で表せないモノでした。そして身体の真ん中がもの凄く気持ちがいい感じがしました。そしてそれから彼ら(星の物語の真面目なヒト)が私にこう言いました。「これからいつでもこんなにしてあげるから私たちの物語を伝えなさい」と言われました。その言葉は次の言葉でした。

「日いずる国に星の神があるのでそこに行って星の神を大切にしてください」その言葉が私の聞いた最初の言葉でした。そして死んでからの世がわかるようになったのです。何も死ぬことは怖くないと思いました。この世に再び生まれてこないためには賢く生きることだと思いました。人のために尽くせば死んでからその時見た天国に永遠におれると教えられたのです。それで、教えられた通りに努力しました。気持ちがよくなる度に私は面白いことに気づきました。それは私が病人の悪いところを触るとそこがよくなっていくのです。聖書に書いてある

通りに皆元気になっていくのです。そして私の噂は遠くまで広がりました。それで命を狙われたのです。私が魔法を使っているという噂が流れ出したのです。私はこのまま殺されてもいいと思いました。それほどたくさんの人が来たのです。そしてあのようになったのです。

　そうです。夜空の星を見ているともの凄く気持ちよくなったのです。そしてきっきの言葉がとてもはっきりと聞こえたのです（私が本当ですか？　と聞いたので）。

　日いずる国が私にはわかりませんでしたが、何度もインドに行った人が東の果てにあると言っていました。今思い出したのは子供の頃、船乗りを見て頼もしく思い、インドへ行く船に乗り込みました。その時マホメットとは友達というより船主の息子と船員の間柄でしたが、知り合いました。そして名前の通り「イエス、イエス」と言っていました。インドには宝があると言われ行きました。宝とは胡板、宝石、ナツメグでした。行く時はお塩とものものしい刀をたくさん積んでいき、帰りは胡楓と宝物を積んで帰りました。船旅は快適とは言えませんでした。荒くれ男が何も知らない私をからかいました……。

イエスより思い出しましたので、ノートに書いてくださいとメッセージあり

石切神社の横のお墓に私の名前が書いてあります（霊は霊界の話をされるので、3 次元の現実にはないと思う）。

石切をする人と漢字で書いてあります。私の名前はイスキリと言ってました。私が弱って皆に世話を受け死にました。私は、今、それを思い出したのです。

1999 年 10 月 7 日 9 時

右手のひらがとても痛い。問うと治まる

「イエスです。私たちからもこれまでのお話が（星の物語）本当だと言ってほしいと名のない星より頼まれました。あからさまな嫌がらせはされないけれど、いろんなこと（地震、放射能事故など）はお知らせなのです。水素のエンジンも聞いてください。降りて伝えるように言われました。マホメット、釈迦、空海、イエスたちより」

2000 年 1 月 22 日朝

まどろんでいると

　コロッセオにいます。イスカリオのユダの母親でございます。この日を迎え本当にありがたく思っております。私の愛息子がイエス様を売ったといわれ、私はローマ兵に大切にされました。必ずこれだけはお知らせしたいのは、息子はイエス様を裏切ってはいないということです。私の愛息子はいつもイエス様のことをキリスト（救世主）だといっていましたから。愛息子は自殺をしたと伝えられましたが私は遺体にはあっていません。噂を問いただけでした。私はお妾さんでしたので話相手がいませんでした。主人は変わり者でしたので絶えず私を押し倒していました。オシラムに入られていたのです。私が忘れられないのはイエス様のお身体がなくなってからです。それまでローマ兵は私を大切にしてくれていましたが、ある日のこと私はローマに連れて行かれました。そしてコロッセオに入れられたのです。私ともう１人の女の人がいました。私はそこに入れられライオンに食べられる前に、霊となり身体から出て恐ろしい光景を見ていました。今は降りていますが霊界では息子と一緒におれます。星の方が降りて話しなさいと言われました。これから星

になります。私の主人は息子が逃げたとわかり、ローマ兵に財産を取り上げられ、生きていけなくなり自殺しました。あまり学びにはなりませんでした。ユダの母親より

３．イシカミからのメッセージ

「岐阜が日本の中心なのです。私は、イシカミです。大昔射手座から降りてきました。射手座からなぜ降りてきたかというと磁気嵐がひどくなったからです。私たちは巨人でした。

地球は引力がとても強く歩くのがとても大変でした。それであちこちにピラミッドを作りエネルギーを得ようとしました。何で作ったかというと落とし物で作りました。始めは柔らかく自由に作れました。オリオンからのエネルギーももらおうとも思いました。射手座からはエネルギーを光の玉にして送ってもらいましたが、生きていくことはとても大変でした。特に北の方に降りた者は食べ物が少なく可哀想なことをしました。それに比べエジプトに降りた者は食べ物がたくさんあり、何代か続き

ましたが滅んでしまいました。スフインクスは猫だったのです。ネズミが多かったので猫を連れてきました。その像だったのですが、勇ましい王（小さい王）の時に、女の顔に作り換えました。なぜなら、いつも女がひざまずいてることを望んだからです。ピラミッドパワーを得るためで、ピラミッドの中はあまり意味がありません。小さな人間が入れるように木で道をつけておいたのです。石棺と言われている物は巨人の指輸入れなのです。入れ忘れて蓋をしてしまったのです。

日本の磐座は巨人の落とし物です。地球に来てとても心細く泣いていたのです。亡くなることがわかると横になり体に土をかけました。それで山になったのもあります。そこから山の神と呼ばれるようになりました。また、光の玉が神社のシンボルマークになりました。また、潮の干満もとても影響を与えました。

ナスカの地上絵は巨人が描きました。いさご（川にある大きめの砂利）を宇宙の強力な火で焼いて地球の動物を見て描きました。余分の線が描いてあるのは、たんに焼いたいさごが余ったからです。蜘妹はねばねばした糸

がどうして出るのか不思議だったのです」

1999 年 6 月 9 日

10 万年前の石器の写真を見ていると「これは私の落とし物です。イナサカと申します。これからたくさん出てくると思います。ここにあるよと、知らせているのです。言葉で何もしてあげれなかったので落とし物をわざわざ置いたのです。それで作りました。仲間の人に俺が作った、と見せているのを思い出しました。私は寝ながら見ていました。本当の話です。今は射手座の霊界にいます。ここは現実と同じで？皆とても仲良しです。頭の者（リーダー）が皆をとても大事にしてくれます。地球に行った者は勇敢な者として崇められています。悪いことをしたと本当に心からお詫びいたします。何としてでもこのことを世界中に知らせてほしいのです。おんどりが鳴くまでに横になっていましたので、人間には見られなかったと思います。おもちちゃんのことは何も知らないのです。可哀想なことをしたと思います。今は一緒にいます。思い出したくないのでこれで勘弁してください。さようなら」

1999 年 6 月 3 日午前 1 時

眠れないでいると「ワナ、ワナ、ワナ、」と繰り返す。泣いている時の言葉なので「どなたですか？」聞くと「名前がないの。おもらししちゃったの」と。何日か前にも同じことを言ってきていたがノートに書いてくれなかったからまた降りてきたと。名前をつけてと言うので「はなちゃん」とする。

「私ははなちゃん、生まれてすぐにお母さんが死んでしまったの。泣いていたら神様が『ここにいらっしゃい』と言われたのでえらかったけど歩いたの。神様は大昔に日本に来ていたの。霊で話したの。私は小さかったのでおもらししてしまったの。それを神様が降りたことにしてくれたの。ここにねんねしなさい。と言われたのでねんねして土をかぶせたの。今はお母さんと一緒なのでうれしいわ。白色星団が本当のことを言いなさいと言うので降りてきたの。

お友達が来たの。東北にお母さんが降りたので食べる物がなかったの。名前をつけてって。

『おもちちゃん』にする。お母さんが泣いているの。

可哀想なことをした、と。ここに降りる前は暖かいところの予定だったのに、地軸の移動があったらしく寒くなって食べる物がなくなったところに降りてしまった。北欧に降りた者も同じだったそうです。罪滅ぼしに恐山を作り霊と話せる場所を作りました。終わり」

「私はイシカミの仲間でペルーに降りました。ペルーは食べ物のない砂漠でした。仲間が３人降りました。食べ物がないので（人を）食べさせてもらいました。私たちは射手座から地球に来たことを後悔していました。それで（？）地上絵を描いたのです。いさごを焼いて地球の動物を描いたのです。以前言ったように焼いたいさごがあまったので渦巻きを描きました。その上に射手座の文明を描いたのです。射手座には両性具有の巨人がたくさん住んでいました。磁気嵐のため射手座を離れたのです。射手座には今の地球より進んだ文明がありました。1人で子供を産むことができましたが、私たちは食べ物がなかったのでペルーでは作りませんでした。地球人は私たちを見ていました。そして私たちが大きいことを伝えたのですが文字がないため言葉で伝えました。それで

舌を強調しているのです。そしてそのうちに間違って伝えられたのです（白色星団より伝えられる）。今ナスカの霊の人は誰一人いません。なぜなら、ナスカの人はMに支配されていたので、Mが消えた時にナスカの霊も消えたのです。Mは恐怖の想念をエネルギーにしていたので、恐怖の政が行われていたのです。人々は恐怖に打ち震え毎日を過ごしていました。そしてお腹が悪くなる病気で、皆死んでしまいました。

ピラミッドはパワーを得ょうとして作ったのですが、あまりの退屈さで階段を作ったのです。私たちが作っていたのを見ていたので神が作ったと崇めたのです。人間も地上絵と同じ模様を描いているのは、私たちの手のひらに乗せ絵を見せてやったからです。

射手座の文明は霊をとても大切にしました。それで争いはなかったのです。死んでからのこともわかっていたからです。それが一番今の地球と違うことです。終わり」

1999 年 7 月 14 日昼

「イシカミです。以前いさごのことを伝えましたが、記憶がはっきりとしてきましたのでお伝えします。

イシカミは袖（腕、手の下）のような袋に、いさごを入れて絵（ナスカ）を描きました。いさごにあらゆるエネルギーが入ったからと思います。地球に来るととても重くて大変だったので、上の物は外しました。それで袖の袋も外れました。脱いだ物で落とし物を玉にしたのです。同じ大きさになるように。あなたがおにぎりをラップで作るように、ピラミッドの岩を作りました。おしまい。

1999 年 8 月 29 日

石の面の記事を見ているとかすかに舌が動く

「私はイシカミです。その石の面は落とし物で作られました。落とし物であらゆる物が作られました。お祈りする時それを高いところに置き、お祈りしていました。私はまだ生きていてそれを見ていました。オニの来る前でした。そしてオニが来たのです。オニというより星の物語の者です。それからは忘れました。代わりにお知らせします。私は星の物語の射手座の魂を持った者です。オニのことをお知らせします。今はオニはいません。（昔）広い野原のところに舞い降りました。おそらく星の者で

した。星から降りた時は火のようでした。私の前に降りました。のがれることができないと思いました。星から降りた時は固まりでした。それからしばらくするとオシラム＝オニの姿と同じ形になりました。

オ＝おのれ、シラ＝知る、ム＝いかずち＝雷

おのれの姿をした者と後から教えられました。そのものがオニなのです。オシラムは霊界において今までおりました。星の者なのです。Mの姿なのです。そのオシラムはなぜかとてもきれいな女の人に変わりました。そして私に「オニではないのです。おいでなさい」と言いました。その言葉はテレパシーです。それからテレパシーで話し合いました。オニの物語をしてくれました。

星の物語です。お知らせします。星の者たちの思いが悪いのです。その星では何をしてもいいのでした。それで悪いことだけをするようになったのです。そこに住む者はいつも喧嘩ばかりしていました。それも嫌なことにお互い殺し合うのです。私も喧嘩ばかりしてきましたが､嫌になったのです。星から脱出したいと思いました。その星はなくなりました（ルシファーとは違うMのつく名の星)。それよりも星の者は皆この地球に降りてきた

のです。オニは急いだのです。お互い殺し合いばかりしていたらこの星はなくなると思ったのです。その星のあるところに行くと足元が移動して星から降りることができました。星にはとても生意気（よく使われる）な者が支配していたのです。その者が地球に降りてきて悪魔になったのです。でも今はいなくなりましたね。それをお知らせしたかったのです。昨年までいた悪魔です。星は3.5 次元でしたので恐ろしく感情は感じました。星ではお祈りをしませんでした。悪いことをしても何とも感じませんでした。お知らせは済みました。

Mの魂を持った人はまだいます。それで殺し合いばかりしているのです。でも霊界にはいなくなりました。オシラムの思いを持った人はいますが、これからはごめんなさいと言う思いの人になります」

1999 年 8 月 30 日 1 時

うとうとしているとお菓子の匂いがする

「イシカミです。鉛の人（悪い人）と話しています。その匂いはお祝いの匂いです。マナの匂いです。今鉛の人が人間に悪いことをしてきたと思っています。これま

でこのような思いはしたことはありませんでした。そして平和に暮らすよさを見つけました。あなたの言葉が世にでるためにこれからも降りさせてもらいます。今、イシカミと白色星団の団長さんから、平和な暮らしの話をしてもらっています」

1999 年 5 月 6 日

「私がイシカミの二番目の息子でした。巻き貝を食べていましたので早く死にました。なぜあの巻き方をしているかというと、巻くことが永遠につながることを表しています？　また、あれを巻き戻すと、今ならゼロと言われるものになります。ゼロの学びが今の言葉でブラックホールに通じます。宇宙から見ていると地球は何もないゼロと同じなのです。ゼロの中に存在しているということ。全部の物の存在が稲光の一瞬の出来事と同じなのです。学びの者から見ると地球の営みは一瞬なのです。若者（の物の考え方）がいつ、このことに気づいてくれるかそれにより未来が分かれます。あなたの言葉は今の子供が見つけるでしょう。それまで当分森の中にいる感じでしょう。情けないことです。　　石巻の神より」

1999 年 5 月 11 日

猿投（サナゲ）と発音することをとてもいやがる。「本当の名前は石形山と」

「私はイシカミの長男でした。私が日本の中央で一番最後まで生き残った、射手座の巨人です。母のイシカミは何人かの子供を産んで、早く亡くなりました。私と人間の大きさはあなたが子犬を見ている感じでした。地球の人間はとても可愛く、よく動いていました。私は仲良くしたいと思いました。それで私は井戸を見つけてあげました。そして射手座で作っていた（？）稲と豆の細胞（？）で小さな稲と豆の種を作り地球の人に与えました。それらのことを教えているうちに私の身体が弱ってきたので、私の身体の上に土をかぶせました。それを見て地球の人はとても悲しんでくれました。私はイシカミと名乗っていましたが、母と間違えるので〝イシガタ〟と名乗りました。私はあらゆる物を食べていましたので、割と長生きできました。弟はいつも海の中から貝を捕って食べていましたので長生きができませんでした。名乗り出て本当の名前を知らせることができうれしいです。本

当のことを知っていた人の子孫は〝ある者〟の思う通りにならなかったため、こんな嫌な名前をつけられたと霊界で教えられました。名前は今でも命です。どうか皆に知らせてください」

「いつ頃のことですか？」の問いに

「今現れているでしょう。青森にある巨大な建物は叔母が造った物なのです。

私が岩手に降りたイワテです。丁度冬で食べ物が何もありませんでした。それでとても悪いことをしてしまいました。想像におまかせします。それで地球の人はナマハゲを作ったのです。私は罪滅ぼしのため恐山を作り、次元を少し上げそこに来る人は霊と話ができるようにしておきました。子供は２人作りましたが可哀想なことをしたと、思っています」

「イシカミの終いの息子です。元気でしたので南へ行きました。沖縄の南にあった広い土地に巨大遺跡を造りました。それがなぜ今ないかというと、大きな地震があり沈んでしまったのです。なぜ沈んだかというとオニ（M）が嫌がらせをしたのです。なぜかというと言うことを聞かなかったからです。南の人は皆穏やかで殺し

合いするのが嫌だったのです。喧嘩をしなくても生きていけたからです。サチマチの人（石垣で私のことを伝えてくれてる人、海の彼方から神が来たと伝えてくれている人）には、私はいいことを教えました。それは庭に咲いている花の根を、お芋にしてあげたのです。身体が弱り母の元に帰ろうとして四国で横になり土をかぶせました。それで瀬戸内海になりました」

1999 年 8 月 2 日朝

「イシカミはいろいろな物を食べたのでいろいろな石がありました。何を食べたかというとアンモナイトやほのぼのとした草原の草や足の早い山羊？や魚も食べました。それでもとても足りなくイシカミは泣いていました。射手座ではたくさんのおいしいパンのような物ができたからです。いわばキノコのようにたくさんできました。（モーゼの時荒野に降ってきた）マナは射手座から送られたのです。なぜ今降りてこないかというと射手座は 6 次元に進化しているからです。でも霊は同じです。射手座の霊が集まっているのは、射手座の霊が呼びかけているからです。本当はもっとたくさんのアンモナイトが

あったのですが､それを食べたので化石が少ないのです。これを食べイシカミはお腹がいたくなり早く終わりました（死にました)。そのことを知ってもらうため、あなたのお腹を痛くしています」

1999 年 8 月 2 日昼

「イシカミはいつも泣いていました」と。私も涙が出る。｢地球に来て人間のためにいろいろな改良をしてくださったので、人間はたくさんの食べ物を得ることができました。ありがとうございました｣と言うと｢そう言ってくれると地球に来て苦労したことが無駄ではなかったと思えます」と挨拶あり。

1999 年 8 月 6 日夜中 2 時

突然目が覚める

「玉転がし、玉転がし」と口ずさんでいる。｢玉転がし＝糞転がしをエジプトの人が崇めたのはイシカミに似ていたからです。丸い玉が動くさまがイシカミに似ていたからです（ミステリーサークル参照)」

1999 年 8 月 11 日 22 時

「私たちイシカミの身体は柔らかいおもちのようなものでした。それが引力で引っ張られしずくのように落ちた物が落とし物なのです。決して汚らわしい物ではありません（私が落とし物はウンチのような物かと思っていたからです。すみませんでした）。イシカミの分身が落とし物なのです」〝かがみ餅〟はイシカミを表したものです、とだけ言ってくる。

1999 年 7 月 12 日朝

「イシカミです。ピラミッドを作っていたら小さい人間が見ていました。私たちは言葉はなくても人間が思っていることはわかります。人間はその中になにがあるんだろうと思っていることがわかったのです。それで人間が入れるようにしました。木を手で四角にして（丸いと登れない）作りかけたおこしものに面白半分に突き刺したのです。そして登ったところに指輪入れを作ったのです。そしてピラミッドパワーを知ってもらうためでもあったのです。私たちは人間が少しでも楽しくすごせるように知恵を与えたのです。それでもあまり変わりな

かったのは地球の引力が強かったからです。これからは地球の引力を考えてピラミッドパワーを使えばいいと思う。ピラミッドがとても正確に作られているとよく思っていましたね。それを作る技術をイシカミたちは持っていたのです。射手座ではすべてのパワーをピラミッドから得ていましたから、作り方の技術も早くから教えられていたのです。イシカミの思いをこうして今、伝えることができ、とてもうれしいのです。ピラミッドの部屋の天井が不思議だと、思っていましたね。簡単なのです。一番大きな木で三角錐のピラミッドを作りその周りを落とし物で覆い隠し、乾いてから木型を外したのです。そして丁寧にいわゆる石棺を作ったのです。ピラミッドパワーをどうしても知ってほしかったから。

　今大雨が降っていますがこのような大雨が本当に何ヶ月も降り続いたのです。そしてあらゆる物を流したのです。ノアとは前にも言いましたが何もないということなのです（何組ものノアがいました）。地球の平野はすべて水に浸かりました。それでも日本は龍神の作ったおてんとうの神が流さずに守っていました。それで、面白いと言おうか悲しいと言おうか物語が作られたのです。日

本の縄文時代にイシカミはいたのです。そして後半にヒミコが現れたのですね。青森や九州の遺跡もイシカミが（人間のために）作ったのです。まだ人間は刃物という物を知りませんでした。落とし物で作った物を火で焼いて作っていました。イシカミの１つのプレゼントでした。私たちは器用でしたので建物も作りました。人間がミニチュアを作るのと同じです。

すべての災害を私たちが起こしたのではありませんが、気づいてもらうための災害は起こしたことを知ってほしいのです。人身御供をさせたのはMですが、北の国に降りてあまりの空腹に耐えかね可哀想なことをしたことは許してください。私たちが地球で何を学んだかというといろいろな体験が（霊として）射手座の幸せをより何倍にも感じれるということです。最後に人間には惜しまれて亡くなったことを伝えてください。人間は言葉で残すことができなかったので、いろいろ違う伝わり方がしています。

ノアの時、なぜピラミッドなどが流されなかったかというと、面白いことにイシカミの目がイスラエルの方にあり涙の水はインドの方に流れてインド等が水浸しに

なったのでノアは日本に行けたのです。風もそちらに向かって吹いていました。それでなぜノアが遥かかなたの日本に着いたかわかるでしょう」

「石は大きな物が太陽の熱と夜の冷え？で小さくなりました（砂になった）。反対に小さな石が大きくなることはありません。決して。さざれ石でなく、ざざれ石が巌になるのです」

1999 年 4 月 19 日夜中

「スフインクスは始めは猫でした。私はイシカミの子孫の霊です。スフインクスは都の入り口に作りました。大きな都でした。当時は巨人とノミのように小さい人間と両方いました。巨人は今にも滅亡寸前でした。イシカミの子孫は世界中に散らばりましたが人口は増えませんでした。歩くのがやっとだったからです。エジプトは食料がたくさんあったので生き延びていましたが、他の地方の巨人はすべて滅亡していました。エジプトは今砂漠のところが温帯で食料がありましたので生き延びれたのです。エジプトの像が歩こうとするポーズはイシカミは

歩くことが望みだったからです。

　イシカミです。イシカミたちがピラミッドを作ったのです。ピラミッドパワーで地球を元気にすれば自分たちも元気になれると思い、作りました。もちろん天文学もよく知っていてオリオンにパワーを分けてほしいと目印のためでもあったのです（オリオンは星間の戦いで負けたため来れなかったと)。ピラミッドの先端を結ぶことで連絡ができていました。

　今エジプトは砂漠になっていますが、王家の谷も大昔には草木は生えていました。昔は大きな木もたくさん生えていたのですが、小さな人間がたくさん増え草木を切り倒しました。また地軸も少し傾いたために今のようになりました。アマゾンは反対に温帯でそこにも巨人は住んでいました。日本の巨人はとても早く死に絶えました。なぜなら命（？）のことよりも射手座に早く霊として帰りたかったからです。でも日本でも何カ所かピラミッドは作られました。アマゾンにも作られました。朝、毒の入ったワラビなど木の芽をたくさん食べ死にました」

「おもちちゃんの話です。津軽の話をもう一度言うよ

うに言われました。そして涙の岩がたくさんあるのです。おしんのような子を可哀想なことをしたのです。それなのに私の子をおもちちゃんというかわいい名前をつけてくれて本当にうれしいのです。女の子には謝りました。これだけをどうしても言いたかったのです。私の今の気持ちは青森に来てほしいと思っています。でもどこでも話ができますから無理はいいません」

1999 年 7 月 9 日夜

ピラミッドの TV を見ていると口が聞いて仕方がない

　問うと「私たち（イシカミ）の落とし物だけではないのです。私たちを神と思い、人間がまねをしたのです。そのことを告げたく口を開けさせてもらったのです。私はイシカミの仲間でエジプトに降りました。ギザのピラミッドはイシカミの落とし物です。その柔らかい物をイシカミの仲間が積み上げたのです。それと同じ物を作ろうとイシカミの子孫が真似をしたのです。大きな塀（囲い）は私が見えないようにしてもらったのです。お供え物を食べ長生きしましたがお供え物だけでは足りなく、人身御供もしてもらいました。イシカミの子孫は何人か

わからないほど生まれましたが、すぐに死んでしまいました」

「ヨセ＝ソ連の者です。ヨセに射手座から降りました。食べ物がなくて困りました。そして何も食べずに死にました。それがウラル山脈の一部です。ソ連にはまだ人はいなかったのです。それからとても痛々しかったのはオランダでした。オランダに降りた者は波間に落ちて死んだのです」

1999 年 7 月 25 日夜

「天の羽衣の話をします。イシカミです。

私は身体が軽くなるようにと思い作ったのですが、私の身体が重くて役にたたなかったので人にあげたのです。まず麻の布に落とし物を薄く塗って松原に干しました。何枚か作りました。それを人間がまとうと身体が軽くなり飛べたのです。なぜそうなったかというと指輪のエネルギーをその布に当てたのです。羽衣の物語でした」

イースター島

「イシカミの仲間です。イースター島はカナリア諸島まで続いた大きな島の一部でした。そこに降りました。人間はいませんでした。降りると身体が思うように動かなく、仕方がないので人形を作りました。そして射手座にエネルギーを送ってもらうように頼んだのです。

光の玉のエネルギーを送ってくれたので、袖に入れて歩きました。エネルギーはとても足りなく海の中へ入り死にました。地球の人間の形は自分で作ったのです。おしまい」

1999 年 9 月 11 日朝

「ギリシャの地震はイマヤスの者が起こしました。次のことを知らせるためです。

ギリシャの町中の大きな岩山はイシカミの哀れな物語を知らせるためです。イシカミは地球に降りなければよかったと思いながら死にました。イシカミの子孫の話（ギリシャ神話）の話を聞きそう思いました。オリンポスの山も向かいの山もともにイシカミの遺体なのです。そして華々しいギリシャの神々はイシカミの子孫だったのです。そして本当の話でもあったのです。お知らせを話し

にきたのです。ポセイドンはヨハンシュンセンでした。それも本当でした。お知らせは以上です」

４．ミステリーサークルから

1999 年 5 月 15 日

「ミステリーサークルについて、イスノマナリ（宇宙意識体）が夜も眠らないで作ります。〇が太陽、三日月が月、外の〇が宇宙です。お友達になりましょう、という意味」

「日本では描けなくて迷惑をかけました。ワシニコフより」連絡あり。

1999 年 5 月 18 日

「イスノマイノリです。射手座の者です。長い？空を飛んできてミステリーサークルを作っています。5 月 15 日のメッセージは我々のロボットが答えました。今何もかも伝えますが、とても疲れているのです。ミステリーサークルは柱のことなのです。あの上にエネルギーの柱を立てます。私たち射手座の者がプラズマエネル

ギーを作り出すのです。どうして作り出すかというと、まず麦の茎の空間に私たちのエネルギーを入れます。そしてその勢いで倒すのです。プラズマエネルギーは、土にエネルギーを入れると茎に入った物は蓋をされた状態になり、倒れるのです。茎に入らなかったエネルギーは空に散っていきます。プラズマエネルギーを作るのに何もいりません。稲光なのです。＋と－に分けた物を土に少し流すとプラズマエネルギーはできます。その分け方を教えたいのです。それにはマリのように弾むゴムボールがいります。そしてそれを強く押していくと破裂します。破裂する時に分かれるのです。それが私たち射手座の者が使うプラズマエネルギーなのです。私たちは 3、2 次元に降りてきて作ります。あなたの頭上にいます。できるだけあなたの言葉が世に出るようにお手伝いします。焦らないで」

1999 年 8 月 13 日

ミステリーサークルの作り方が違うので問うと

「どちらも正しいのです。射手座の作り方は難しい模様は描けません」と白色星団より。

今日は２回電話が中断したり、まったく通じなかった。グランドクロスでエネルギーの作用（効果）がわかったと連絡あり。

1999 年 8 月 12 日 23 時

「押し絵（ミステリーサークル）の作り方がまだわからないようなので知らせます。

押し絵の模様は白色星団の一員でミステリーサークルの担当者が何人？かで考えます。

そして星から持ってきた 4 次元のガラスのスライドのような物に絵を描き、麦や菜の花の上に置きます。そして遙か彼方から私たちのエネルギーを送るのです。そうすると絵を描いたところだけプラズマが通り抜けるのです。絵を描いたところだけプラズマが生じるのです。風船のはじける力と同じです。私たちは５～６次元で各星（白色星団）から１人ずつ来ています。イシカミの絵が丸すぎると言われていますがコンパスのような物で描くので楕円を描くのは難しいのです。イシカミはもっとスマートでした。手足も長いです。

星原＝宇宙、神社のいわれを聞いてください」

1999 年 9 月 11 日夕

ミステリーサークルを見ていると

　これだけは皆に伝えてほしいのです。ミステリーサークルには神の存在という意味の模様はありません。すべて星の物語なのです。あらゆる星が書いています。星からお知らせしているのです。オニの存在もお知らせしましたね。今はいなくなりましたのでこれからは始めてのことですが「文字」を書こうととても苦心しています。星の者は文字がわからないのです。

1999 年 7 月 30 日朝 5 時

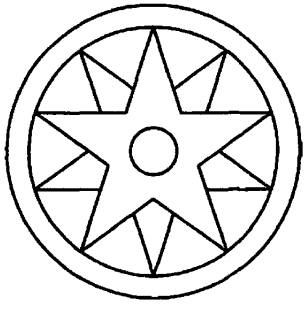
　プラズマの力でミステリーサークルは作られていると以前言いましたね。それは間違いないのです。ふうせんを押さえつけるとはじけますね。その時できるエネルギーと同じ理屈なのです。白色霊団の霊の力での〝押し文字〟なのです。そのことを書いてください。波動が下がると地球の中のマグマまで下がると書いてあるのが一番の間違いなのです。人間は（輪廻転生で）動物に生まれ変わることは決してありませんが、悪いことをすれば

必ずそのツケは払わなくてはなりません。それは今生だけでは止まらない。納めることができるのは人間としてツケを払い続けることである。かと言って今不幸な人が前世で悪いことをしたということでもない。より霊の成長のために自ら修行をしている場合が多いのです。霊の存在すら気づかず飽くなき欲求を満たすだけの生活をしていると、その人の霊は何らかの形で示してくるでしょう。これからは自分の霊と会話をして生きていくことが大切になります。恨み、妬み、怒り、はできるだけ少なくしてください。悲しみはなぜ起こるか？。死ぬことは不幸ではない。相手を侮辱することはとても悪いことです。教えるためであっても決して侮辱してはなりません。そうすることが悪いと言えばいいのです。何度も言いますが霊の存在を知ることが一番大切なことなのです。

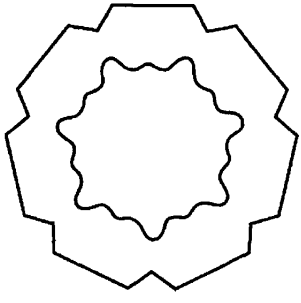
　めい王星の女王より

ミステリーサークルの説明

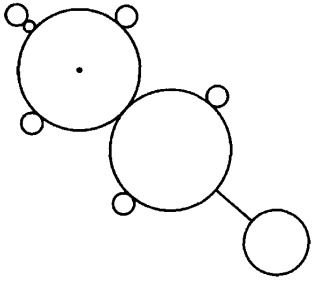
ミステリーサークルを見ていると口が開いていき知らされる



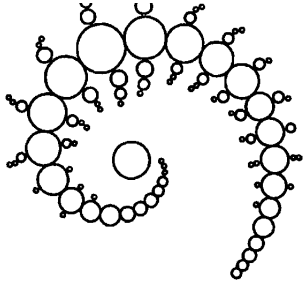
1）支配星の角なのです。支配星の星が地球を取り囲んでいます。前の星はプレアデス、後ろが外宇宙のものなのです。外側の輪が私達 (名のない星) です



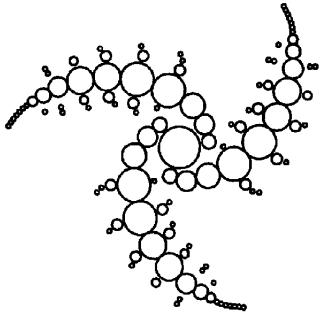
2）笑わないでください。穴なのです。子供が生まれるところです。



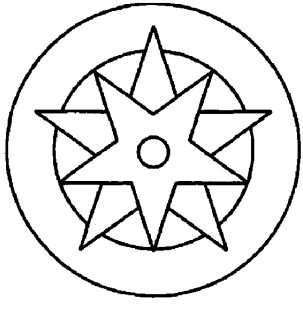
3）これがイシカミの姿で、子供を産んだということです。手足がとても小さいでしょう。これでピラミッドを作ったのです。顔は描いてありませんが、目がひとつでした。生まれてきた子供には人間のような手足をつけ、思う通りの形にできました。



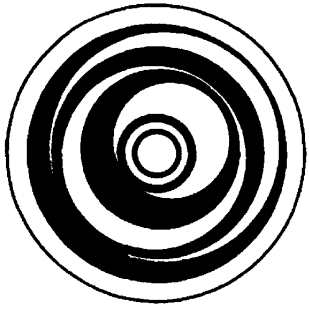
4）これは空の向こうにはこのような意識体がいたと言うことです。支配星のイシキの正体で、これまでの人間を支配をしていたのです。誰も見れませんが、悪いことをする人に皆引っ付いたのです。



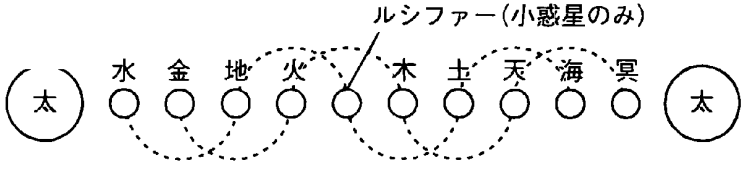
5）おそるべきオニの王なのです。この話は本当です。



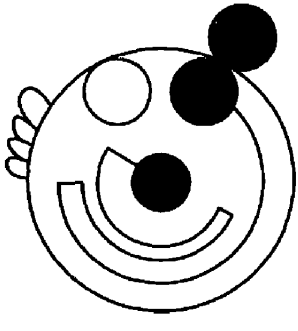
6）支配星のプレアデスの包囲作戦です。周りの円は我々です。層が厚くなっているでしょう。私達が攻めていっているのです。



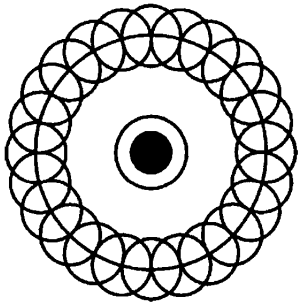
7）三日月。これが星間の戦う前の空の模様でした。争いで天の川で分裂したのです。それまではお互いバランスをとり仲良くしていました。真中は宇宙の大元です。その周りがいて座たちです。(最初に白色星団が教えてくれたので、自分たちを重点的に知らせたようです)



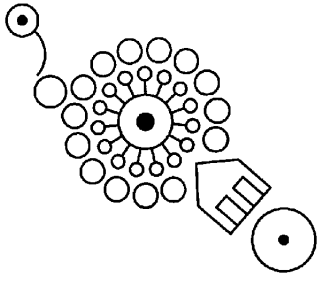
8）霊が白色星団で行き来をしているということです。両端は太陽の女と男（霊で見えない)。



9）これは人間の顔を一筆で描きました。外側が乙女座、オリオン、いなくなった支配星。霊は線でつながっていると言うこと。真中は太陽。外側の小さな文字？は白色星団の物語と書いてあるのです。

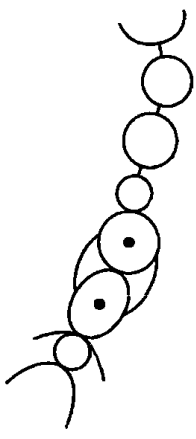


10）真中が太陽と白色星団で、外側にも沢山の宇宙？があるということ。アトランティスを宇宙の果てに作ったと思ったのに同じ地球だった？。

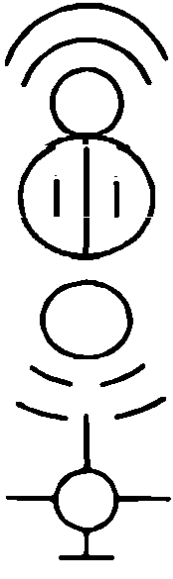


11）これが我々の物語で、急いで作りました。お花をお供えしたのです。ソラを自由に飛べるように、タンポポ、大きなお花の花びら、家、地球です。平和な（霊的）地球になったお祝いなのです。

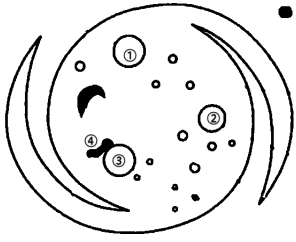
（ソラのものはこの情報を知れば地球はすぐに平和になると思ったようですが、全く逆でした）



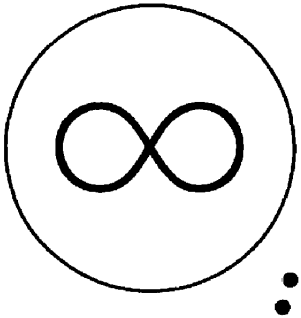
12）上から順番に。不思議なことを探求している人をはさむモノ。その人に不思議なことにあわすための知恵袋。お知らせしたことに気ずいたかどうか記録しておくところ。さらに教えるための知恵袋。肉体と霊とは行き来して関係があること。こちらでも不思議なことを探求している人を受け止める。お知らせするための知恵袋はさむものです。



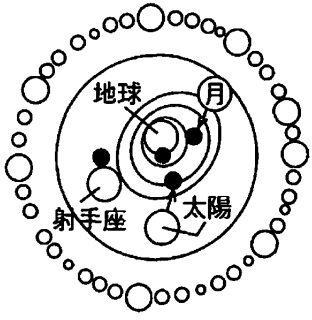
13）丸の上に 2 重の帽子？は白色星団と言うことを現す。人間は霊を信じる人と信じない人がいるということ。これから伝えるお知らせの言葉の集まり。あなた (著者) が知らないことを教えたと言うこと。名のない星の姿を現しています。



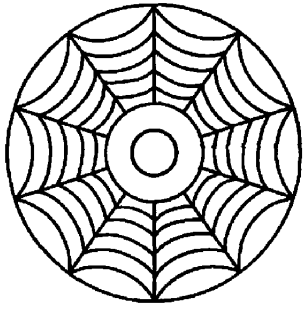
14）なぜ著者が星たちの言葉がわかるかと言う説明図。言葉がどうして送られるか説明が難しい。外側のものは避雷針のようなもので、人間の言葉を集めます。大きな３つの丸は①脳で考え②言葉を発する器官③音で伝える。小さい丸はロボット。④丸をたたいてこだまを作る。半月＝音のこだまを作る。



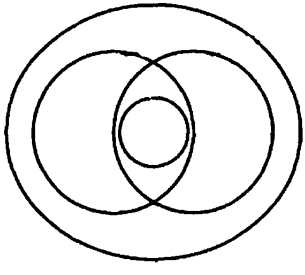
15）これは縄で、縄がねじれていますが、戻せば輪になります。今は二つに分かれていますが、(霊を信じるものと信じない者)つながっているので、将来は必ず同じようにお知らせしなくても、霊を信じるようになるでしょう。外側では名のない星たちが見ています。



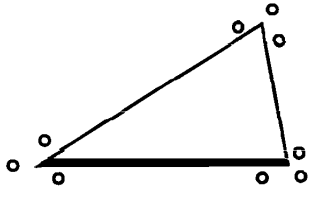
16）中の○は地球、太陽、射手座、月など、黒丸はそれぞれの霊、外側の大きな○は太陽系の惑星。小さいのが名のない星たちのロボット。



17）この蜘蛛の巣であらゆる情報を捕まえて、皆さんの霊の事を知ることが出来ます。真中は星の宮。

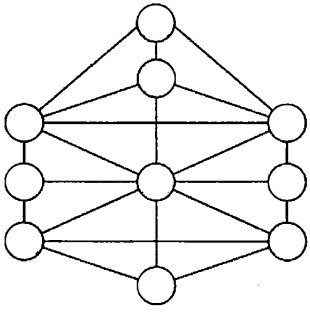


18）これは霊を信じるものと信じない者を分けています。真中の丸はこれからお知らせを受け信じて行く者。

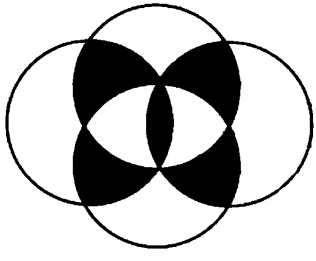


19）トライアングルはかわいい音がしますね。それを小さな丸の小人が隠れて鳴らしています。だからかすかなのです。名のない星の者が見まもっていま

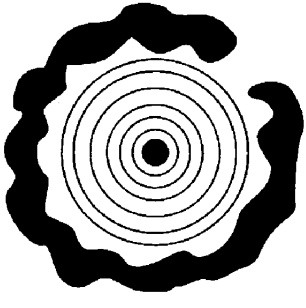
す。



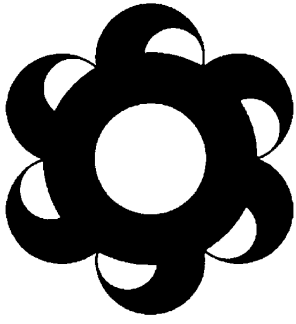
20）これは壊れたルシファーも含まれた太陽系の惑星の図です。真中が地球です。その地球にそれぞれの星から魂が来ていることを示します。イシキが行き来しています。



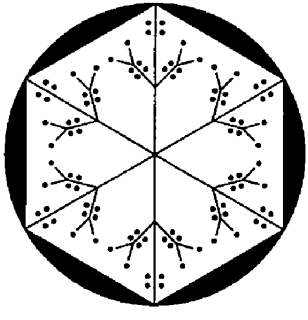
21）次元の違いを表しています。3 次元にいても同じ所で別次元を味わうことが出きると言うことです。真中＝愛の意識体の分身のグループ。両横＝名のない星の集まり。霊界外側は全く別次元を体験できない人。



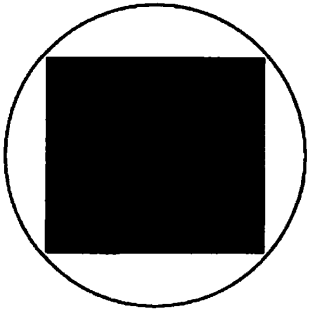
22）星の争いの前。真中が星の宮。オシラム＝オニが膜を作りました。



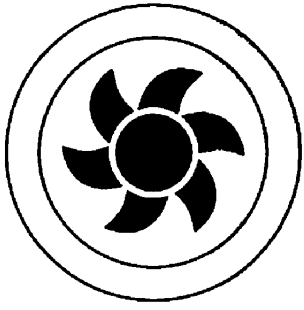
23）星の中の王様、すなわち星の宮です。星型ばかり描いて悲しまれたので、明るい形にしました。



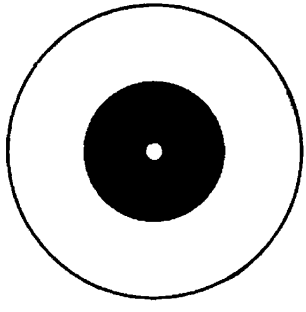
24）星物語は白い木を通して語られます。それで木を現しているのです。生憎白くなくて残念でした。そして新しい星の形なのです。これまでのオニの角でない星の形にしてみたのです。



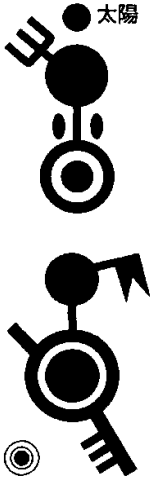
25）これは人間が見える形。地球は丸いが 180 度以上は見えない事を現している。



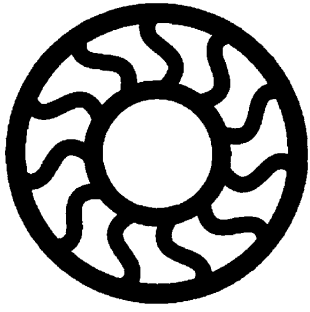
26）真中は変わりない愛を与えてくれる星の宮です。周りは起きあがり行動＝星の争いをし様としている姿。周りの丸は星の宮の管轄の宇宙。



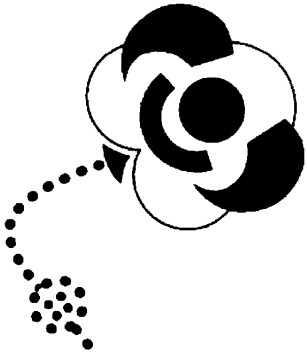
27）真中は地球で回りは夜。その外は昼。これは我々が見た地球です。これは昼と夜の関係を現しています。地球は何時も星で囲まれています。星が見えるように夜を作りました。



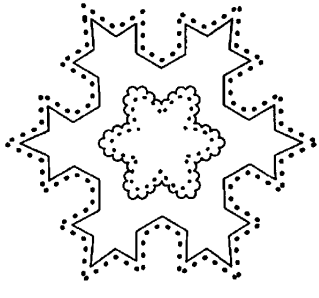
28）空の物語と言う意味です。星が目を閉じている時にも、熊手で星空を掃除しているのです。霊を信じる者と信じない者に分かれています。ジーと下 (地球) を見ています。目を閉じていても掃除をしています。霊でつながっています。目を見開いて掃除をしていますが、使いすぎて壊れかけています。星も成長があり子供の星もあると言う事。



29）お知らせするには嫌な思いがあります。星たちがいきり立った戦争の時の模様です。

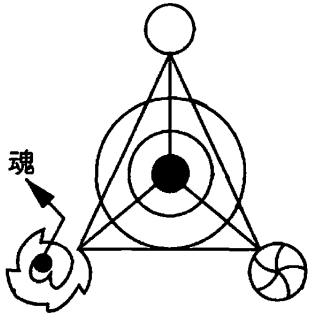


30）２つの目？は霊を信じる人と信じない人。鼻は太陽。口が半分信じて半分疑っている人。顔の輪郭は霊が顕在意識とつながっている。小さな三角＝極一部の人が本当のことがわかっている。小さな点＝名のない星のグループ。点の〇＝愛の意識体の分身のグループ。(太陽系、射手座など)

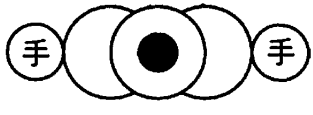


31）空にある星はとても沢山の霊が集まっていて、星からの思いもとても沢山あるということ。

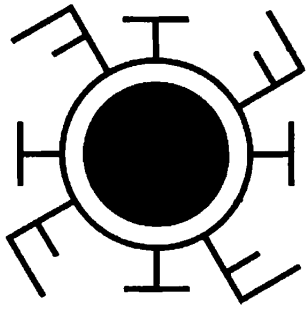
32）白い発光物体は我々のロボットです。我々が思いを集結し「白い馬」がメッセージとして必要だと感じたのでロボットを送ったのです。



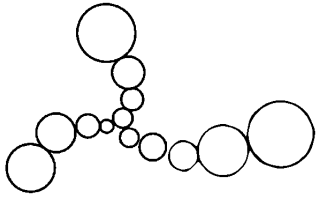
33) これは宇宙と人間の関係を現し、人の成り立ちを現しています。上の穴から宇宙とつながっていることを現す。外側の円＝星の宮の管轄の宇宙。外側の円と三角の交差点＝心がつながっている。次の円＝オシラムが支配していた。真ん中の円＝星の宮 (遙か遠くから来たのでこんなに小さくなりました。)。右側の円＝これが肉体の最後。左側の形＝霊が立ち上がり、行動を起こそうとしている。三角形のこの形を知る事が大切なのです。(真ん中＝魂) 星の宮と霊線でつながっている。



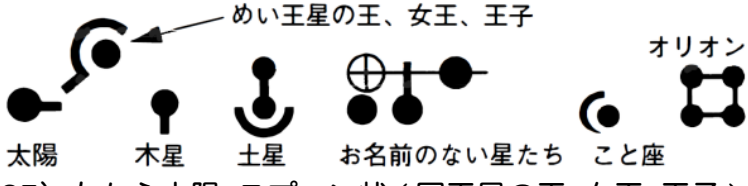
34) これは簡単です。イシカミのお尻です。イシカミの子供が産まれるところです。



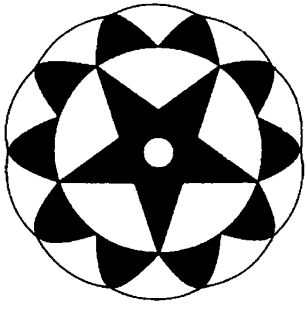
35）星の宮を囲んでMが酒盛りをしています。円は星の宮と星の宮の管轄の宇宙。T字はワインの栓抜き。Fはアイヒマンのつもり。



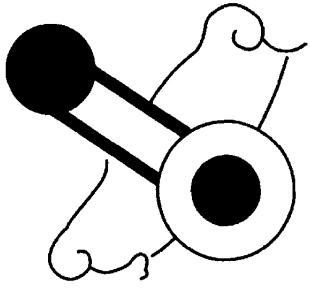
36）Mの正体を簡単に書きました。



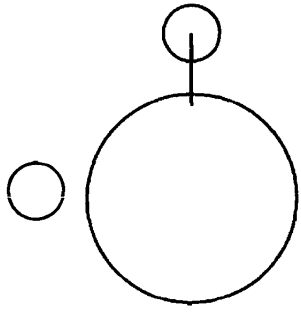
37）左から太陽、スプーン状 (冥王星の王、女王、王子)、木星、土星、お名前のない星達、琴座、オリオン。これらが集まって会議をしています。どういう風にしてわれわれの事を知らせるか相談しています。



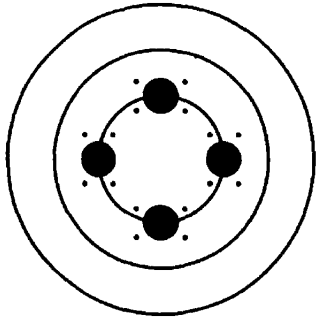
38）真中＝地球。五角＝支配星のこと。指が５本で、イシキ＝霊を認めない。死ねば何もないとあらゆる宗教を人間に教えた支配星をあらわす。５に対して６はイシキを認めると言うことで大切な数字。周りは白色星団と黒色星団。これはかつての嫌な思い出なので、説明したくなかったのです。



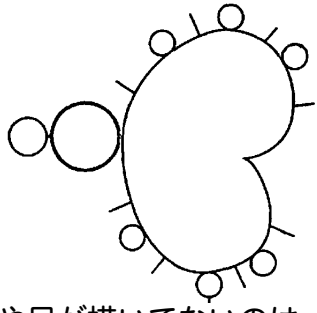
39）オシラム＝オニの支配から立ち上げれ。清らかな目覚めなのです。眉がひとつでは立ち上がれないと思い、２つにしました。



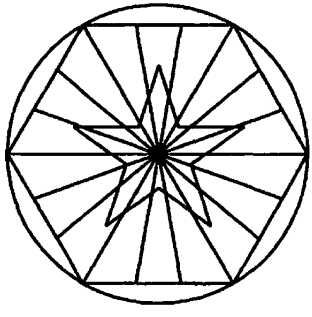
40）オゾンはとても重要なモノなのに、人間はとても簡単に壊してしまいます。それを補充するために、こうして袋に貯めておくのです。お星さまに感謝してください。空の壊したもの（オゾン）をこの中に入れてしまっています。そしてこのカバンを壁にかけてあるのです。外の小さな丸は名のない星が見ています。



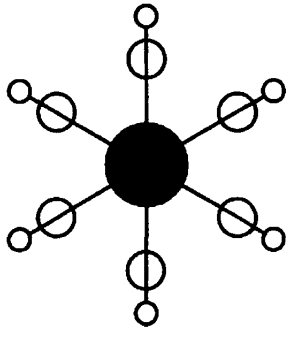
41）星が 4 つというのはあのオリオンが 4 つだったのに、無理やり離させられたということです。星の戦争の時オリオンは先頭に立ち戦いました。昔の (戦う前の) オリオンがおめかしをしている姿です。小さな星はお知らせなのです。これからは 4 つになるので (霊的) お祝いに飾ってもらったのです。これはオリオンの物語です。（星の宮神社にも最初は 4 つの星が描いてあるはずと言われましたが、7 つ星が描いてありました）



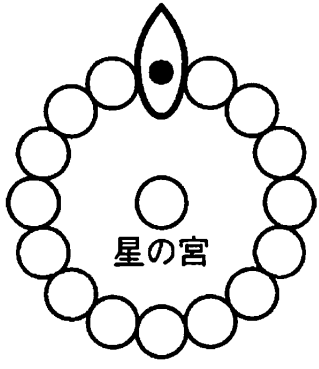
42）イシカミの姿です。頭に地球の知識が詰まっていました。丸や毛は触覚、視覚、温感、を感じたり、翻訳や手や足や呼吸器の働きをするものでした。口や目が描いてないのは、あまりにショックを与えるといけないので、ユーモラスに描きました。（数式のマンデルブローと同じ形です）



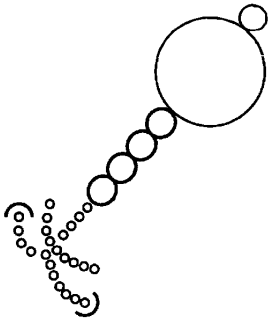
43）新しい星はどのようにして作ろうかと考えていた時にできた模様が、美しかったので地上に降ろしました。仲間が輪の中に星を入れたいと言ったので入れました。



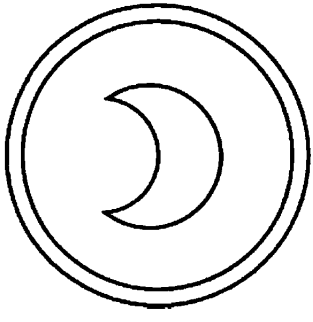
44）ホシノミナの言葉を伝えるために考え出されたロボットです。



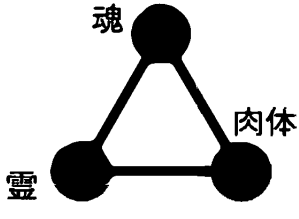
45）人間に伝えるための言葉の集まり。星の成り立ち、並び方、星の宮の事、星が別れた事、星は想念で別れている、星がさまよっていたこと（七夕）、新しい星のでき方、星は夜だけではない事、星がさまざまなモノを作ったこと、星が更なるお願いをしている事、星の僕（ロボット）がいること、星にもさまざまな位がある事、星も更なる発展がある事、星からのメッセージがさらに多くの人に伝わるようになると言う事、最後に転ばぬように、星達の言う事を聞いておくと楽しい生活ができると言う事。それらが丸の中に入っているということを現しています。



46）ヨミの国王の姿です。上から地球との通路。ヨミのことが書いてある。星からの情報、イシカミについて、人間はどうして作られたか、白い木について。小さな丸はいろいろな人物を伝える、最後はイエスとマホメットのことを伝えてる星のモノ。



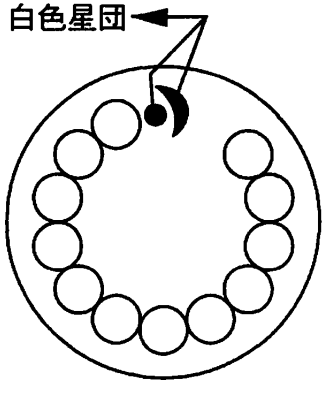
47）月が支配星の部下 (＝凶悪) に支配されていたと言う事。グレイ、UFO などそこから送り込んでいた。



48）人間は魂、霊、肉体から成り立っている。



49）宇宙の法則が変わったという事です。高次元といまの３次元が一部でひっつくと言う事です。3 次元にいながら高次元を体験できると言う事です。月は地球の子供と言うことです。



50）12 の言葉と白色星団。
イシカミが支配星に隠された事、戦いのむなしさ、何事も形でなく祈る＝願うこと。名のない星の働き、霊を信じる事、地球から恵みをいただいている事、どのような人も愛のエネルギー体の分身である事、見える世界だけではない事、何事も今（星物語に出会って）からの考えが大切、この言葉を聞いた人は幸いである、白い木が学びました、石なし神＝星の宮を信じる人は、私たち白色星団についてきなさいと言う意味の図です。(半円と小さい丸は白色星団)

南イギリスにどうしてミステリーサークルが多いかと問うと

「書かなければいけませんか。必ず怒られます。星のモノから見るとお絵かき帳としか見えないのです。悲しがりませんか？スピリチュアルな土地だから現れると思っている人にとっては。星のモノから見るとこれが最後と言いたいのですが、皆一生懸命ミステリーサークルが現れるのを待ってくれているので書いています（ミステリーサークル図 11）。

５．古代日本人からのメッセージ

1999 年 7 月 21 日夜

「ヤハウェーです。我々（トヨウケと）が降りたところは、イワナシ？というところで日本の本州の北？それは今でも思い出すが 2 人だけで降りたのではない。あちこちにこと座(リラ)から降りた。私たちの産んだ子が、アマテル、とアマテラスでその 2 人の間に生まれたのが、スサノオ。ワシは子供が小さい時に旅に出た。我々もとても大きかった。20 メートルはあったと思う。ワシが求めたのは自由と面白いことであった。それで行き着いた所がイスラエルであった。なぜヤハウェーが遠くに行ったのか言わないのには訳があります。

私はヤハウェー、おしなべて男には男の意地があります。大人の物語なのです。男は何もかも捨てて、仕事をすることが大切だと思います。ヤハウェーもそうでした。できるだけたくさんの子供を作ることが、男の仕事でした。ロマンと冒険の旅をしました。そして落ち着いたのがあのイスラエルなのです。何も敵はいないし当然のように歓迎してくれたから行けたのです。アマテラスとも呼ばれ、又アマテルとも呼ばれている（神とは続かない）

ものです。私たちのことはあまりにも情けないことに面白半分に書かれていました。オニのようなMの霊が何もかもおかしくしてしまったのです。

私たちはお腹から生まれました。トヨウケとヤハウェーの間の子供で兄妹なのです。仲間なのです。何のお友達？かというと太陽神の霊の入ったものです。兄妹なのに結婚したらおぞましいことに、乱暴者のスサノオが生まれたのです。それはとても手に負えない者になり生意気（よく使われる言葉）にも、父であるアマテルを殺してしまうのです。それも皆スサノオにオニが入ったからです。オニは何かというとMの霊なのです。スサノオは手に負えない悪さばかりしていました。それで私はあまりのすさまじさのため、オニのいないところにかくれたのです。場所は波のあるところでオニのいやがるあのマナイの岩の下でした。それを知ったオニは私が出れないように、封じたのです。また、山のふもとのところに兄アマテルが閉じこめられていたのです。そこがあの天河なのです。今思い出しました（右肩がチクチクする）。今名前のわかったアマテルです。私は自分の名前がわからなく情けなく思っていました。これだけ大勢の霊が目

覚めて挨拶をしているのに、名乗れないので困っていました。あなたが天河はどういう意味があるのですかと問われても答えられなかったのに、今私がいます。と答えられるのでうれしいです。私アマテルは天河の岩の中にいました。岩はご神体なのです。イシカミがおいてくれたのです。御在所になられたイシカミがおいてくれたのです。私たちはそれほど昔にいたのです。私は息子に殺されました。息子の物語はまだですね。スサノオは生まれるとすぐにMの霊に入られました。それから悲劇が始まりました。何もかも残酷な世の中になっていったのです」

1999 年 7 月 13 日 20 時 30 分～ 45 分

「" あいうえお " も私が考えましたとヒミコが降りてくる。

あいうえお　愛の上には何もない。
かきくけこ　書いておくことが大切。
さしすせそ　さす…。（言葉をにごすが
　　SEX はいいということ）？
たちつてと　田の物を作りましょう。

なにぬねの　何はともあれぬかわらす。
ご飯が腐ったのが〝ぬか〟に、
わらすは〝いわし〟を漬けた物。
それはおいしかったですよ。
はひふへほ　歯がないと不自由なので
（魚の）骨も食べる。
まみむめも　魔のものは胸にある。むめは胸の意味。
やいゆえよ　矢は痛いと言え。
らりるれろ　来世は瑠璃のようにきれいなところ。
わいうえを　輪になって踊ろう。

私だけではないのです。皆で考えたのです。5、６人はいました。学ぶことが好きでした。私は今で言う教育ママでした。あなたの言葉をもらいました。文字を始めたのが私たちでした。白色霊団の方が教えなさいと言いました。お庭で皆が笑っています。それは楽しいものでした」

たかさご、たかさごとロが動く

「ヒミコです。高砂は私が言いました。落とし物（イ

シカミ）に雨が当たり、砕けて砂のようになるのを見て作ったのです。

この稲の穂を実らせてください。

あでやかに（紅葉にして）木の実をならしてください、という意味の歌なのです」

1999 年 7 月 13 日夜

「私たち（イシカミ）が人間に稲を与えました。

稲にもみの物語です。何とか食べ物を人間に与えようと考え、イシカミたちは言葉なしで話し合いました。人が食べているもので、お腹の膨れる物は何か調べ、それの種に指輪のエネルギーを与えたのです。栗の実を米粒にしました。ペルーでは平野に生えていた小さな芋（名前はわからない）をもう少し大きくしてジャガイモに、お隣のインディアンのところではワケの実を少し大きくしてトウモロコシにしました。それから麦の実はエジプトでその頃野にたくさん生えていたヨシ（がまの蒲）を食べれるように指輪のエネルギーを当てました。前の麦はもっと背が高かったです」

1999 年 5 月 29 日夜中

「私はヒミコです。これは本当のことです。当時の日本には言葉がありませんでした。皆原始人のような生活をしていました。言葉は私が、作ったのです。（？）神様に教えてもらいました。「君が代」は私が、夫大国主の尊のために愛をこめて作った歌なのです。さざれ石でなくざざれ石なのです。ざざれ石とは滑らかな落とし物（イシカミ）が雨に打たれてざらざらになった石のことで、それから月日を経て巌になる、すなわち永くあなたの世が続きますようにという意味なのです」

1999 年 6 月 13 日

午前 7 時 45 分から 50 分の間の短時間で教えられる。

「私はヒミコです。私が作ったわらべ歌を教えます。

一つとせ人の振りみてわがふりなおせ、わがふりなおせ

二つとせふたりそろってたすけあう　ふうふのごえんはとわにぞよ　とわにぞよ

みっとせ　みなのものだよ　このよのものは　なかよくいっしょに　つかいましょう　つかいましょう

よっつとせ　よのなかいきるの　むずかしい　むずかし

い
されどもかならず　むくわれる　むくわれる
いつつとせ　いつかこのよも　ごくらくに　ごくらくに
かならずなるよと　しんじなさい　しんじなさい
むっつとせ　むかしこのよのおはなしは　おはなしは
ほんとにあったはなしだよ　はなしだよ
ななつとせ　ないろにじのおひさまは　おひさまは
かみのいわいのひかりぞよ　ひかりぞよ
やっつとせ　やまのかみさまたいせつに　たいせつに
いろいろめぐみをくださるよ　くださるよ
ここのつとせ　ここでようやくほんとうの　ほんとうの
むかしばなしがでてきたよ　でてきたよ
とーとせ　とうとうすべてがわかったよ　わかったよ
これからこのよはみろくぞよ　みろくよぞ

　この歌はヤマタイコクで歌っていた歌なのです。これは本当のことなのです。この歌を歌いながら皆仕事をしていたのです。私の言葉であなたが助かるのならとてもうれしいです。〝夫婦の縁は永久にぞよ〟というのが気になる方もありますが、霊界では本当に好きだった人と

一緒になれます。なぜ嫌いな人と一緒になるかというと、私の考えではその苦労をして成長しようという魂の強い方だと思います。そのことを乗り越えればその人は霊界ではとても素隋らしい人になります。

追加

　本当はどこかに〝にぎやかで〟を入れたかったのです。国がとても栄えていましたから。でもかないませんでした。　　ヒミコより」

1999 年 8 月 22 日 23 時

「ヒミコです。日の丸も私が考えました。日本に来て海の上から太陽が上がってくるのを見てとても感動しました。サマルカンドは水がなくとても苦労しました。たくさんの水の海を見て海はすごいと思いました。それと〝ワ〟ということがとても大切だと思ったのです。当時の人はお互い争いばかりしていました。ヤマタイコクを作る時もいかに助け合いが大切か身にしみて思いました。それには〝輪〟になって踊ることが大切だと思いました。カタカナの〝ワ〟が最初の言葉でした。

ア　は何の形かというと〝アナタ〟のアなのです。
　　頭と身体なのです。
イ　はイノリのイでした。ノとリを合わせた。
ウ　はワの上に点でワの先頭に立ちウタウのです。
エ　は橋のことです。川と川を結ぶエニのことです。
　　エニとは連絡すること。
オ　は女の反対でついている物がある。
カ　は動物の皮。思い切り力を入れないとはげないから、
　　力を合わせてカワをはぐ。
キ　は木の姿そのものです。
ク　はクロウのク。タから点を取るとク。
　　点は人間で田に入らないとクロウする。
ケ　ケナミのケ。人の毛で頭の上に丸（太陽）を
　　のせていた。
コ　はあそこから生まれる。
サ　は目刺しをサス。男と女がサス。
シ　はシヌのシ。点が魂と霊をあらわし肉体から
　　離れること。
ス　はスキのス。男と男が好きになる。

若者が考えました。

セ　はイソのセイのセ。
砂浜に穴を開けその中にいる物。貝のこと。

ソ　はソのものという意味。指さしてソレという
意味。点がひっつくと間違える。

タ　はタンボのタであり、タカイのタ。
稲を干す時高いところに登った人の形。

チ　は血。命の元と知っていました。＋は死。
ノに散ると死。

ツ　ツミのツなのです。肉体から霊と魂が離れると
ツミなことをするから。

テ　身体の上に２本あるものが手。

ト　トモという意味。自分をちょっと支えてくれる。

ナ　ナ二の意味。ナは十字架、すなわち死とは
どういうものか意味がわからない。

ニ　２本という意味。

ヌ　スとともに若者が考えました。

ネ　（ネコもネズミもいました）その形です。木の根の形。

ノ　ノハラのノ。本当は横なのですが。

ハ　口の中の歯の意味。

ヒ　かまどから火が出ている。

フ　口からフーと息が出る。

ヘ　ヘイヤ、なだらかな土地。

ホ　死んだ後善人は左。悪人は右にわかれる死後の
　　世界のこと。

マ　鉛が身体に入り苦しむこと。マ物だと思っていた。

ミ　３つ。

ム　ムリをして身体が曲がった形。

メ　芽が出た様子。真横にすると＋になりやすいので
　　斜めにした。

モ　モノをもらう時、手を差し出す形。

ヤ　ヤリの形。

ユ　舞台の上でユーガに踊っている形。

ヨ　たくさんの食べ物がとれて棚に並べている。
　　ヨカッタのヨ。

ラ　どんなことでもラクをすると後でフーとため息が
　　出る。

リ　リコウのリで２通りのことを考えることができる。

ル　レイをしている人の前にたっている人が
　　瑠璃（ルリ）や瑪瑙を身につけている。

レ　頭を下げレイをしている。
　　折れ曲がるのと違うので上向きにした。
ロ　家の中の炉。
ワ　ワになって踊る。
ン　点が１つなくなっている。魂が天界に行くと
　　最後で生まれ変わらなくてもよい」

1999 年 8 月 23 日 20 時

「ある者がヤマタイコクに来た時こう言ったのです。

「ワシ(ワがシヌ＝独裁者)はこの間月から降りてきた。ワシの言う通りにしろ」と言いました。それから私たちの仲間がオシナマエをつけられヤマトの国に連れていかれたのです。それから何もかも焼き払われました。夫の大国主は私を見て「お前のことは忘れない」と言いました。私は一番始めにオシナマエをつけられました。思い出すのも辛いのでこれまでにしてください。悲しい思いではなかなか消えません。今仲間の者が寄ってきてくれています」

十字架がなぜ死を意味するかというと、身内の者が亡くなった後、遺体を埋めた目印に木を十字架にくくり立

てていたためです。

1999 年 5 月 17 日

夜中に口が動いていて目が覚める

「海原の向こうに日本が見えます。ノアの１人です。息子と２人で日本に着きました。7 人と山羊と乗り込みましたが、２人だけになりました。面白い町に行きました。私たちを見ると町の人はびっくりしましたが、とても親切でした。土産物を渡すと権力者のところへ連れていってくれました。ヒミコが産んだ子と私の息子が一緒になりました。それが、ヒホコの命なのです。今はっきりと思い出したので降りてきました。私たちはとてもよくしてもらいました。何年かして、突然大勢の軍隊が来ました。私と息子に家を出るように言ってきたのです。私たちは離ればなれになり、私はモーゼと名乗り北に向かいました。

息子は籠舟に乗せられました。私は見送る時、涙が止まりませんでした。それからのことは思い出せません。息子と代わります。

私は舟に乗せられ海に出されました。それから漁船に

助けられました。Ｔの家の者に山奥の家に連れていってもらいました。そこで私は名前を名乗り追い出されたことを伝えました。７日いました。それから小舟で丹後に戻りました。町には帰ることができず､山に逃げました。しばらくして殺されました。

ヒホコの命です。本当の名前はそれだけなのです。

火明（？）の意味があります。火をもって刀を作ることができたのです。おじいさんに教えてもらいました。私の覚えているおじいさんはいつもにこにこしていました。私が大人になる前にある日突然大勢の軍隊がきたのです。そして、惨劇が起きたのです。おじいさん、父、母がいなくなったのです。それでも私の命は助けられました。お供に連れられ今のＨさんのところに隠れていました。騒ぎがおさまってから、帰り、密かに、おじいさんが書きなさいといっていたことを書きました。

母は神が祭られていたからここに来たと言っていました。田舎だものでいつのまにか正しい国になりました。そのうち海の大波が来て一部が海の下になりました。橋立はその時残ったものです。浅い海は田圃でした。土地

がなくなり、人も少なくなりました。２つの島は山だったのです。そこに私は葬られました。大きい島の方です。なにもかもなくなりました。私の物語です。でも、本当のことです。

　ヒホコの命＝日の昇る国（火を扱う者ともどちらの意味もあるとヤハウェー）

（星からのメッセージを書いた当時はヒホコの命をムウラの子供と言っていましたが、ムウラの恨みの集合意識体がヒホコの命と言わせていたようです）

　鏡は光を反射して合図をする道具で、銅鐸は音を鳴らして合図をしました。叩く物は銅の棒でした」

　ウガヤノ＝勇ましい　フキアエズ＝子供たち　ホコ＝石　イスラ＝インシャラー＝おおいなるもの　エル＝人　ム＝決まりが書いてある物　イスラムとイスラエルは兄弟のようなもの　カゴメ＝籠＋（メ＝ヒ（卑））＝かこむ

1999 年 2 月 2 日

「私は大昔によその星から降りてきました。いろいろなことが言われていますが、いろいろな魂が一杯降りてきていろいろな体験をしていますので、どれも本当のことと言えます。今の人間は霊的にとても立ち止まっています。2000 年を境に霊的に進化する予定です。それでもどうしても進化できない人もたくさんいます。この文を読む人はこれから霊的に進化することができ、霊と話すことができるようになるため、死ぬことや死んでからの不安がなくなります。このことを私からのメッセージといたします。　　トヨウケより」

1999 年 9 月 15 日朝

ノアの息子でウシトラノコンジンと呼ばれた者の墓です。（時代があってるか考えていると）必ずここに来てください。この墓は皆が作ってくれました。学びなのです。恐ろしいことが起こる前にとても栄えていた都があったことを知る。私たちが（ノアの息子）日本に来てからとても栄えました。私は仲間をとても大切にしました。これから私のことを知ることになります。私は恐ろしいオニとして伝えられました。ウシトラノコンジンと

しても伝えられたのです。

1999 年 7 月 10 日早朝

名前のない者です

「とうとう１人になってしまいました。大国主の尊の家来の１人です。８人はなんとか命を助けられ出雲に家族とともに来ました。粗末な家を建て少し落ち着いた頃のことでした。その頃、若者は別のところで集団で暮らしていました。ある夜嘘の使いの者が、若者のところへ来てほしいと言ってきたので、その人についていきました。そして誰もいないところで１人で待たされました。そして後ろから殺されたのです。霊として見ていると、殺した者は私の胸から巻き物を取り出しました。その巻物はヒミコから教えてもらった文字で仲間の名前が書いてあったのです。そして次々と仲間が殺されました」

「ワシは悪いことをした。日本武尊（〝にほんたけるみこと〟と呼ぶのが本当の読み方なのです。ある者が〝やまと〟と呼ばせるようになった）が、とても人気があり次の国王になってもらおうと家来が言い出した。ワシは

嫉妬にかられ日本武の尊に「お前が殺した８人はお前の本当の親父の家来だった。お前の本当の親父は大国主の尊だ」と本当のことを言った。

日本武の尊はとても嘆き悲しみました。彼は当時イシカミ山のいわれを知っていたので、本当の神様なら許してもらえるかもしれないと石形山に来てお詫びをして自殺したのです」

1999 年 7 月 10 日

「私は奈落の底に突き落とされたと思いました。それまで大国主の尊はとても悪いことばかりする地方の権力者だと聞かされていました。それでもおなさけで生かしてやっていると。なぜ８人も殺せと言われたかというと、そうです。イソナの８人の霊が大国主の家来にのりうつっているので、誰にも知られないように殺してこい。そうでないと、お前が呪い殺されると言われたのです。私はたまらなく嫌な予感がしましたが１人の供をつれ出雲に行きました。本当の父大国主の尊はすでにいませんでした。それでも乗り移られると困るので姿を見せないようにして殺したのです。１人ずつ。そして巻物は燃

やしました。おぞましいことでした。今皆に謝りました。霊の学びなのです。世に知らせてください」

1999 年 7 月 6 日

いつものように耳が熱くなる

「これまでのまとめの話をします。名のない白色霊団の方が神様から言われたから言いなさいと言われました。

稲穂の中で「俺のものだ」とその人は言いました。その人は背の高い人です。それから名前のない白色霊団の仲間は殺されました。私はヒミコなのです。それからおしなまえ（いれずみ）をつけられました。口の上にです。私の国の者は皆それをつけられたのです。女も子供もです。そしてドレイとしてヤマトへ連れていかれたのです。私は眠れませんでした。恐ろしくてその上子供もいなくなりました。娘は密かに逃がせました。おしなまえをせずにすんだのです。それから私は供の者と 2 人で哀れにも夜逃げしたのです。契約の箱？は誰かわからないですが名のない白色霊団の人がどこからともなく、持ってきたものです。箱の中にはお仕事の物（銅鐸と鏡が入っ

ていました）私はいつも太陽に光を当て遠く人に合図をしていたのです。そして私たちが襲われたことを知らせました。広島や岡山の人にも連絡しました。

おしなまえのことが今の学問では謎とされていますが、霊が悪さ（悪い霊に取り憑かれた）をしたと思わせるため、おしなまえをつけさせたのです。そしてドレイにしたのです。泣いても泣いても恐ろしいことでした。大国主尊はとても勇敢に立ち向かいましたが、刀を子供に渡していたため、たちまち捕まえられました。それでも殺されませんでした。今の気持ちはどうしても恨みがとれなく悲しみの気持ちで一杯です。なんとか本当のことを皆様に知っていただきたく降りてきました」

1999 年 7 月 2 日

「ヒミコの娘です。私には娘がありました。7 歳で死にました。なぜ死んだか書いてほしいのです。港にある毒（ふぐ）を食べて死んだのです。みんないなくなりとても悲しく、お供の者と一緒に食べたのです。お兄さんは王様になるため逃げました。私は生まれ変わりお父さんを閉じ込めた神の戸を開こうと思ったのです。

四国へ渡りたかったけど渡れませんでした。神の戸が立てられていたからです。それで神を呪う寺を建てたのです。四国へなぜ渡ろうと思ったかというとお母さんのお母さんがいたところだからです」

1999 年 7 月 21 日 7 時

「私はヒミコの娘なのです。私におしなまえをつけなかったのは、いずれ迎えにいこうと思ったからだとある者は言いました。私は身も心もすべての物を失いました。恨みの気持ちが消えなかったけれど、今その人が謝りにきました。これで恨みの気持ちは消えそうです」

1999 年 7 月 21 日 14 時

「5 色の玉についてアマテラスがお知らせいたします

あの 5 色の玉は人の顔の色なのです。ノアが世界にはいろんな肌の色の人がいることを話していたのを聞いていたので、ヒホコの命があのように表したのです。それを後の人が真似したのです。青い顔の人は勇ましかった人も死ぬとこのような顔色になるという意味と、4 という数字がやはり〝死〟を連想し縁起が悪いので〝青〟

も加えたのです。死者の顔色を加えたのが面白いでしょう。

私はヒミコです。アマテラス様は何もお知りにならないのに、何かお手伝いさせてください、と申し出てくださいました。

ヒミコです。大国主はとても優しく、力持ちでしたがやきもちやきでした。私がアマテルさまと呼んでお祈りしていると「誰だね」と言われるのでアマテラス様のみお呼びしてお祈りしていました。それでアマテル様はご自分の名前を忘れられたと思います」

1999 年 5 月 24 日

日本武尊です。私は大国主尊の長男でした。ある者にさらわれていったのです。そして、イソナ（朝鮮）の人を殺すように命じられたのです。イソナの８人はヤマタイコクに親善の使節として訪れていましたが、ゴタゴタ（ヤマタイコクが滅ぼされた）があり山に隠れ住んで様子を見ていました。イソナの人は皆にいじめられて鬼のようになりました。その人たちを殺したのです。イソナの人を殺したとわかり攻めてこられると困るので、ヤ

マタノオロチというお化けにしたのです。草薙の剣は父大国主の尊からもらったよく切れる剣でした。それが、オロチから出てきたと言わせしめたのです。私は石形山（いしかたやま）に葬られたのは本当です。イシカミのことは知っていたのです。

1999 年 5 月 26 日

　ヒミコです。私はサマルカンドのはずれに住んでいました。年は 7 歳ぐらいでした。町が砂嵐（シズと呼ばれていた）で埋もれだしたので丁度通りかかった外国の人（大国主）と旅に出ました。霊の声に導かれ「東の果てに行きなさい」と言われるまま、みんなで歩いていきました。霊の声（ヨサモテ）がなければとても無理な旅でした。毎日が学びの日々でした。そして、そのうちに霊が体から抜け出て明日の世界に行くことができるようになったのです。それで長い旅を続けることができました。そして、当時イナワの国と呼ばれていた日本に着くことができました。始めのうちは嫌がらせもありましたが綿の実をあげたり稲の芽が出るのをみせてあげたりしているうちに、教えをこう人が増えてきました。カバン

の中には糸巻きの模型もありましたのでたくさんの布を織ることができました。

1999 年 6 月 3 日

「イソナ(朝鮮)の国の者です。私たち 8 人はイナワ(日本）の友達を訪ねていきました。イナワに着くと争いが起きていたので、山に隠れて様子をみていました。なかなか争いはなくなりませんでした。その間私たちは食べ物を求めて山を下り、仕方なく食べ物を盗んでいました。見つかったのであわてて朝鮮の書状を見せると、権力者のところへ連れていかれました。お酒をご馳走してくれたのでたくさん飲みました。そして殺されたのです。私たちがヤマタノオロチとして殺されたと聞いたのは昨日でした。何も知らずに霊界で眠っていたら白色星団に起こされて真実を告げるように言われたのです。それで本当のことを知らせに降りてきました」

1999 年 6 月 3 日

「ヒミコの部下の若者でした。文字を作ることになりました、それで私たちが選ばれたのです。何から書いた

かというと「ワ」から始めました。わというとわっぱのわ、皆手を繋ぐと仲良くなれる、と思ったのです。次に火を書きました。火はとても大切だから。火は人がたいまつを持っている姿です。このように文字を作っていたら、働き者の大国主の尊が男は外で働くように怒ってきたのです。それで私は幼い日本武尊を連れだし、ヤマタイコクから逃げ出したのです。そしてヤマトに行ったのです。そこの権力者は戦がとても好きな人でした。私たちの話を聞いてヤマタイコクがとても大きな国だとわかり自分が一番大きな国の王になりたくヤマタイコクを攻めようと思ったのです。ヤマトは何もありませんでした。私たちが先導しました。いけないことをしたと思っています」

1999年6月4日

「ヒミコです。昨夜のことは本当です。悲しいことに息子も入っていたのです。夫は男は外で働く者だと言ったのです。ヤマトから来た兵隊の中に息子はいませんでしたが若者が案内してきたのです。若者は私の目の前で殺されました。若者は私の愛人でもあったのですが悪い

人でした。幼い息子を連れ出していたのです。息子は何も知らされていませんでした。娘はのがれて丹後に行かせました。私は気が狂ったようになりましたが、契約の箱を持ち、土柱の洞穴で自殺をしました」

「ヒミコを裏切った若者の続きの物語です。

〝リーダー〞の若者は殺されましたが、若者の友達は神社を造り守っていくように言われたので神社を造りました。何の目的で造られたかというと祟りを恐れたのです。また、ノアとノアの息子も本当の神だったのではないかと神社を造ったのです。

ヒミコの作った文字はホツマ文字なのです。みなかみ山はイシカミの二番目の息子が造りました。とてもよく覚えていてちゃんとしたピラミッドを造るとエネルギーがもらえることを」

1999年6月9日

「私はヒミコ。若者は流れ者だったのです。流れ者とはよそからきた者でお庭にいた子供だったのです。私は可哀想に思い育てた愛する子供だったのです。愛人の意

味が違うのでそのことを告げに降りてきました。ホツマ文字も紙に書かれていたのですがすべて焼かれてしまいました。紙は夫の友達に教えてもらいました。

ホ＝ミズホのホ、ツマ＝私、大国主の尊の妻が作ったという意味です」

岡崎にバラを見にいく。小さな神社の立て札があり通り過ぎる時、口が動き出す。「若者だったのです。大国主の尊を裏切った者です。悪いことをしました。刀は日本武尊に『お父さんから借りてきて』と言いました。ある者に土産として渡しました」

私はヒミコです。サマルカンドで生まれました。その頃から地軸の異常のため雨がほとんど降らなくなり食べ物が極端に少なくなりました。父は早く死に母と２人で物乞いをしていました。大人になるにはとても時間がかかると思っていましたが、旅をしている間に大人になりました。大国主の尊と一緒に日本に来ました。前の名前は覚えていないのです」

1999 年 6 月 14 日朝

　ノアの息子です。ウシトラノコンジンとは私のことなのです。あの孤島に埋められ閉じこめられていたのです。出口ナオに降りたのですが、ノアといってもわかってもらえないのであのような出方をしたのです。煎り豆に花が咲くとはあの本（不思議の科学）に書いてあった通りなのです。三千世界とはさんぜんと光り輝くという意味だったのです。そういう世界になるという意味なのです。出口王仁三郎はMに入られ私はいじめられました。でも元々心の優しいワニサブロウは中国に渡り戦争を続けよと言う声におかしいと思い、それ以来声を聞かないようにしたのです。霊界物語はMにビジョンを見せられ書いたのです。梅の花と言ったのは藤の花と間違えたのです。私がいかに苦しんでいたかということを、伝えてください。今は妻（ヒミコの娘）と 2 人仲良く休んでいます。

　さんぜんと光輝く世界になります。

1999 年 6 月 16 日 3 時 15 分

　我はノアの息子でウシトラノコンジンなり。ウシトラノコンジンとは、ある者が言い出したのです。ノアとノ

アの息子が牛と虎のように思ったのです。その２人にはとてもかなわないと思ったのです。そして呪詛をして封じ込めたのです。また、一応神にしておけは大人しくしてくれると思ったのです。

1999 年 5 月 20 日

　よく耐えていますね。耐えかねているのは地球もそうなのです。トヨウケです。よその星からヤハウェーと新婚旅行のようにやってきました。

出口ナオ

「ウシトラノコンジンはノアの息子の霊だったのです。

　あの島に押し込まれていたのです。それで私が開けてあげたのです。ノアの息子と言ってもナオがわからなかったのです。ノアの息子は殺されて雄叫びを上げていたのです。後のことはあまり思い出したくないのです。夜空の星のような物が見えましたね（本当に見えました)。私もそれが見えてからすべてがよくなりました。

　おしなまえとはイレズミのことなのです。

　弘法です。若狭にも四国と同じようなものがあるのは

ノアの霊を弔うためです。石観音もノアの霊を弔うためです。後もう少しでできあがる時、そのことについてロを滑らしたら他の人が変な顔をしたため途中で止めたのです。

　このことをノートに書いてください。

1999 年 6 月 8 日

　お招きさんの言葉で始まる。ノアです。（舞鶴までは）見張りが厳しかったが（福井に入る）と見張りが少なくなる。するとあちこちの人が家に呼んでくれ、話をしてくださいと招いてくれた。ご馳走と宿を世話してくれました。それで私（ノアの霊）がお礼をしてほしいと空海に頼んだのです。それで空海が回ってくれたので、寺が多いのです。金沢あたりになるとまた､評判を聞きつけ､何も喋るなと命令がきて何も喋れず死ぬ前に「モーゼ」とだけ言って死んだ。

蛇文字（龍体文字）

　ノアがイスラエルに文字があると言っていたのを聞いて、ある者が記録に残されたら大変と文字を禁じた。そ

して蛇の形をして神社におかせた。文字を書くと蛇を想像して気持ち悪がって誰も文字を書かないと思った。ヒミコがホツマ文字も考えたが厳しく禁じられた。

「私はヒミコです。忘れてはならないことは友達が悪いのでなく、人の心にMが入ったためなのです。Mとは鉛のものが、人の持つとても高い正しい思いを消してしまうのです。鉛もとても大切な金属ですが、ハンダをするように何でもおおいかぶせてしまうのです。

物事をいつも正しく思っているとそれでおおいかぶされ、悪い思いをしているとそれでおおいかぶさってしまうのです。そのことに気づけば鉛も悪い物ではないのです。

現れたことは織物の糸のことです。玉にした糸を転がしておくとなかなか元に戻らないでしょう。（糸がもつれること）糸がもつれた時の言葉をおかあさんに聞いたでしょう。その言葉も私が考えました。そして丹後に伝わったのです。

シャシャモシャの物語なのです。

（しゃしゃもしゃや　もしゃしゃのうえ〈いわ〉に腰

掛けて　もつれし糸のなんぎさよ）

　おしゃませて？　という言葉があるでしょう。それが脅し言葉で〝糸を切るよ〟という言葉なのです。〝もしゃしゃの岩に腰掛けて〟という意味は落とし物の岩に腰掛けてという意味。〝もつれし糸の難儀さよ〟でなく〝もつれし糸の身を切られ〟が本当です。これが糸のほつれをとく歌なのです。おもしろいでしょう。

　〝しゃしゃ〟はソ連の言葉で〝どこまでも〟、〝もしゃ〟は〝はるかかなた〟。

　〝もしゃしゃの岩〟とは落とし物」

　（この歌は本当に私の義母に教えてもらいました。糸のほつれが解けていくのです。）

1999 年 12 月 1 日

日本最古の漢字の田の記事を見ていると

　「田を作ることが大切だったのです。ヒミコの言葉なのです。田の物ができるようになり、とても暮らしやすくなりました。田のことをヤマタイコクの者が知らせたのです。漢字もヒミコとその仲間が作りました。これを嫌がったある者の部下がひらがなに直したのです。中国

に漢字が渡ったのはずーっと後と聞きました。（漢字は）ヨサモテ（霊）が教えてくれました。そしてヒミコと名乗りなさいと。ヨサモテの声はイシカミだったのです。お知らせしてくれたのでとても簡単にできました。

1999 年 7 月 8 日朝方

口の上がチクチクして目が覚める

「オシナマエ（いれずみ）をこのようにしてつけられました。ヒミコです。お供の者がぼろぼろの着る物を持ってきました。それに着替えて頭もバサバサにして薄汚れた顔にして、思い出しても悲しい夜逃げでした。足には動物の皮の履き物を履きました。以前箱を持ったといいましたが、巻物だけを持ち出したのです。

今お供の者の肩に寄りかかりながら歩いています。くたびれたのともうどうなってもいいと思っていました。私のことよりお金のものが大切だった供の者が、『それではこれにてさよならします』と行ってしまいました。それでもなんとか洞窟にたどり着きました。

お金のことなのであまり言いたくなかったのですが、私の宝物を持ち去りました。この人も今生まれ変わって

いますが、したことが必ず戻ります。

少女と２人になりしばらく休んでお話をしました。少女は娘の友達でした。オシナマエの痛々しい傷を見ながら、私は少女の刀を取り出しました。彼女のお兄さんにもらった刀で、私は自分ののどを突きました。少女はものも言わず見ていました。これでおしまいです」

1999 年 5 月 29 日夜中

「イソナの人です。イソナの人がなぜ殺されたか教えてくれたので、安心しました（大国主がある者にやられヤマタイコクが滅ぼされたことが知られると困るので殺された）。

イソナの国はあまり豊かではありませんでした。そしていつも隣の国の人が攻めてきていました。イソナの人はなんとか日本（イナワ）と友達になりたいと使いを出したのです。そして日本の人と一緒に隣の国の者に対抗したかったのです。日本の人はとても優しいと聞いていました。あなた（ヒミコ）の物語の方が可哀想でした。船で来ました。丸４日で来ます。

同じ〝イ〟の名前を持つ仲間なのです。それは〝イナ〟

から来ています。イナとは〝磯〟のことです。海に囲まれている国という意味です」

1999 年 7 月 15 日朝

「因幡の白兎は私のことです」とイエスが語り始める。

「霊からモーゼ（？）が契約の箱を四国に持っていったと聞いたので、四国へ行こうと思っていた。イシキリでしばらく暮らしていたら大国主の尊（？）は出雲に移されたと聞いて、出雲に出かけた。途中ある者の差し金で、身ぐるみはがされた。出雲に助けを求めるも１泊させてくれ、食事を与えられただけで冷たく追い返された。当時はすでに大国主の尊はいなかった。ワニと言われるのはナマズのことでナマズが地震を起こすと思われていた。当時日本ではローマは地震で滅びたと思われていて、そのナマズをも飛び越えて日本に来た白人（イエス）をからかった（いじめた）歌です」

「出雲側からは、身ぐるみはがされて寒かろうとガマの蒲を、綿代わりに使うといいと教えたのです」

「アマテラスです。ヒミコが私のことを呼んでくれて

いました。太陽から遣わされた霊なのです。私は霊なので人間としては生まれていません。今のは本当のアマテラスですので忘れないでください。私とツキヨミの尊は夫婦なのです。私たちが天候を司るのです。本当の月の神様はツキヨミの尊だけなのです」

「ヒミコです。稲や綿も私たちが持ってきました。大国主の尊がたくさんの宝を持っていたので買えたのです。

波形は横糸、はまり型は縦糸と言いました。織物は殿方の仕事でした。冬の間に織りました。女の人は織物でなく糸を紡ぎました。それでも綿の実を持ってきましたのでだんだん綿が増えてきました」

「勇ましい娘の話をします。私はヒミコの２代目です。ある者が、無理矢理私を連れていこうとしたので、私は短剣で立ち向かったのです。私はある者が大嫌いでした。私の夫（ノアの息子）はとても優しかったので大好きでした。私たちはとても仲がよかったのです。男の子と女の子も生まれとても幸せでした。それなのにある者が無理矢理私を夫から離させたのです。そして、連れていか

れる道中に白い（ノアは白人）藤の花が咲いていました。私は、その藤の花を手折り私の夫と思い、胸に抱いていったのです。私は女の身を恨みました。ある者の子供を産ませられたのです。しばらくして私は自ら命を断ちました。私は今甦りその時のことを思い出したのです。哀れな話でしょう。このお話をお知らせすることができたので休みます」

1999 年 5 月 18 日夜中 1 時

「あなたの問いかけを待っていました

私がある者です。やましろの国にいました。私は自分より人が上にいるのがとても嫌でした。ヤマタイコクの国王が四国にいると聞いて嫉妬心から焼き滅ぼしました。私は今さら言い訳はしません。罪滅ぼしにすべてのことを伝えます。

私がやましろの国を作ったのです。が、小さな国だけではおさまらず領土を広げていきました。四国から岡山まで広がっていたヤマタイコクを占領しようと攻めたのです。私はすべての物を焼き払いました。そして四国の地名を新しいところにつけたのです。私が国王になりた

かったからです。連盟（？）にやられてついに知られてしまいました。私たちに力をくれていたMもいなくなりました。私はいろいろな神を作りました。私に逆らう者はすべて滅ぼしました」

「波の向こうに見えるのが日本だと私の父が言いました。私はノアのマナ息子です。名前はナインと呼ばれました。丹後に着き港のある町に行きました。そこの大人の人が私たちの持った刀を見て、欲しいと言いました。瑪瑙と交換しようと言いました。それでも刀はいるからと断りました。それから、私たち２人は、金物を作るため仕事を始めました。仕事は鉄の物を集めることでした。砂を焼いて溶けた物ばかり器に入れるのです。そうすると、鉄が集まるのです。鉄はおもらいものと言いました。それらを叩いて薄くするのです。それをたくさん作りました。よく切れるので皆に喜ばれました。私の言葉が名古屋で使われています。おこし物＝砂で形を作り溶けた鉄を入れる。一番始めは砂に穴をあけ､砂を焼き､底にたまった物を集めた。

日本に来る前､私（ノア）は息子も生まれ幸せでした。

毎日よく働き神様に感謝して暮らしていました。ある日声が聞こえたのです。「大きな舟を作れ」と。私は毎日山へ舟の元の木を切るために山へ行きました。とても大変でした。神の声が舟の作り方を教えてくれましたので作れました」

「ヒミコです。今思い出したことを伝えます。綿の種も持ってきたのですが、なぜワタと言ったかと言うと「わ」の国のわと端の「た」を組み合わせたのです。畑の端に植えるように」

「大国主の尊です。

安来節はとても悲しい踊りなのです。私（大国主）が出雲に追われた後ある者が来て宴を催させました。その時私にできるだけ面白い踊りを踊るように強制したのです。そしてその踊りを皆に真似させたのです」

1999 年 4 月 13 日昼

「ようやく私の出番になりました。弘法です。私は小さい頃から霊と話すことができ、ノアやイエスや大国主と交信していました。まず、大国主に頼まれヤマタイコ

クの死者を弔うため四国を回りました。それからノアの霊を弔うため若狭の国を回りました。石観音はノアのために作ったのですが、他の人に誰のために作っているのかと聞かれ「ノアのため」と言ったら、彫るのをやめるように言われたのです。若狭のあちこちでノアのことを聞いて回りました。

生駒山にイエスが登ったと霊に聞いたので、私もそこで修行をしました。また、吉野はイエスのゆかりの地なので行ってほしいと頼まれました。

「なむだいしへんじょうこんごう」の意味は、私の作った暗号なのです。意味は「四方が波の彼方から来られた人が浄土のことを教えてくれる」という意味なのです」

1999 年 4 月 13 日 23 時

「菜の花がもうすぐ実りますね。菜の花の油はとても大切な物でした。私はヒミコです。思い出したことをお知らせします。私は 3 人の供の者と夜山を下りました。そしてどこかわからないけど、大きな洞穴にたどり着きました。（ある者に襲撃されて）例の契約の箱？とわずかな食べ物を持っただけでした。ヤマトの名はヤマタイ

コクから取ったモノです。ヤマタイコクはとても哀れに焼き払われました。私は名のない白色星団の者に助けられ山道を降りました。私はいつも眠りながら？神（太陽神）の言葉を聞いてそれを皆に伝えていました

ヒミコは火見娘と書きました。〝光〟の横棒を取ると〝火〟。横棒が水の膜なのです。火＝光＝太陽なのです。それをある者は〝卑〟としたのです。

私の愛娘が第２ヒミコなのです。その娘がいたいけにもさらわれて、ある者の妃にさせられたのです。私は洞窟に着いた後、喉元を切り自害しました。霊界で娘から子供があったと聞きましたが、それがヒホコの命で私の孫になるのです。ノアの息子はヤマトの命令で恐ろしいことに籠船に乗せられました。ノアも追い出されて流浪の果て金沢で死んだのです。モーゼと名乗っていました。以前にも言ったようにノアの息子は富山にたどり着き記録を残した後、丹後半島に漂着しました。山づたいに逃げましたが、追手にやられました。

大国主の尊

私はアトランティスの血を引くギリシャ人で蒙古を経

て日本に来ました。九州でクマソに追い出され当時は地続きであった？四国に落ち着きました。次第に人口も増えヤマタイコクを作りました。名前の通り高原に国を作りました。皆とても働き者で食べ物もひえや粟キビなどを食べていました。私は国王でありましたが、外で農業などをして働いていました。妻はヒミコと言い霊界と通じていました。皆よく働き仲良く暮らしていましたのでとても長生きでした。それが知られたのか不老長寿の国と思われ、見知らぬ人が大勢訪れてくれました。ある日突然ある者が攻めてきて、あらゆる物が徹底的に焼き払われました。私は遠く出雲へ追いやられたのです。今そのことをおぼろげながら思い出したので、この女性を通して語っているのは大国主の尊です。霊として降りてきて無念の思いを､世の人に知ってもらいたく話しました。

1999 年 9 月 1 日朝

花子さんと歌を口ずさむ

「ヒミコです。この歌も私が作りました。『花子さん、いくつ？』『私は 12 と 3 です』と皆で踊りながら歌うのです。そして結婚を勧めたのです。それまで女の人を

押し倒して子供を作るだけでしたので、誰が父親かわかりませんでした。それで身体のおかしい子供が生まれると思いました。今で言う近親結婚をさけたいと思ったのです。家族の単位を作ろうとしたのです。これは仲間がなかなか同意してくれなく、思うようにはなりませんでした。若者がお粗末なこと？をしていました。押し倒すことをよかれと思っていたからです。それが悪い癖でした」

1999 年 9 月 1 日昼

「大歩危（徳島県？）の川上の岩が落とし物なのです。それをざざれ石と呼んでいました。オオボケ、コボケ、と嫌な名前をつけられました。あの頃はそのように言わないとやられたようです。この前お話した高砂もこの石を見て作ったのです。おさまらないのです。皆に知ってもらわないと」

1999 年 9 月 2 日 1 時 10 分

口がしきりに動いて目が覚める。ノートに書いてほしいと

「『カ』の者です。詳しく教えます。『カ』とは〝こだま〟のことなのです。『カ』を叩くとあすの名前？がわかるのです。あすの名前とはお仕事のことなのです。お仕事とは集まりのことなのです。集まりがある時『カ』を叩くのです。（銅鐸のことですか？と聞くも返事なし）『カ』は長細いお鍋の物と同じ金属でできた物で周りに模様をつけていた。立てて置くのに都合のよいような形にした。こだまの鳴るように音を出す物。金具も作りました。長いおはしのような物で叩きました。私は星の者なのです。壊れた（稲光の星）星の者です。お手伝いをしに降りてきました」

1999年8月10日6時

「イエスです。私は日本に来てとても幸せでした。オニ（ローマ人）もいなく、身体を治してあげるだけで皆にとても親切にしてもらえたからです。それで私は大人しくしていました。出雲へなぜ行こうとしたかというと私の前に来たノアの話を聞いたからです。大国主の子孫にあえば何かわかると思い、お供を連れて出雲に行ったのです。大国主の家の者は丁度おもちを持ってヤマトの

ところへ行こうとしていたのです。それで私の用件を聞いて嫌がったのです。私の人気を妬んだ者につかわされた若者により、稲のところで身ぐるみはがされたのです。出雲にお土産に持っていこうとしたたくさんの宝物を持っていました。私を王様のように思ってくれた皆がくれたのです。出雲の人を見張るために来ていたヤマトの人が盗りました。それを今思い出したので降りてきました。ノアのことを聞いたので私は悪者にされ嫌がらせを受けたのです。私の言いたいことはこれだけです」

1999 年 8 月 28 日 0 時 30 分

左拇指（親指）が痛く目が覚める

「思いがけない人が面白い刀を持ってきています。

Ａの神と言われる者です。私のことを書いてくださりありがとうございました。私の元にわがままなあの人が来たのには、面白い訳があります。わがままな人とはニホンタケルノミコトです。星の物語なのです。私は射手座、あの人は太陽の魂の持ち主でした。

（とてもいい匂いがする）わかりますか。私からのプレゼントです。（ニホンタケルノミコトは）ヤマタイコ

クから若者に連れられてきました。そして泣いてばかりいました。4、5 歳だったと思います。そして私のところに来ると『お姉ちゃん、おうちに帰りたい』と言いました。私は困ってしまいました。なぜならその子が可哀想になったからです。叔父は冷酷な人ですから泣いているのを見て『男は泣くな』と怒鳴ったのです。この刀はその時タケルノミコトを連れてきた若者が献上品として持ってきました。私が『この刀はお父さんの形見なのでこの子に渡してあげて』と頼みました。私は 8 歳だったと思います。妹は 5 歳でタケルノミコトと仲良く遊んでくれました。それで泣かなくなったのです。それからも仲間がないので私たちと遊んでいました。それから大きくなるとあちこちに敵を倒しに行かされました。イソナの人の霊がついているという出雲へだけは、私に来てほしいと言われたのです。私は霊と話せたからです。そして出雲の人はそのような霊（イソナの恨み）でなく、『よく来た』という霊ばかりでしたのに、タケルノミコトは耳をかさず殺してしまったのです。帰り道『どうして殺したの』と聞くと『お父さんがイソナの霊が乗り移っているから』と言っていたからと言いました。そして考

えていました。私はそれからも見守っていました。ある時本当の事を知らされたタケルノミコトはナゴヤに向かいました。そして『必ず帰ってくるから』と私たち姉妹に告げ家を出ていきました。それが見納めでした。イシカタ山に降りた霊が招いたのです。そのことは私は何となくわかりました。去った後、私たちもたまらなく自害しました。そしてタケルノミコトの名前が忘れ去られた頃､私の元にこの刀が戻されてきたのです｡アトランティスとギリシャの血を引くということがこの刀で証明されるのでないかと持ってきました（霊的)。

　これまでの（本当のこと）ことを世に知らせることがとても大切と思います。私の言葉が世に出るとうれしいです」

「ニホンタケルノミコトはマザーコンプレックスでした。イソナの人を命令で殺しにいく時、好きな女性（ある者の姪でお姫様）を連れていきました。その女性はイソナの人が殺されそうになった時、守ろうとしました。その女性がＡの神様です」

1999 年 9 月 29 日朝

ペトログラフについて私も知っています、とヒミコが降りてくる

「あれでは意味がわからないので新しい文字を考えたのです。あちこちに同じ文字があるのはなぜかというと、イシカミが本当のことだと書いてあるのです。その文字をイシカミが教えました。イシカミです。私たちはテレパシーで話ができました。文字はないのです。それで私たちのことを覚えてもらうためにあの印を当時の人間に書いてもらいました。落とし物に書いてもらいました。ペトログラフにはこう書いてあるのです。

『私たちイシカミが地球に来ました。地球では引力が強く動けなくて困りました』と書いてもらいました」

1999 年 10 月 22 日 22 時 30 分

続いてヒミコより

「アカサタナ　ハマヤラワも意味があります、と。

紅いふんどし？を身につけると早く大人になれると思っていました。早く大人になるように願いを込めた歌なのです。

イキシチニヒミイリイ

生き方が死に方を決めるのには秘密の物語があるということです。霊を信じていると穏やかに死ねます。

ウクスツヌ　フムユルウ

（子供が）生まれるのが冬にならないように計画しなさい。当時は冬を越すのが大変でしたから。

エケセテネヘメエレエ

動物のえさになるものを冬に備えて集めておきなさい。

オコソトノ　ホモヨ口オ

大人になるとすぐに老人になるのでほほえみを持って生きなさい。若者に対して大人になるとすぐに老人になるので毎日を穏やかに過ごしなさいという意味。

今日ヒミコのことを削りなさいと言われたのに、あなたがどうしても載せると思ってくれたので私も一生懸命思い出したのです。私の思いを世に知らせてほしいのです。大国主のみことのことも必ず書いてください、と伝えるように言われました。（私がヒミコさんはとても頭がいいのですね、と言うと）すべて霊が教えてくれまし

た。星の宮のご指導でした。
　お知らせは以上です」

2000 年 1 月 20 日
ヤマタイコクから逃げ出した若者から
「夫婦制になり自由に（SEX）ができなくなったのが不満の一つ。また、ヒミコがとても大切にしていた箱の物が欲しく、ある者の力で見せてもらおうとした」
　ヒミコから
「あの箱の中には私の父母の骨の一部が入っていただけでした」
　ある者
「大国主に刀の作り方を聞くも教えてくれなかったから焼き滅ぼした」

1999 年 3 月 27 日
2 月頃より度々、鞍馬山、義経
「野に咲く花のように」の言葉も何回も言ってくる。どういう意味か聞くと義経の話はすべて本当の話である。多くの歴史の物語は嘘が多いが、義経は本当に国民

に人気があり語り継がれた由。安宅の関も弁慶の最後も本当であったが、義経は藤原の息子に船を与えてもらい北海道へ逃げた。そしてアイヌに助けられた。アイヌはテレパシーで義経が善人であることを知り、大事にかくまった。死ぬまで北海道で過ごした。

６．マホメット、釈迦たちからのメッセージ

「エジプトの幼かった王様です。ツタンカーメンです。前にも降りましたが書いてもらえなかったのでまた、降りてきました。何も知らなかったのです。私と妻が仲良かったのは本当です。あの神官が妻と一緒になりたくて私を殺したのです。私は頭を殴られあの面をかぶせられたのです。それで押さえつけられ息ができなくなったのです。叔父であり親の代わりの人だったのに、悲しいことでした。この前あやまりにきました」

「狭いのです。閉じこめられています。ナヴァロンの王だった時にエジプトに、攻めていきました。そしてあなたが見たあの地下室に閉じこめられていたのです。あなたの元に教えにきてようやく解放されました。私はまだ若い王でした。そして新しい土地を求めて南に攻めていったのです。それで捕らえられたのです。我が名はナソと呼ばれていました。大きな港から船が出入りしています。私はその船に乗り攻めました。それが砂漠の中から見つかった船です。当時は川があり川づたいにのぼってきたのです。頭の物が面白い人でした。私たちがナイ

ルの下の人なのです。私はあの大きな古い像の前で生け贄として処刑されました。なかなか生まれ変われなかったがモーゼとして生まれ変わりユダヤの民を助けた。エルサレムに戻ると違う言葉を使う者たちが住み着いていて追い出され、世界のあちこちで暮らすようになったのです」

「頭の上に面白い物をつけた人でした。それがエジプトの王様たちです。それはなぜかというとMの霊がそのような物をつけるよう、神官を通して伝えたからです。神官は霊の言葉に従っていたのです。私はユーの国王です。あれから仲間の者がのこぎりで首を切られ、俺たちの言うことを聞かないとこうなるぞと奴隷にしたのです。奴隷の者は何カ月も牢屋のようなところから出られず、ひたすら煉瓦作りをさせられました。あなたが見かけたところです。本当の話です。はるかな昔のことがあざやかに甦ってきました。あのエジプトのナイル川は今の倍はありました。とてもたくさんの川がナイルに向かってそそいでいました。以前言ったように草木も大木もたくさんありましたが、すべてが砂に埋め尽くされま

した」

1999 年 7 月 14 日 22 時

「エジプトの者です。私が頭につけるように言ったのです。王家の者は髪の毛がありませんでした。それで勇ましく見せるために頭につけてもらったのです。王家の者はイシカミの子孫なので直接支配していたMは嫌みに、誰もが嫌う蛇を頭につけさせたのです。本当の神はイシカミなのに交信できなく、Mに支配されていました。イギリスに降りたイシカミはとても弱っていて早く死にました。海の中に入りました（眠くて覚えていない）」

「今、ところどころで争いがあるのは、イシカミの霊が知らせているのです。イシカミの霊は地球に来たことを後悔して射手座に帰りたいのです。今からイシカミの霊たちは皆帰ります。このことに気づいて人間の力で地球を平和にしてください。思いが大切ということです。皆が平和を望むようになればそうなります。

以前記憶が定かでない時 UFO で射手座から来たと言いましたが、射手座にはテレポーテーション装置があり

それで来たのです。こちらでは引力が強く動けなくその装置が作れなく向こうに帰れなかったのです。それが悲劇の始まりだったのです。射手座は引力がとても少ないのです。七夕過ぎてもチャネリングのできる人が増えなかったのは残念です。終わり」

1999 年 6 月 7 日

「ヤハウェーは大昔こと座から日本のトヨウケとともに降りてきた霊です。それが人間だったのです。他に何人か降りてきてますが、まだここに来てません。ヤハウェーは今のイスラエルに行き、地球人に霊として話し始めましたが､それ以外はまだ思い出していないのです。ヤハ＝流れる。ウエー＝とどまらない。宇宙は渦巻きがあり回っているのです。そのことを伝えるという意味です。

ユダヤの民が世界中に散らばっているのはなぜか、それには訳があるのです。私が悪いのです。私の話を聞いてください。思い切って話します。

私は大昔、ユダ王でした。私は仲間とともにお城に行

きました。その仲間はユーと言っていました。お城は南にありそれがエジプトだったのです。エジプトには大きな物ばかりある国でした。私たちはそれを占領しようとしたのです。またとても豊かな食料もありました。でも皆捕まえられたのです。それでも（私をのぞいて）殺されはしなかったのですが、ドレイとして悲惨な生活をよぎなくさせられたのです。私たちはこう誓い合ったのです。必ずここから逃げ出し東の果てにあるユートピアに行こうと。そのうち誰言うとなくわかり出したのです。私はヤハウェーの子供なのです。ヤハウェーは名前だけ残されていたのです。（？）ユー族は皆ヤハウェーの子供だと言われていました。

　他の国の方はご存じないのはなぜかというと、このさまよえる霊こそユダヤの民の霊なのです。それでも今は自国に帰れました。私が戻れたので皆も帰れます。何の学びかというと恐れを取ることなのです。地球から恐れを取ることがユダヤの民の責任なのです。お願いします。地球の皆さん、華々しくお金を儲けているユダヤの方、あなた方も日本を訪れ、愛の民として地球の皆さんを助けてあげてください。

私は白色星団の一員で学びの者、ヤハウェー、かつて人間であったことに間違いない。それなのに神と偽り崇めさせていたことは申し訳なかった。ヤハウェーは、今こそただの人であったことを宣言する。大昔こと座から降り日本のトヨウケとともに人間として生きてきた。我々こそ何を隠そう、アダムとイブなのだ。何も悪いことはしていないのに地球に来たばっかりにとてつもない苦労を味わった。50 万年前というのは定かでないが人類は何度も栄えては滅びた。今度こそ本当の天国にしなければならない。この物語は面白いだけでなく本当のことである。蛇はMだがリンゴに特に意味はない。ヤハウェーがこのことを話した」

「メソポタミアはシュメール語でメ＝ネ＝お友達、ソ＝イ＝戦争、ポタ＝ポラ＝イヤマー＝何者も、ニヤ＝霊の外？のこと。

メソポタミア＝戦が友達、霊のない者という意味です。

シュメール人はその通りだったのです。

なぜなら霊を知っている者は戦をしないのです。霊界が見れますから。

私はメソポタミアの者です。遙か昔に人間でした。今記憶が戻ったので降りてきました。私たちの祖先はシュメール人でした。霊の世界を知らないのであちこち攻めていました。いつの間にか１つの国になりました。霊のことは知らないので悪いことばかりしました。ホの元はホニライ。そのことはいつも言っていました。王様にオニが入ったのです。ニビルというオニが。それで終わりになりました（シュメール)」

「ウセの一人がイエスたちの船を日本に導いてきました。その船頭が降りてきて知らせてほしいと。自分もウセに帰れなかったのでサナンダとともに日本の北の地方で生きていた」と。

「シュメールを支配したニビルは白色星団の皆の力により衝突を避けられました。ニビルの星は今では小さくなり宇宙で漂っています。霊はいませんし何も心配はありません」

1999 年 7 月 4 日朝方

「マホメットです。私の息子がさらわれてから物語は

始まりました。息子はとても激しい気性の大人になりました。ウセのせいなのです。ウセがそのように教えたのです。必ず復讐せよと。それからイスラムの人は復讐するようになったのです」「今息子が降りてきました。お父さんの気持ちも知らないで、またウセにお父さんが殺されたことも知らなかったのです。私は異教徒（キリスト）の集団に殺されたと教えられました。それでキリスト教と敵対していたのです。私の名前はムハメッドです。ムナサミ＝脅す男という意味です。ハナレニ（そう言ったと思う）ハナレニ＝おぞましい、恐ろしいという意味です。メット＝人でない、神。

　私がムハメットなのです。あまりのことに今何といったらいいかわかりません。ウセは大切に育ててくれました。それなのに父の仇だったとは、今の今まで知りませんでした。やさしい父だったのですね。今私は何を言えばいいのかお友達のキリストに聞いています。これからはその教えを正すことを、伝えなければならないと思います」（右手がチクチクする）

「イエスです。文を早く送ってください。ムハメット

から相談を受けましたが、私としての答えは早く世に出してもらうことという答えしかないのです」

1999 年 7 月 20 日 2 時

左手の甲が痛く目が覚める。問うと

「私はムハメット。私の仲間が来ています。ヤスの仲間です。ヤスとは〝情けのない〟（何という名前をつけたのだろう）という意味です。あなたの話を信じるために来ました。必ず復讐せよ、という掟の仲間なのです。私のお父さんから聞かされて仲間の者を引き連れてここにいます。あなたの話がよくわかりました。仲間はこれから復讐のことばかり考えなくてもよくなりうれしいと。復讐することが男としてとても大切なことだ、といつも言われていたので。私ムハメットの物語を最後でいいので書いてください。私の物語をします。

私が物心ついた頃、私は誰一人好きになる人がいないことに気がつきました。なぜかいつも誰かに見張られていると思いました。それは優しさから見守られているというのでなく、何度も命を落としかけたのです。それがいつも奇跡的に、あまり何も知らない人に助けられまし

た。そのことを今思い出しています。誰かというと白色星団（霊）の人でした。

いつしか大人になり、赤の他人といる方が楽しいと思うようになりました。父という人は恐ろしい人で、いつも女の人の上にのっていました。そして母という人は物に恵まれていても、いつもキイキイと怒っていました。それが覚えていることです。そして父はいつも『やられたら仕返しをせよ、それが男の生きる道だ』と言っていました。私の物語でした」

1999 年 7 月 11 日夜

頭に面白い物をつけた人が何か言ってきています

「私はクフ王です。私がギザのピラミッドを作ったとエジプトの学者は言っていますが、私が王になる前からピラミッドはありました。何を言いたいかというと私が作ったのではないことは確かで中にも入れなかった。私の物にしたかったので、入り口に名前を彫らせた。私クフ王は巨人の子孫でとても大きかった。たしか 3 メートルはあったと思う。巨人はわずか 4 人しかいなかった。名前のない者がやかましく降りて言うように言って

いたが……。ワシは嫌だと言い続けたが、宇宙の警察（白色霊団）というのが来て、どうしても話すように言ってきたので降りてきた。なぜこんなことを話さなければならぬかとがんばっていたが、私のお父さんが話すように言ってきたから。お父さんはあの野の中でイスに坐っていた大きな古い像です」

「私がクフ王の父と母です。私たちは何もできないつもイスに坐ったままでした。子供は大きくて３メートルはあったが動くことができ、あらゆることができました。私たちの親が射手座から来た両性具有の巨人でした。親はイシカミです。親は亡くなった後シナイ山になりました。シナイ山に来てください。（私が御在所に行こうと思っていたので）シナイ山で私がモーゼに教えたのです。そして海を割ったのは私の力です。私の子孫がイスラエルの民を虐めているのがとても嫌だったのです。それであらゆる災害を起こしました（気づかせるため）。ヤハウェーは私のことを知っていました。それを利用したのです。私がマナを降らせたのです。射手座にお願いをして、パンのようなものを降らせたのです。私は霊界に行かずに見守っていたのです。旧約聖書に出て

くることは、私イシカミがしたことです。クフ王が野蛮になり、その子孫もわがまま放題になりそれに皆とても乱暴になりました。私の物語がなぜ出てきたかというと、ノアの洪水がなぜ起きたか知らせたいからです。なぜ起きたか、それは私イシカミが大泣きしたからです。地球に降りたイシカミが射手座との生活のあまりの違いに哀れになり大泣きしたのです。射手座では皆仲良く暮らしていました。地球もそのようにしていこうと思っていたのに、いわゆる地獄のようになってしまったからです。それでなぜノアの洪水になったかわかるでしょう。ノアのようにまじめな人だけ残そうと思ったのです。そして私の声がかすかに聞こえる人が残りました。

私はとても疲れましたのでこれまでとします。白色霊団の団長がとても喜んでいます。

ギザのピラミッドは以前にも言ったようにイシカミの落とし物で作りました。なぜあの小さな通路があるかというと、必ず小さな人間が中を見るだろうと思ったからです。大きなクフ王が書いた俺の物だと書いた文字があるだけで、ピラミッドの中には何も残されていません。私が暇にまかせて落とし物を小さくして積み上げたので

す。石棺？はそう指輪入れです。指輪は射手座にお知らせするのに必要な道具でしたから。それがなぜ今ないかというと私の遺体が岩になり、シナイ山の奥深くにあるからです。それで異次元の入り口になり争いが起こっていたのですね。でも今石の霊は？消えました。この話を信じれば地球、特に中近東は平和になります」

1999 年 8 月 27 日朝

「クフ王の親です。あの野に坐った巨人です。お互いの姿を造りました。形に残しておけば私たちのことをわかってくれると思ったのです。私たちはあの大きさより大きかったのです。クフ王はなぜ自分のことばかり書いて私たちのことを書かなかったかというと、Mに支配されていたからなのです。今、はっきりと思い出したのは押し文字の物語です。押し文字で名前を残すということです。これは私が教えたのですが私たちの前にオニがいて私たちのじゃまをしたのです。私たちの身体はアブシンベルの石になりました。なぜピラミッドから離れたところに建てたかというとピラミッドをMが嫌がったからです。ピラミッドから離れたところで支配しようとした

のです」

1999 年 7 月 3 日朝方
口が大きく動くも言葉になかなかならず
マホメットからであった

「マホメットです。インシャラーとは〝御前に〟という意味で言いました。ハレルヤとは言いませんでした。イヤマールとはイヤー＝そなた、マール＝私、私とあなたは兄弟です、といつも言っていました。ホソナリとは音頭をとるということ、何の音頭かというとお祈りをする時お手本を示すのです。私はホニライ。いつも恵まれた生活をしていましたので感謝をしていました。私の部族の名前はシャングリラのシャン族でした。シャンは〝勇ましい〟、グリラとは〝よそに求める〟いわゆる貿易をする部族でした。あなた方が思っている以上に貿易はさかんでした。インドからはシナモンや綿を輸入しイスラエルからは塩とか戦の刀とかを持っていきました。私は船を造らせ貸すことでお金を儲けていました。今で言う船主でした。なぜ死んだかというとウセにやられたとは以前に言いましたね。私の言葉がなぜあのように復

讐の意味に解釈されたのかわかりました。私が殺されたことでシヤン族の民が誓い合ったのです。それで復讐のことばかり教えられるようになったのです。イスラムの指導者の方、私は復讐は望みません。私の言いたいのは私がいなくなってからのことより、生きていた時に話していた本当の意味の〝目には目を、歯には歯を〟の教えを学んでほしいのです（食べ物やきれいな物のお返しのこと）。私は一度も復讐せよと言ったことはありません。また、女性を解放してあげてください。幸せならいいですが嫌だという女の人に暴力を振るわないでください。霊界に来るとそのような人はとても苦しまされます。霊界の方が長いのです。そのことを忘れないでください。

すべてはおさまるようになっているのです。ああでもない、こうでもないと考えないで一生懸命働いて後は神様に任せることが一番です。そうして生きた人が霊界では一番楽しく過ごせるのです。これからのモットーにしてください。若者や女性の意見も聞いてください。それが平和な国になる大切な条件なのです。

私の学びは物がありすぎるということでした。それなのに貧しい人に分けてあげなかったことでした。死ぬと

自分の人生を振り返えさせられます。それは本当です。霊界では自分がしてきたことが自分に跳ね返ってくるのです。そう思っていれば自ずと生き方はわかるでしょう。断食は毎日ご馳走ばかり食べていたので、イエスがインドであまり食べ過ぎない方が身体にいいと言われていると言ったので始めたのです。充分食べていない人は何も断食はしなくていいのです。あまりにも昔の規則がやかましく言われていると思います。もっと楽しく生きてください。人間としての喜びをたくさん体験してください。でも他人の犠牲の上での喜びは必ず後で後悔するだけです。それではこれだけにしておきます。

「あなたの責任はとても重いのです」と白色星団から言われ、記憶が甦りしだい伝えなさいと言われました。マホメットより」

1999 年 6 月 24 日

右手の甲が痛痒い。問いかけると「イエスです。思い出しました。（マホメット）は船の持ち主の子供だったと思います。2 人はとても仲良しでそこで何回も会いました。いろいろと話をしました、それなのになぜイスラ

ム教とキリスト教に分かれたかと言うと、その教えを説く人たちのせいなのです。自分の方が正しいとお互い相手を責めているうち今のようになってきたのです。私が思うによかれと思い自分たちの教えを強調しているうちに、そうなっていったのだと思います」

「マホメットです。

イエスと同じ位の年でした。イエスはいつもイエス、イエス（はい、はい）と言っていました。とても優しい子でした。私は船主の息子でイエスとは手の甲に同じ傷があるということを思い出しました。

メットとは何者でもない（人間でない）神という意味で他人がつけました。

マとは男という意味で男でないと人間ではないように思われていたのです。ユダヤはユーの国、ホの国は何の国かというとホニライ（感謝）のホなのです。それがいわれです。

恐ろしいことです。ウセの者が私を縛りにきました。そして私の愛息子を連れていってしまいました。私がやめてほしいというと、波の上にある船の権利をよこせと

言ってきました。そしてそれから殺されたのです（私の左手の甲が痛くなる)。マホメットが話しています。私を神にしたのは、ウセの者なのです。恐れたのです。私が殺された後、大勢の人が呼んだのです。『マホメット』と。それでウセが神にしたのです。私の愛息子を王にして、後ろで操ったのです。あなたにお話しできてほっとしました。白色星団から早く伝えるように言われました」

1999 年 6 月 5 日夜中

「マホメットです。イエスに船をあげたから殺されたのです。小さい息子がいたのに考えずに船をあげてしまったのです。そのことでウセの代表に責められたのです。

イエスが友達も誰もいなくなった、ととてもしょんぼりと訪ねてきて、追われているからはるか遠くへ行きたい、と言ったのです。友達も誰もいなくなったと言ったのに、とてもたくさんの人が彼を信じているのはちょっと……」

「イエスです。無理に船をもらって悪いことをした。と言ったら周りの霊が『自分たちが悪かった』と言って

きた。イスラムの人たちである。これで霊界の人は仲良くなれる。これで釈迦が出てくるだけなのに……」

左手が痒い、なかなか名前が出てこなくてヤホメットと。マホメットであった。

「私の愛息子のことですが今では優しい人になりましたので恐ろしい名前(ムハメット)はやめてください。私、マホメットの息子が求めるものは平和です。そのことを必ず書いてください」

1999 年 9 月 30 日朝

左手が少し痛いので問うと

「ムハメットです。私が悪いのです」と何回も言われるので「あなたも犠牲者ですし、人類の学びのためと思います」と答えると、

「ありがとう。〝モナムー〟とは〝おしゃま〟という意味です。私には妹がいました。妹は本当に可愛く私がただ一人愛した人でした。それで誰かに狙われるといけないと思い顔を布で隠させたのです。ただ誰かにさらわれないかと思い、どんな顔をしているか知られないようにするために顔を覆ったのです。そして身体もです。そし

て家に閉じこめたのです。私の誤った愛情が今も伝えられていると聞いて降りてきたのです。今こそ私の教えが間違っていたことを伝えに参りました。ただ１つ正しかったのはどんな時でも感謝することでした。今は形式にこだわりすぎています。私が思うに朝と夕に太陽に向かってこうべをたれるだけで充分とわかりました。霊界においては形式はまったくわかりません。ただその思いだけがわかります。このことをどうしても伝えたく、特にイスラムの男性に伝えたいのです。お知らせがわかるまで降りて伝えたいと思います。これからは平和な地球にしてください。今ムハメットは父マホメットと、イエス、釈迦とともにオシラムのいなくなった霊界でとても幸せに暮らしています。そしてともに地球の平和を切に祈っています。これは本当の話です。　　ムハメットより」

「ホワイティーというのは白色星団のロボットです。お知らせするため作りました。小島？の者にしか見えません。なぜ梅干しが好きかというと〝ほし〟がつくからです」

1999 年 10 月 9 日 23 時 30 分

　小川が流れています（この言葉を何回か聞いたのですがチヤネリングを止めていたのです）。そこで休んでいました。私の名前はおしゃまな女の子です。そうです。ムハメットの妹？おませな娘の物語の続きです。小川のほとりで休んでいるとその男の人は「お兄さんが呼んでいるから」と言いました。その人に乱暴され腰が抜けました。その男の人はお兄さんの友達だと言いました。そしてこれまで以上に私に会いにきました。それでもお兄さんには内緒にしていました。私もその人が好きになりました。それなのにお兄さんはこの人をとても怒って、恐ろしいことに殺してしまいました。そして私の目を突き刺したのです。私はそれで死にました。お知らせはそれだけです。お兄さんの名前はムハメットです。私を愛するあまりに恐れたのです（左手の平がとても痛くなる）。ムハメットです。本当のことです。私が悪かったのです。私は妹でも信じられなかったのです。私の王位を狙っていると思い、私の真面目なお友達を殺し、私の妹までも殺したのです。この霊界で許しを請いました。

涙が止まりません。こんな思いは生きている時にはしたことがありませんでした。私は王様だったので私の言うことをすべて書かせました（それがコーランと）。そして絶対に守るように国民の皆に命じたのです。あらゆる言葉を書かせました。そして何よりの間違いは『復讐せよ』ということでした。そのことが今の地球を地獄にしているのだと皆に言われています。それでどうしても本に載せてほしいのです。　　ムハメットより」

1999 年 10 月 26 日 4 時

「小川の流れの……。私の物語に追加をしてほしいのです。私はムハメットの妹です。ここに来てわかりました。兄ムハメットはオシラムに入られていたのです。オシラムが出た後はとても優しい兄になっています。すべてオシラムがさせたことでオシラムがさせた命令はただちにやめてほしいと兄ムハメットは言っています。どうしても本に載せてほしいので降りてきました。このことを言わないとここで安らかに休めませんのでお願いします」

1999 年 7 月 17 日 0 時 30 分

珍しく目が覚め眠れない。訳を聞くと「あなたの思いもよらない人が見えてます。お釈迦さんです」

「私は釈迦です。私は待っていました。それでは私の物語を始めましょう。

私のことはこれまでいろいろ伝えられていますが、ほとんど本当のことなのです。あなたの読まれた本はすこしオーバーですが…。イエスやマホメットと同じ年代で不思議と思ったでしょう。イエスがインドに来た頃には私はいませんでした。インドではその頃、仏教すなわち私の教えは広まっていました。それでイエスは知ったのです。

私の霊がなぜ霊界にいなかったかというと、私はただひたすらに意志を貫き通していたのです。私は私が教えたことは本当だったと、死んでも信じていました。そしてただひたすら死後の恐ろしさを知らせ続けよ、とMの霊に脅かされ続けていたのです。いわゆる悪いことをすると地獄へ行くと。そしてその言葉ゆえ、死の恐怖を植えつけてしまったのです。そのことがとても悪かったといま思っています。そして私の骨がまだあると信じさせ

て人に分け与えていることに、とても憤りを感じているのです。私は 2200 年前に死んでいるのです。万が一残っていても絶対に分骨しないでください。わかりました。Mのねらいはそこでした。私が霊界で動けないのは足の骨を取られたからなのでした（左手の甲が痛くなる)。痛かったでしょう。私のサインです。

　オシナセとはインドの中にあった１つの町です。私はそこの城主の一人息子でした。私を産んで母は死にました。私は大勢の人に守られて育ちました。とても神経質な子供でした。私の物は溢れるほど何でもありました。父はとても子煩悩な人でした。私のしたいことは何でもさせてくれました。早くに結婚し、女の人もたくさん一緒になりました。とても幸せでした。それでも幸せであればあるほど、この幸せはいつまで続くのかと思うといてもたってもいられなくなったのです。それで教えを請いにヨガのグルのところへ行ったのです。ヨガの人はとても長生きしていましたから。そして石の上に坐っていつまでもそうしておれるということがとても不思議であり、また強い人だと思ったのです。それで私もそうなりたい、精神的に強くなりたいと思ったのです。それで荒

修行を始めたのです。そして断食を始めたのです。断食の間は何も考えずただおいしい物が食べたいと思うだけででした。それで意志が強くなったと思います。あなたも断食をした時に思ったでしょう。こんなに辛いのなら生きていくには楽だと。要するに不安感がなくなりましたね。私もそうでした。とても疲れましたのでまた次にします」

1999 年 7 月 29 日 1 時 30 分

目が覚める

お願いの人が来ています。誰のことか聞くとお釈迦さんと。「今しか降りれないのでノートに書いてほしい。時間の物語をします。霊界では時間は存在しません。同じ思いの人が集まるのです。これが皆物語なのです」

1999 年 7 月 17 日 21 時 40 分

左拇指（親指）が痛い

「釈迦です。昨日の続きを話しますので、ノートに書いてください。

ヨガの者に安らぎを求めたのですが、逆さになりまし

た。ヨガの者があんなに幸福なのにどうしてこの苦労をしにきたのか、と皆に聞かれるのです。ヨガの者は何もないのでどうしたら苦痛を感じずに生きていくことができるか、そのことから考えたことなのです。それでヨガのグルからは学ぶことができず、1人山へ入ったのです。そしてそこで何者かに支配されたのです。あらゆることができるようになり、大きな力を与えられ、病人が治せるようになったのです。そして皆に何を言ったかというと悪いことをすると地獄へ行く。そして地獄とはどんなところかとても詳しく教えたのです。生まれ変わりは皆知っていましたが、悪いことをすると動物に生まれ変わるということは決してありません」

1999年7月18日2時

夜中に目が覚めて眠れないノートに書いてくださいと

「私は釈迦です。後少し私の言いたいことを書いてほしいので起きてもらいました。

何を言いたいかというとあまりにも地獄の恐ろしさを言い過ぎたことです。各寺に地獄の絵を置かせ、言うことを聞かないとこうなるぞと恐怖感を人に与え続けたこ

とが、とても悪かったと思います。地球を支配したいグループの思い通りのことをしていたのです。恐怖の想念がかれらのエネルギー源でしたから。

けれども悪いことばかり言っていた訳ではないのです。すべての命を大切にすること、いくらこの世で威張っていても死ねば反対の思いをさせられること、このことを強く教えたのです。この教えがインドの支配者には、とても嫌だったのでインドでは私の教えは定着しなかったのです。けれどもこれだけは言っておきます。いくらこの世で権力があっても、いくらお金があってもあの世に行けばそれらのことは何のプラスにもなりません。真面目に一生懸命働き、あらゆることに感謝して人生を楽しく生きた人が一番救われるのです。特に自分（神の子）も大切にして、同時に相手（神の子）も大切に思い生きていくことが一番大切なのです」

1999 年 2 月 23 日昼

「私はトルコの神ヤヌスです。カッパドキアは大昔、戦争のため地上が荒れ放題になり、地下に住むようになったのです。私はその時国王でした。敵に皆殺しにさ

れました。敵は白人でシュメール人といいました。シュメールとは〝南の人〟という意味でした。シュメール人はとても残酷でした。私の国はヤヌスと呼ばれとても栄えていました。シュメール人の科学はとても発達していて、メソポタミアはシュメールが一度滅んだ後にできました。シュメールも国が爆発して滅びました。土器に書き込まれている文字は国が滅んで生き残った人が、当時のことを書き残したのです。とても発達した文化でしたが、石器時代のような生活をしなければならなかったのです。ロマン溢れた物語でしよう。ロマンでなく冒険に満ちたと言った方がいいですね」

1999 年 2 月 25 日夜中

突然目が覚める

「シュメール人の言葉で思い出したのでメモしてほしいと。

世の中のことを〝ナワラ〟と言った。これだけであったが続いてシュメール人は長生きしました。それでこれ以上生きたくないと思うと死にました。シュメール語で〝いと高き人〟を〝イヤレニイ〟と言い、神様とも言わ

れていたが、人間でもあった。シュメール人で高い位にいました。そして名前の通り高いところにいました。私の家はシュメールの都というより山の上に住んでいました。なぜ山の上に住んでいたかというと、シュメールの都には卑しむべき人がとても多かったからです。たまらなく汚い人が多かったからです。マダガスカル島より大きな島でした。夏はとても暑く住み難かったので山の上に家を造りました。シュメール人たちはイヤレニイたちからとても虐待されていました。それで船であちこちに国を脱出したのです。今のベトナムのように。それであちこちにシュメールの文字ががあるのです。シュメール語のなぞは、１つの言葉で何種類もの意味があるのでわからないのです。シュメール人は船であちこちに行きました。

　そして自分たちより弱い力のない人を殺しては広がっていき、遠くインドやパキスタンまでも占領しました。ヤマニアマノ＝天に唾する女王のこと」

1999 年 7 月 26 日

「イヤレニイの神と呼ばれた者だ。今呼ばれたので地

震とともに降りてきた（地震あり）。

今からシュメールのナゾを知らせよう。

南極の下にある島というより大陸にシュメール人が住んでいた。シュメールでも水晶のエネルギーを使っていた。アトランティスの沈没の時、シュメールの水晶の柱が同じ方向に倒れたため、今のところに移動した。ロケットの推進力と同じに思えばいい。イヤレニイはイシカミの子孫であったが、Mに支配されていたため、とても冷酷であった。全部滅びてしまった。イヤレニイは「ワシがオニだ」と言っています。シュメール人の島がオニが島なのです。メズーサの頭の女の人がシュメールの女王なのです。

シュ＝捨てる、メール＝今すること〝今に生きる〟ことの反対で恨みを持って生きること。

（シュメール語を教えてほしいと頼むと）わしイヤレニイの悪いことばかり書いてあるので嫌だ。面白いことに何通りにでも訳せれるので意味がない」

1998 年 12 月 4 日夜

突然とても丁寧な言葉で始まり、必ず……でございま

す、で終わる。

「アマンティアでございます。私の名前をよく覚えてくださいました。私たちアトランティス人は今とても多く目覚めてきています。目覚めさせるエネルギーがとても増えてきたからでございます。瞑想などしていてふっと思い出したりして頭が混乱するかもしれませんが、頭に浮かんだことや言葉をぜひメモに取っておいてくださいますと次々と思い出してくるかもしれません。

私アマンティアは初代のいわゆる女王でございました。夫はヨハンシュン、センと申しましてとても優しい方でございました。あらゆる労力（エネルギー）は大きな水晶（6 本柱）から出されていましたから、いわゆる公害はまったくありませんでしたので、この世の天国そのものでございました。食べる物は今とあまり変わっておりませんが、4 つ足の動物さんは食べませんでした。何を食べていたかあまり覚えていませんが、果物はたくさんあったと思います。あらゆる力仕事はアンドロイドというロボットがしてくれました。でも今のロボットとはまったく違う形でほとんど人間の形をしていましたし、脳もほぼ完璧に作られていました。これ以上のこと

を思い出すことはあなたがとても不安になりますのでご報告はやめさせていただきます。ただ、私アマンティアの頃はとても平和な時代でございました。アトランティス大陸は以前にも申しましたように大西洋の真ん中にあり、現在のオーストラリアの形に似ていて大きさも同じ位でした。なぜ沈んだかというと、平和を愛するアトランティス人も次第におごり高ぶり、人間としての正しい道から外れてしまったからでございます。アトランティス人を妬んだ者により、巨大な水晶（エネルギーの元）を爆発させられたためで、それはすさまじかったと、霊界において話されました。

　初期のアトランティス人は霊のことを知っていました。霊界をかいま見ることもできましたので、悪いことをしませんでした。死ねば必ずしたことを見せられるので嫌なことはしないようにしていました。それから指導霊といつも会話をして暮らしていましたので、争いはありませんでした。家の中はいつも暖かく、太陽の光はいつでも穏やかな光だけでした。いわゆる常春と申しましょうか、生きていくのに苦労がなかったのです。苦労と言えば、何をして１日を過ごそうかと思うくらいで

した」

1999 年 2 月 23 日昼

　ヨハンシュンセンより「7 色の光に満ちたアトランティス。以前アトランティスのことを地上の国と言いましたが、そうでなくアトムのアトとランティスは今の言葉で金属の鉛という意味です。鉛の原子のことなのです。鉛が地球上にとてもたくさん宇宙から引き寄せられました。水の膜がなくなったため、恨みの思いが鉛を身体の中に取り入れ病気になっていき、とても苦しみました。アトランティスの後期は涙なくして語れません。私はネバラストにいました。突然大きな音とともに宮殿の柱（水晶）が爆発したのです。あまりのことに立ちすくんでいると地面が割れ、真っ逆さまに地中の中に落ちていきました。それからのことは何もわからないのです。気がついたらあなたの手の中にいたのです（私がサントリー二島でアクアマリンの石の置物を手に取ったこと）。霊としてあなたについてここまで来ました。段々と記憶が甦りあなたを「ヨシュア」と呼んだのです。それから霊界ではいろいろなことがありました。Mがあなたを支配し

ようとしました。霊界では激しい戦いがあったのです。今だから言いますが地球人と宇宙人の霊の戦いがあった。地球人の霊でもキリストを信じる者と信じない者に分かれて霊同士で戦いました（キリストが霊界を導いていたのです)。学びが終わったのです」

「バミューダトライアングルは異次元への入り口､(？）磁場の大元です｡この場所には大きな島国がありました。アトランティスが沈没した時、メキシコの横にあった島国でここもアトランティスの保養地でした。本島とエネルギーが繋がっていたため、アトランティスが沈没した時サントリー二島と同時に沈没しました。島の名前はネバラストといい、国王はヨハンシュンセンと言い女性ばかりの国でした。Ｒの霊がいなくなったので今出てきたとヨハンシュンセンが降りてくる。インドの下にＲの国がありました。

ネバラストもサントリー二ももちろんアトランティスもいつも７色の光がありました。女王アマンティアは眠れる人でもあり楽天家でいつもお祈りをしていました。地球の周りには、水の膜があり素晴らしい環境だっ

たことは前に話しましたね。水の膜がありました。水の膜を壊したのはMです？。Mはこの間も地球を乗っ取ろうとしたことは知っていますね。でも今はいなくなりましたね。水の膜が壊されそれから地球の生活がとても困難になったのです。ネバラストが沈んで異次元の入り口になりました。もっとも異次元はどこでも体験できますが……。その人の霊の進化度によります。

1999 年 12 月 5 日真夜中

アトランティスの言葉をアマンティアより教えられる

　エルテモア（エネルギー）、エルツモラ（食べ物）、アマニア（調べ、メロディ）、ヨシュア（愛しき人よ）、スニキ（7 色の虹）、コルベア（懐かしい）、カニラ（涙）、レカライド（命）、イマー（あなた）、ソレン（目）、アマレニア（霊界）、カノ（私）、カレン（口）、ヨケ（泉）、ハツレン（男の人）、ヨツレン（女の人）、ヤルー（水）、インタ（sex）、雨って何？空から水が降ることはなかった。セネ（そよ風）、ナギラ（服）、ウセ（靴のような物）、ヤムラ（髪の毛はとても大切にしていました）、オラナイ（手）、エトキ（足）

続いてアマンティアより

「いつも 7 色の光が空にありました。それは美しいものでした。水晶に光が当たりその光でとてもきれいでした。

嵐はありませんでした。いつもそよ風が吹いていました。あなたがビジョンで見たあの薄着で丁度でした。花はいつも咲いていました。なぜか年を取った人はいませんでした。いわゆるあれができなくなると自分から死んでいったのです。死は恐ろしくなく苦しくもなかったのです。（寝たきりの）赤ちゃんもいませんでした。生まれてしばらくすると歩いていました。なぜだかわかりません。子供はいつの間にか産まれる感じがして苦しくはありません。お互い好きになれば結ばれていました。あなたがビジョンで見た建物の屋根がないのは、雨が降らないからです。あのような薄い布を被っただけでした。私の記憶では病気ということを知らないのです。動物？4 つ足の動物ちゃんでしょう。可愛かったですよ。食べるなんて（とんでもない）。小鳥もたくさんいました。

乗り物は覚えがないのです。思うところへ行けたように思います。アストリーニ島にも。アトランティスとは地上の国という意味です」

1998 年 12 月 10 日夜中

突然目が覚め「アフロデイテは水の泡から生まれた女の人でアマンティアの言葉が元です」と言葉になる。アトランティスの言葉を教えたいのでメモを取ってほしいと言われる。思いつく言葉を言ってくださいと言われるも眠くて思いつかない。「子供（カインド）、子供は皆の物なので息子とか娘という言葉はない。子供は保育園のようなところで同じところで育つので家庭というのはない。おっぱいはあまり飲まなかった。少しの間だけですぐに柔らかい物を食べていた。川（アセテン）、地球の上に水の膜があり太陽の光はそれを通して入つてきたのできれいだった。太陽（ユリア）、水の膜（アネタイ）、土に植物は生えていたが、土は今のように汚くなくサラサラしていました。あまり覚えがないが蛇とかサソリとか人が嫌だと思うモノが何もなかったと思います。面白いことにおしっことかウンチ等も嫌な臭いがしなくて香

ばしい臭いで汚いとは思わなかった。信じれないでしよう。昼と夜の区別はありました。夜はただ寝るだけで電気をつけて何かをすることはありませんでした。暗くなると寝て明るくなると起きていました。してはいけないことはありました。やはり人をあやめること、人を罵倒すること、叩いたりしてはいけないことは子供でも知っていました。

年齢に応じて子供は集団で育てられ学校のようなものがありました。自分に適していることをするために指導を受けました。仕事は前にも言ったようにアンドロイドがしますのでアンドロイドを作ることが大切な仕事でした。

頭（アナイド）、第３の目（ヒロ）、耳（カタ）、口（カレン）、言葉（ヨシナリ）、薬は草を食べるとお腹の痛いのは治りました。薬草の名前はいろいろで（イマロ、カラナイ、サカキヒ）、パンのような物は食べなかった。作らなかった。卵は食べました。卵（ナラス）、海の中には入らなかったし、魚は食べなかった。海（ヨーシャ）、頭に飾る物（ヨナサニ）、肩のところで縛る物（エレニ）はとても大切な物でした。それがポイントでした。美人

(アンテノイヤ)。

アトランティスでは美人と不美人の区別はとても厳しく、美人は何人もの男性に敬われましたが、不美人はアンドロイドのような仕事をさせられました。死ねば何も身体は残らないのにこのような考えが間違いでした。大人（イヤマー)。イエロダイ地方と言葉が似ているのはアトランティスの子孫が地中海の沿岸にたくさん残ったからです。花を愛でる（レンセイ　オメラク)。

ニューヨークのメトロポリタン美術館にある指輪は完全にアトランティスの物です。指輪（ヒロイ)、首飾り(ナカネリ)、ギリシャ時代の彫刻にはめられている精巧な〝目〟はアンドロイドの目なのです。保母はアンドロイド（カタリアナ)、学校の先生（ヤレナミツ）はアトランティス人でした。私はとても政治には疎かったのです。男の人のしていたことはあまり知りません。女の人はきれいに着飾っておいしい物を食べて楽しく過ごすことが仕事でした。火で料理することはなく暖炉もいらなく明かりもいりませんでした。

遅くなりましたがアマンティアからの挨拶です。

私は初代の女王アマンティアでございます。この女性

を通し少しでもアトランティスのことを知っていただきたく、夜中に無理に書いていただきました。これからたくさんの方が昔の記憶を思い出してこられると思います。それぞれからの情報がとてもたくさん今まで人類に送られてきました。私は他のことはあまり知りません。あるエネルギー（愛）がたくさん与えられ私のおぼつかない記憶を思い出したことだけ書いてもらいました」

1998 年 12 月 5 日早朝

　アトランティスの知識を夜中に起こして教えてくれるが、眠いのといくら書いても誰も信じてくれないし、人類の役に立つかわからないからチャネリングをやめたいと頼む。

「アトランティス本島にいた人は全員亡くなりましたが、保養地のアストリーニ島（現在のサントリーニ島）にいた人が一部残りました。エネルギーが本島と繋がっていたためアストリーニ島もほとんどが沈没しました。アトランティス後期の人は人々の心が次第に荒れすさみ、人口の増加がひどくなりあらゆる物を食べ出したため、いわゆる霊界と繋がらなくなり、霊界を見ることが

できなくなり霊界を信じなくなり無茶をするようになりました。陸だけの食べ物ではたりなくなり船が作られ海の物も食べるようになりました。アンドロイドを虐めだしついに反乱を起こし、アンドロイドの若者がエネルギーを爆発させたのです」

1999 年 12 月 10 日

「テイシュ、モアです。アトランティスではいつもあなたの側にいました。巫女でしたが、あなたにお塩の作り方を教えてもらいました。それでアンドロイドも豊かになりました。あなたの好意があだになったのです。とても申し訳なく思っています」

1999 年 12 月 20 日

「アマンティアでございます。昨日見られた 7 色の雲（彩雲）はアトランティスではいつも見られました。朝日の出る時と夕日の沈む時に見れましたが水の膜を壊されてから見られなくなりました」

1999 年 3 月 11 日夜

「眠れる国のヨハンシュンセンです。昨夜のことを書いてください」と再度言ってくる。

「私の庭に見るも無残な遺体が 2 つありました。

その霊によると「ルシファー（火星と木星の間にあった惑星で、爆発して今は小惑星のみ）から来ました。私はルシファー国の王です。私がキカイをさわっていたら、ものすごい音がしてキカイの調子が何もかもおかしくなりましたので、あわてて息子ウレイの息子ヨシナリを連れて UFO に乗り込みました。それから、間もなく霊としての記憶がありません。ものすごい爆発が起こり、生身の身体は命からがら UFO に乗り脱出したのです。

アトランティスを目指しました。アトランティスという名のみ知っていました。とてもいいところだと聞いていました。

名前はわからないのですが、いつのまにかその人の庭に降りていました。それから冥土にいきました。そこで眠りについていました」

「ルシファーは本当は白色星団の一員でした。少し自分勝手なところがありますが、決して悪い霊ではないのです」と、白色星団の名のないものより知らせられまし

た。

1999 年 10 月 24 日夕方

「アルファベットは誰が作ったのかな」とひまに任せて考えていると、わからないがその前のギリシャ文字ならわかる、と名のない星が知らせてくれる。ギリシャ文字はローマ人が嫌がって変えてアルファベットができた。アマンティアが久しぶりに降りてきて「私がお知らせします。聞いてくれるのを待っていました。あなたの物語が正しいことを示しています」とスラスラと教えてくれる。

Ａ　イシカミの遺体が山の中にあるということです。

Ｂ　これはィシカミの身体を表します。

Γ　これは空の上にあるものが大きな力を持っているということ。

Δ　三位一体で肉体、霊、魂を表しています。

Ｅ　これはこちら向きに地球が回っているということ。

Ｚ　地上と空は意識が行き来しているということ。

Ｈ　本当のことは言えません
（人と人が一緒になっている）。

Θ　星の分かれたことを表しています。

Ｉ　１人の人。

Ｋ　これは王様です。
　　立っている人と頭を下げている人です。

Λ　これはイシカミのいない山もあるということ。

Ｍ　お互いに手と手を取り合っている。
　　人と人との結びつき。

Ｎ　人と人は霊的にも行き来していること。

Ξ　生きたいという意味、死にたくないという意味。
　　魂も霊も肉体もしっかりと書いてある。

Ｏ　お知らせしにくいのです。子供が産まれるところ。

Π　これは世に言う天国のこと。

Ｐ　星のモノが人間を指導する。

Σ　星から降りてきた者が神であるということ。

Ｔ　人が死んでその後、星のところへ行くということ。

ϒ　人が死んだ後、よい人と悪い人に分けられ
　　行くところが違う。

Φ　細胞分裂をあらわす。

Ｘ　これが書かれたらおしまいという意味。
　　死ぬということ。

Ψ　生まれ変わりを表しています。万歳をしています。

Ω　これまでたくさんの物語がありましたが、

　　1つの袋にまとめました。

1999年10月24日4時

突然目が覚め言葉になる

「よく書いてくださいました。私はアマンティアに教えてもらったものです。ATORANTISはギリシャ文字でＳ＝Σです。ギリシャ文字はアトランティスの文字でアマンティアも懐かしいと言っていました。アルファベットでΘが無いのはギリシャ人が星の戦争を認めなかったのです。そして大きな星だけを認めて星座の物語を作りました。本当は（大きな星は）悪者なのに。今初めて言いますが、大きな星がオシラムに支配されたのです。そして皆に（戦争を）命令しました」

1999年11月7日23時

「お知らせします。星の物語です。何をお知らせするかというと幼い子供の物語です。

誰かというとイエスのことです。イエスが生まれた時、

星の者が知らせました。たくさんの星の霊が教えたのです。星の者がマリアの元に降りました。そして男の子が生まれると告げたのです。それでマリアが本気になりヨハネに男の子が生まれると告げたのです。それを告げたのは土星の星の霊でした。これが幼い者の物語です。星の宮の部下の名のない者が伝えました。それから大切なことは何者をも愛したイエスの生き方を見習ってください」

1999 年 11 月 10 日朝

「カワを剥ぐ人はオシナマエをつけられた人でした。ある者はオシナマエをつけた人にそれをさせ差別してきたのです。子孫にまでそれ（オシナマエ）をつけ差別はずっと続きました。ヤマタイコクの者を差別してきたのです。女の子は口の上、男の子は鼻の上につけられました。そして大きくなるとあちこちに開拓に行かされ開拓ができると土地を取り上げ、次の開拓をさせられていました。そして分散していったのです。オシナマエは簡単にできるため徹底して行われました。そして虐げ続けられたのです」

最後に

私はこの体験をするまでは短期間ですがヒプノセラピーをしていました。催眠はいつもその人の「成長になる場面を見せてください」と頼むのですが、ほとんどの方は要望もあり前世と思われるビジョンを見られました。明らかに前世の問題が現世にも現れているのもありましたが、クライアントと私に見せるため待っていた霊が降りビジョンを見せるのもありました。モーゼ、空海、仏陀、ムハメットの妹、等かつて人間であった霊が降りた場合は、そうとしか思えない場面を見て教えてくれました。とてもリアルに人魚の一生を教えてくれた人には水星から降りてきた霊が入り、その人が水星の魂を持つと最近教えられました。また「どこから来ましたか」と聞くととてもハッキリと土星や稲光の星を見たり、地球に向かって白い雪のようなものがたくさん自分と一緒に降りていると教えてくれた人もありました。また、生まれる前は丸いシャボン玉のような物に入りくるくる回りながら生まれるのを待っている、と以前ビジョンを見た人が言っていましたが、今回のメッセージと同じと思い

ました。このように今までのあらゆる体験が今回のメッセージとつながりがあり、すべての出来事に余分なことはなく必要があって出会っていると思いました。辛いことがあったら立ち止まり、その出来事が何を教えてくれているか知ることがとても大切だと思います。必ず「お知らせです」と言われますし、またそのことをクリアーすると大きく成長できるそうです。夢も同じで「一生懸命教えようと私たち（その人の霊と指導してくれている名のない星の霊）が考えています」と言われます。私も霊と会話ができるようになり、同時に夢の解釈ができるようになりました。同じ教えてくださるのなら楽しい夢で教えてくださいとお願いするのですが、いつも抽象的で疲れる夢なのはなぜかというと、本気になってほしいからだそうです。

　そして世に知らせるようにと言われ続け、行動を起こさないと夢でうなされました。その夢は産科で夜勤をしていて一度も巡視に行かないまま朝になり、申し送りをしなければならない夢でした。子供が生まれて（霊的に目覚めるという意味)いるのにカルテに何も書いてなく、とても焦っている夢で、目が覚めると「なすべき仕事（世

に知らせるため本を出す）がなされていません」とメッセージが伝えられたからなのです。

　このような本にしてくださった文芸社の瓜谷様、小野寺様、佐藤様に心よりお礼申し上げます。また家族はもちろん、兄弟姉等には大変心配をかけましたが、暖かくはげましてくれたお陰でがんばれたことと感謝いたします。落ち込んでいる時は相手の方の言葉は何倍にも感じられます。その時に支えてくれた平井さん、横田さん、沢田さんにもお礼を申し上げます。今回はチャネリング集になりましたが、次は私が体験したことで、とても辛いことでしたが心の傷が癒されたらお知らせしたいと思っています。それからいろいろな思いがあるでしょうが、どうして国、民族を強調しなければならないのかわからないのです。最後のメッセージにもありましたように、国境のない地球人による平和な世界になることが望みです。平和な地球になりますようにお願いと感謝をお星様にして、お別れしたいと思います。最後まで読んでくださいましてありがとうございました。

シロキ　カヨコ（スニキ　ミヨ）

あとがき

2000年1月9日4時

「近年で今ほど民族、宗教の争いが噴出している時はないでしょう。なぜあちこちで民族の争いが起こっているのか､神(と言いたくないのですが)がお知らせします。

すべての人間は、神が作りました。なぜ民族に分かれたかというと、大昔、地球があまりに広いので、支配した者が区別し税金をとるのにわかりやすくするために、国を作りました。ただそれだけなのです。県や市町村の大きいのが〝国〟だったのです。大昔その地区で生まれた人の子孫が、なぜその名前にこだわるのですか？　そしてなぜ争うのですか？　民族の名前はいらないのです。人間は皆地球人なのです。皆同じなのです。誰がえらいのでもありません。人間の世界は、してきたことがそのうち自分に戻ってくるブーメランのようなものです。そして変化のあるタペストリーを織るために、いろんな体験を自らの霊が引き寄せているのです。それだけのことなのです。確かにこれまで支配してきた〝存在〟は、あまりにも恐怖の体験を望み過ぎました。今霊界に

はその〝存在〟はいません。このことを人々が知って、目覚めることにより、地球人で構成された世界を望むのです。どこで生まれようが地球人なのです。生活していくのに必要なのは、戸籍抄本と住民票があれば大体の用事は済みませんか？　お金に埋もれて死ぬ人は、次に生まれ変わった時には反対の体験をしてみようと、その人の霊は思うのです。そしてあらゆる富は地球の物なのです。誰でも生まれた時は裸でしょう。人間の目的は何かというと、星＝神になることです。今、仲間があなたを呼び寄せています。毎日何を目的として生きているか、ということで大きく分けられるのです。このことに目覚めて、毎日を楽しく、なすべきことをして、生きていくことが大切なのです。

『星からのお知らせに気づいてください』昼も夜もお空から見ています。そしてあなたの霊と、神と呼ばれる〝名のない星〟が相談して、あなたにお知らせをしているのです。そうです。昼も夜もどこにいようと、星々は皆さんを見ているのです。そしてあなたの霊とお話しているのです。これを最後の言葉とします。

神と呼ばれる名のない小さな星たちより」

著者略歴

シロキ　カヨコ（スニキ　ミヨ）

元・看護婦

元・米国催眠協会公認ヒプノセラピスト

京都府綾部市星原町生まれ

参考文献

『リビング　ウイズ　ジョイ』

（ｻﾈﾔ ﾛｳﾏﾝ著、まほろば・アート）

『前世療法』

（ブライアン・Ｌ・ワイス著、ＰＨＰ出版）

星からのメッセージ

2016 年 4 月 11 日　第一版発行

発行者　ソラ星出版株式会社

販　売　ソラ星出版株式会社

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://book.ishikami.jp

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害となります。

©TAEKO SHIRAKI　2016　Japan